Z H2

モーターサイクル

取 扱 説 明 書

⚠ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

Kawasaki
Let the Good Times Roll

お車には定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、タイヤ、ブレーキパッド、ホース類等）があり、その点検は法により義務付けられております。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

ご愛用の皆様に

カワサキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいたお車の正しい取り扱い方、安全な運転の仕方、簡単な整備の方法等について説明してあります。

より快適に、より安全にお乗りいただくために、この取扱説明書を是非お読みください。また、メンテナンスノート、セーフティハンドブックも是非お読みください。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。最新の情報は、カワサキウェブサイトのオンライン取扱説明書から閲覧可能です。

[取扱説明書]
https://pws.ktivs.net/dispeBook?file=99817-0119&manual_kind=OM&lang_code=JA&mark=ZR1000RV

998170119JA

お車の受け取りの際には、お買いあげいただきましたカワサキ正規取扱店より「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティハンドブック」 を受け取り、下記の説明を必ず受けてください。

- お車の正しい取り扱い方について
- 保証の内容と保証期間について
- 保証書の発行方法について
- 初回点検について
- 日常点検、定期点検整備について
- 車両の確認とお受け取りの署名について

- 車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更等により図や内容が一部実車と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- この車は、運転者を含めて2名まで乗車できます。
- この車は排出ガス規制適合車です。

本書では正しい取り扱い方法および点検・整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

⚠ 危険

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が大きいと想定される場合を示しています。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

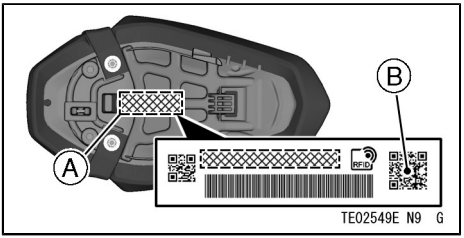
注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

アドバイス

○ 製品の操作や整備に関連して知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

シート裏側にある車両情報ラベル右側のQRコードを読み取ることで、お車の情報をご確認いただけます。



A. 車両情報ラベル
B. QRコード

アドバイス

○ QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

カワサキモータース株式会社
株式会社カワサキモータースジャパン

© 2026 カワサキモータース株式会社

目次

安全運転のために **10**
主要諸元 **21**
各部の名称 **25**
エンジン番号・車台番号 **29**
メータの見方・使い方 **30**
メータユニット 30
画面タイプ1 31
画面タイプ2 32
背景色の切り替え 33
光度センサ 33
インジケータ 34
インジケータ初期動作 35
警告インジケータが点灯または点滅したとき 36
その他のインジケータ 40
スピードメータ／タコメータ 41
機能 42
ギヤポジションインジケータ 42
シフトアップインジケータ機能 42
インテグレイテッドライディングモードインジケータ 43
燃料計 44
クルーズコントロールシステムインジケータ 44
KQSモードインジケータ 45
Bluetooth®接続インジケータ 45
外気温計 47
ECO走行インジケータ 48
マルチファンクションゲージ 48
加速度／減速度インジケータ 49
リーン角インジケータ 50
サービスインジケータ 50
操作ボタン 51
マルチファンクションディスプレイ 52
メニューモード 62
車両設定（Vehicle Settings） 63
画面表示（Display） 67
日付と時刻（Date and Clock） 69
サービス（Service） 73
ブルートゥース®（Bluetooth） 78
表示単位（Units） 82

スイッチの使い方.....**86**
イグニションスイッチ..... 86
イモビライザシステム..... 88
ステアリングロック..... 90
左ハンドルスイッチ..... 91
(A) ディマ／パッシングボタン..... 91
(B/D) 上MODEボタン／下MODEボタン..... 92
(C) ミドルボタン..... 92
(E) ホーンボタン..... 92
(F) ターンシグナルスイッチ..... 93
(G) ハザードボタン..... 93
(H) RESETボタン..... 93
(I) クルーズコントロールボタン..... 94
右ハンドルスイッチ..... 94
(A)エンジンスタート／ストップスイッチ..... 94
(B) SELECTボタン..... 95
各部の取り扱い方.....**96**
サイドスタンド..... 96
ブレーキレバーアジャスタ..... 96
クラッチレバーアジャスタ..... 98
シート..... 98
同乗者用シートの取り外し..... 99
同乗者用シートの取り付け..... 99
運転者用シートの取り外し..... 100
運転者用シートの取り付け..... 100
ヘルメットロック..... 102
ヘルメットロックの使い方..... 102
荷掛けフック..... 102
ツールキット..... 103
バックミラー..... 103
調整方法..... 103
エアインテーク..... 104
アクセサリコネクタ..... 105
サスペンションセッティング..... 106
フロントフォークのセッティング..... 107
リヤショックアブソーバのセッティング..... 110
リヤショックアブソーバの取り扱い方..... 112
セッティング表（ZR1000P）..... 113
セッティング表（ZR1000R）..... 116
ETCの取り扱い方(ETCを搭載している場合).....**117**
ETCとは..... 117
ETC2.0の情報提供サービス..... 117
ETCを利用するには..... 117

ETC利用上の注意 117
車載器各部の名称..... 122
(A) ETC車載器本体 123
(B) 呼吸穴..... 123
(C) カードソケット..... 123
(D) 耐振ゴム..... 123
(E) カバー..... 123
(F) 銘版..... 123
(G) バックル..... 123
ETCカードの挿入 123
ETCインジケータの表示について 126
ETCレーンでの注意 127
故障かなと思ったら..... 129
燃料の補給.....**132**
ガソリンの補給..... 132
正しい運転操作.....**136**
エンジンのかけ方..... 136
ならし運転..... 138
走り方..... 139
シフトダウンの仕方..... 140
ブレーキの使い方..... 141
ABS 142
KIBS..... 144
エンジンの止め方..... 145
エンジンの非常停止..... 145
駐車の仕方..... 145
インテグレイテッドライディングモード 148
ライダモード (RIDER) 149
KTRC..... 157
KTRCインジケータ 158
KTRCモード 159
パワーモード..... 159
KECS..... 160
減衰力 160
クルーズコントロールシステム 160
KQS 164
シフトアップ 164
シフトダウン 165
KLCM..... 165
KCMF..... 167
慣性計測装置 (IMU) 168
点検整備について.....**169**
簡単な整備 **171**
ブレーキ液量の点検..... 172
ブレーキライトスイッチの調整 173
クラッチ液量の点検..... 174
エンジンオイルの補給..... 175
冷却液..... 178

冷却液の作り方 178
冷却液の点検 179
冷却液の補給 180
スパークプラグ..... 181
エアクリーナ..... 182
エレメントの交換 182
オイルの排出 186
スロットルの点検..... 187
アイドリング回転速度の調整..... 188
ドライブチェーン..... 188
給油 188
たるみ点検 189
たるみ調整 190
タイヤ..... 193
空気圧 193
亀裂と損傷 194
異常な摩耗 195
溝の深さ 195
バッテリ端子部の清掃..... 196
バッテリの取り外しおよび取り付け方..... 196
バッテリ端子部の清掃 197
ヒューズの交換..... 199
車のお手入れ.....203
洗車..... 206
長期間の格納..... 208
環境保護について.....210
DFI自己診断システムコネクタの位置 213
車両情報の記録に関して.....214
万一の故障に備えて.....215
イベントデータレコーダ 217
お客様相談室.....219
リコールについてのお願い 221
適合宣言.....222
バッテリに関する補足情報 224
バッテリ全般に関する情報..... 224
ボタン型電池の追加情報..... 228

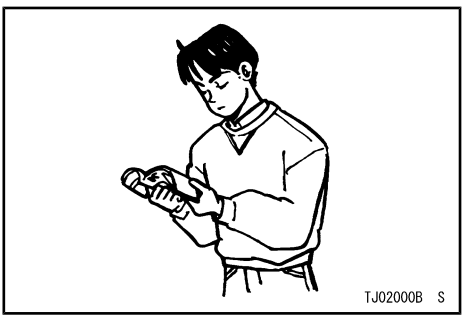
安全運転のために

ここにあげた項目は日常の走行上非常に基本的なものです。これらのことを守って安全運転および上手なオートバイ操作を心がけましょう。

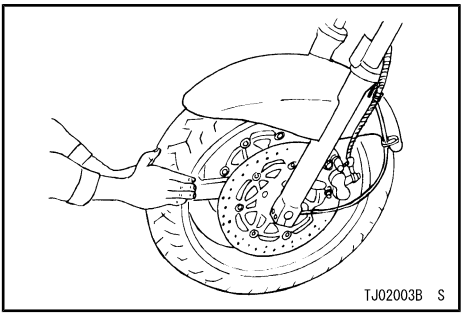
車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。
車に乗るとき、いつも心がけねばならない重要な注意事項を書いた“安全項目ラベル”が車に貼ってあります。これらの注意をいつもお守りください。

運転する前に

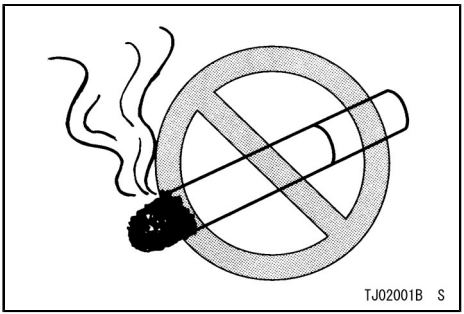
- **取扱説明書をよく読んでください。**
  車の取り扱いをよくご存じの方も、この車特有の構造や取り扱い方がありますので、この説明書を必ずお読みください。



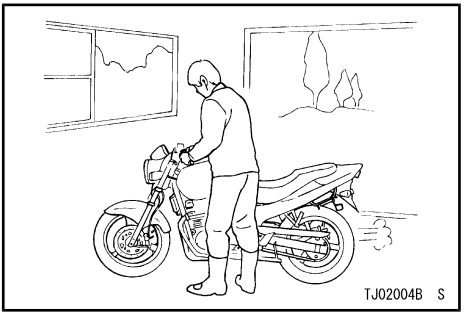
- **日常点検を必ず行ってください。**
  車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。日常点検については、メンテナンスノートの“日常点検”をご覧ください。



- **定期点検を必ず行ってください。**
  定期点検については、メンテナンスノートの“定期点検”をご覧ください。
- **ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。**



- **排出ガスには、一酸化炭素等の有害な成分が含まれています。エンジン始動、暖機運転は、風通しの良い場所で行ってください。**



服装

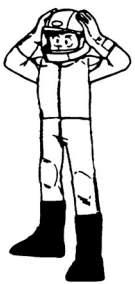
- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。
  - ヘルメットは正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください。
  - ヘルメットは二輪車用でPSCマークのあるものを必ずお選びください。頭にしっくり合って、圧迫感のないものをお選びください。
- ヘルメットにはフェースシールドを取り付けてください。取り付けできないときは、ゴーグルを使用してください。
- 手袋を着用してください。手袋は、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- 可能な限り身体の各部（胸、肩、背中、ひじ、ひざ等）を保護する機能のあるライディングウェアを着用してください。または、身体各部を保護するプロテクタを装着してください。
  - 身体の露出が少ない長ズボンと長袖のジャケットを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。

– 動きやすい服を着用してください。
– すその広がったズボンや袖口の広い服は、ブレーキやクラッチ、チェンジ操作の邪魔になり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
– 被視認性の観点から、明るく目だつ色の動きやすい服を着用してください。

● 靴は、ブレーキ操作やチェンジ操作のしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆う、足にあったサイズのものを選んでください。

⚠ 警告

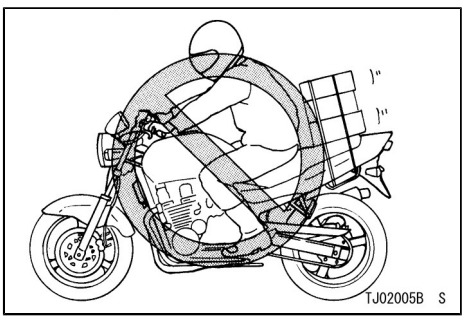
● ヘルメットは正しく着用してください。正しく着用していないと、事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。
● 運転者と同乗者は乗車時、ヘルメット、保護具および保護性の高い服を必ず着用してください。



TJ02002B S

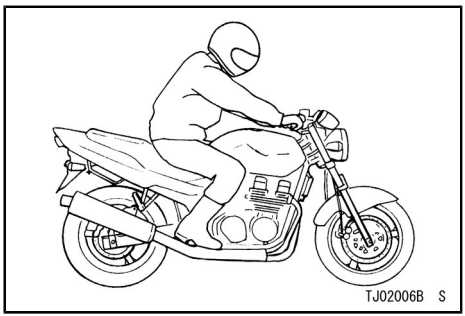
荷物を積むときは

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積むときは、**“積み過ぎない”、“荷物をしっかりと固定する”**等充分注意して、安全に走行してください。



乗り方

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。



- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足は必ず、同乗者用ステップに乗せさせてください。
- この車の乗車定員は2名です。なお、次の運転者は法令により2人乗りすることはできません。

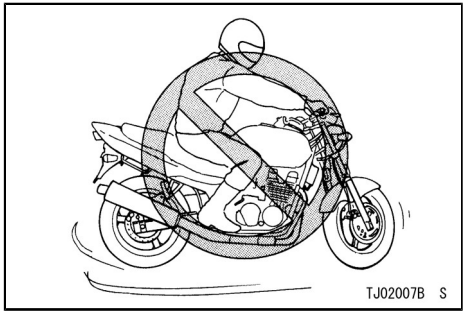
一般道路

免許取得後1年未満の運転者

高速道路

免許取得後3年未満の運転者、20歳未満の運転者、または2人乗り運転が禁止されている区間

- **急激なハンドル操作や片手運転は横すべりや転倒の原因となります。絶対におやめください。**



駐車するときは

⚠ 警告

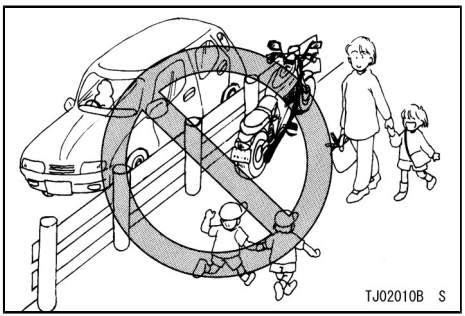
可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

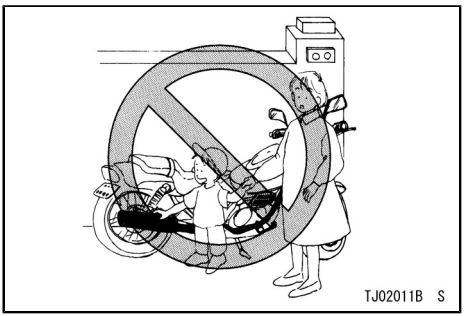
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

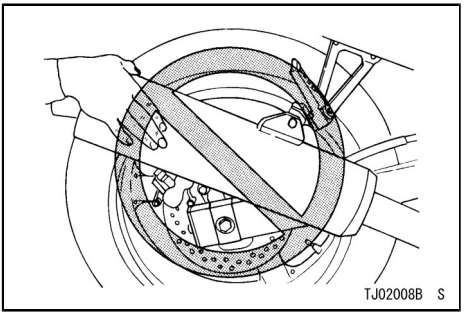
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

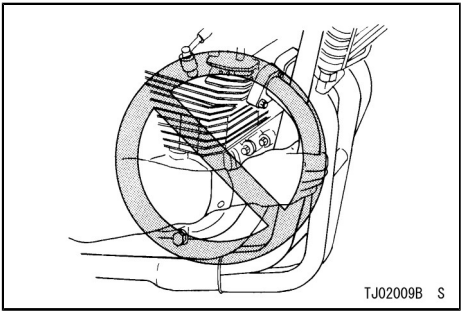
- 車は水平でしっかりとした地面の場所に駐車してください。やむをえず傾斜地や柔らかい地面等の不安定な場所に駐車するときは、車の転倒、動き出しのないよう、安全処置に充分留意してください。
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。



- エンジン回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車してください。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは、他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。







洗車後や水たまりを走行したときは

- 洗車後や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
- ブレーキの効きが悪いときは、周囲の交通状況に充分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

タイヤ

- 異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の走行安定性に悪影響を及ぼしますので使用しないでください。

調整

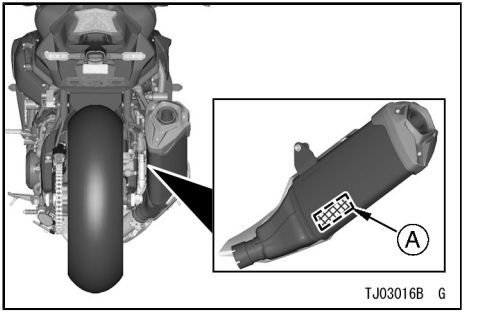
- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジンの調整はカワサキ正規取扱店におまかせください。

触媒装置

- この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の有害物質の排出量を低減します。
  触媒装置の適切な使用のため、下記の注意点をご確認ください。

改造

- **車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。**
- **車を改造することは法律に触れることは勿論、他の人への迷惑行為となります。**
- **他のマフラをこの車に取り付けますと、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラを交換する場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。**
- **マフラには、カワサキ純正部品を表わす"Kawasaki"マークが刻印されています。**



A. Kawasakiマーク

⚠ 警告

可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

昼間もヘッドライトオン

- この車は、エンジンが始動してエンジンスタート／ストップスイッチを放すと、ヘッドライトが点灯するデイライトシステム（昼間点灯システム）を採用しています。

注意

- **イグニションスイッチがオンのまま、またはエンジン始動後、アイドリング状態で長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。金属製キーホルダは、使用しないでください。また、イグニションキーにリング等で他のキーをつなげないでください。走行中、キーホルダや他のキーが車の部品を傷つけたり、キーシリンダの損傷の原因となります。**

カウリングの取り扱い上の注意

- 走行中は、カウリングと車体の間に、物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- ブレーキ液、クラッチ液、ガソリン、洗浄液等の化学物質が、スクリーンやカウリング本体にかかると、損傷の原因となりますので注意してください。
- スクリーンを洗浄する時は、表面を傷つけないように、水またはぬるま湯をかけながら、柔らかい布またはスポンジで拭いてください。

主要諸元

エンジン

エンジンオイル	カワサキ純正4サイクルオイル（175ページを参照）
エンジンオイル量	4.7 L
冷却液量	3.1 L
スパークプラグ	NGK SILMAR9E9
スパークプラグギャップ	0.8 ~ 0.9 mm

フレーム

タイヤサイズ：	
前輪	120/70ZR17M/C (58W)
後輪	190/55ZR17M/C (75W)
燃料タンク容量（車体直立状態）	19 L
ブレーキフルード	DOT4

電装品

バッテリ	12 V 8.6 Ah (10 HR)

ヘッドライト：	
ハイビーム	LED
ロービーム	LED
ポジションライト	LED
ブレーキ／テールライト	LED
ターンシグナルライト	LED
ライセンスプレートライト	LED
ヒューズ	30 A、25 A、 15 A、10 A、2 A

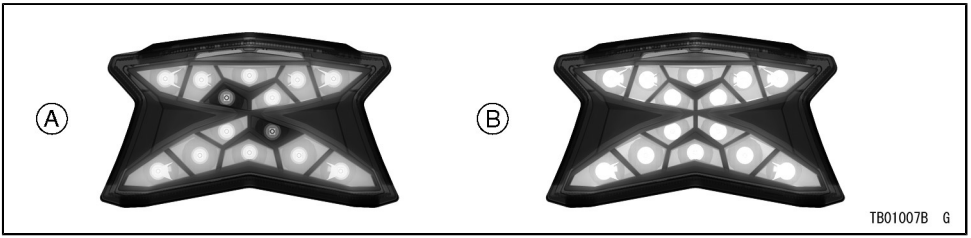
この車の灯火類にはLED（発光ダイオード）を採用しています。LEDライトが一つでも点灯しない時は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

【主要諸元】
https://pws.ktivs.net/dispeBook?file=99888-0128-01&lang_code=JA

998880128JA

ブレーキ／テールライト

ブレーキ／テールライトは下記のように点灯します。



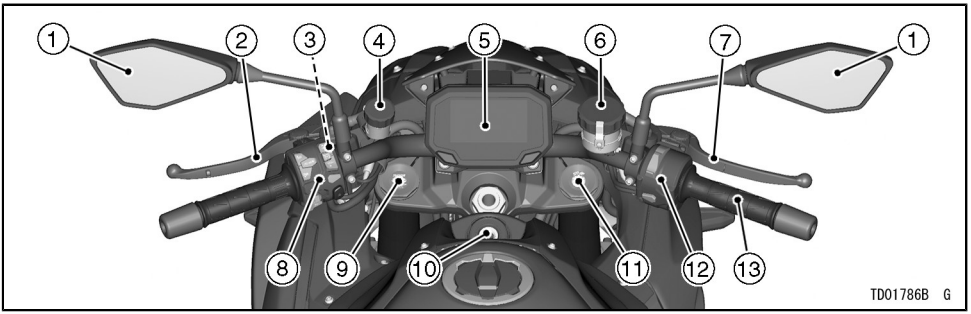
A. イグニションスイッチ“ON”時
B. ブレーキ時

イグニションスイッチ“ON”時に点灯しないＬＥＤがありますが、故障ではありません。

主要諸元は予告なく変更される場合があります。

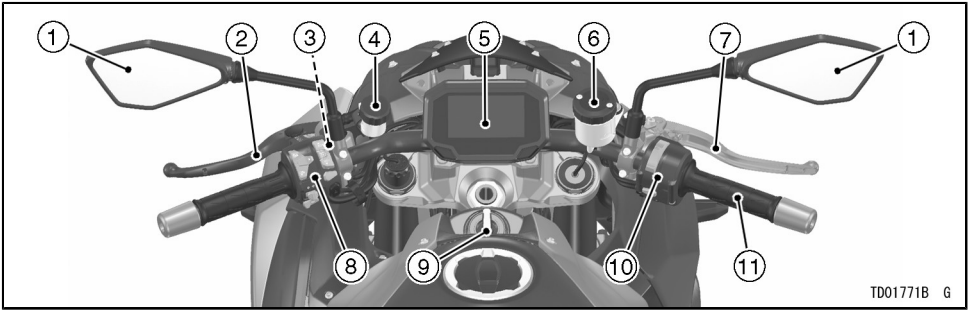
各部の名称

ZR1000P

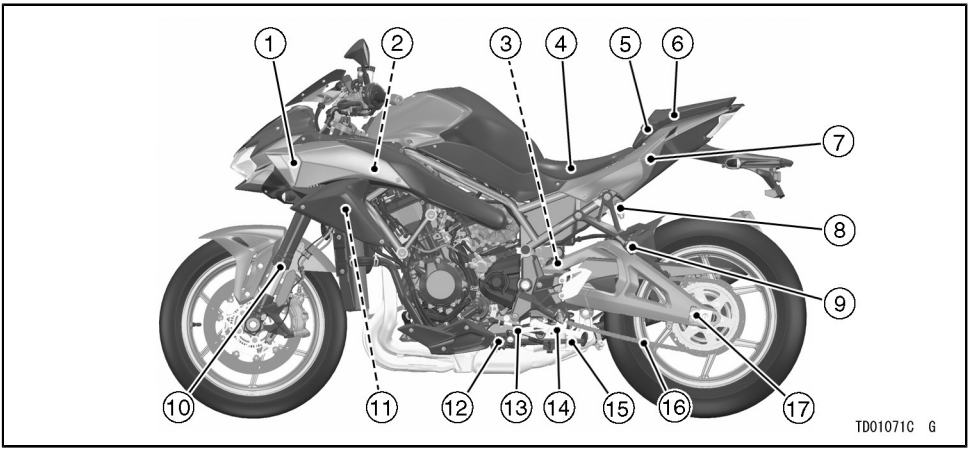


1. バックミラー
2. クラッチレバー
3. スタータロックアウトスイッチ
4. クラッチリザーバ
5. メータユニット
6. ブレーキリザーバ(フロント)
7. フロントブレーキレバー
8. 左ハンドルスイッチ
9. 減衰力アジャスタ
10. イグニションスイッチ／ステアリングロック
11. スプリング初期荷重アジャスタ
12. 右ハンドルスイッチ
13. スロットルグリップ

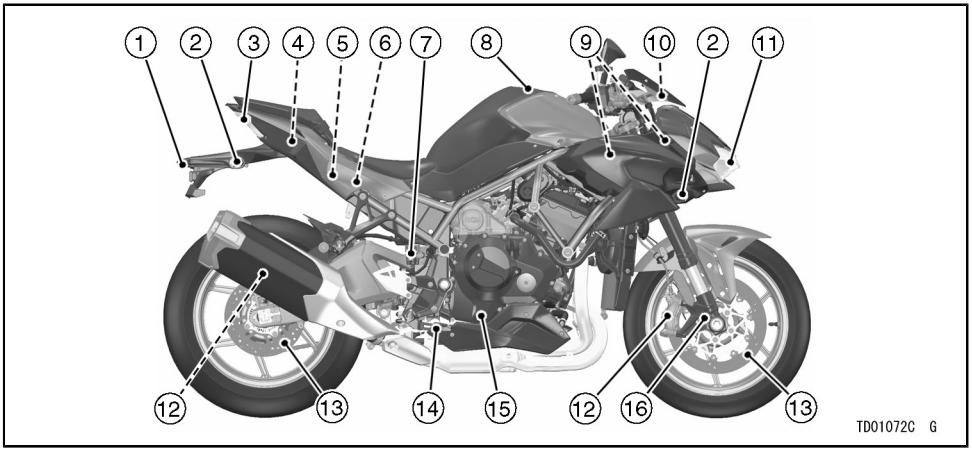
ZR1000R



1. バックミラー
2. クラッチレバー
3. スタータロックアウトスイッチ
4. クラッチリザーバ
5. メータユニット
6. ブレーキリザーバ（フロント）
7. フロントブレーキレバー
8. 左ハンドルスイッチ
9. イグニションスイッチ／ステアリングロック
10. 右ハンドルスイッチ
11. スロットルグリップ



1. エアインテーク
2. エアクリーナ
3. リヤショックアブソーバ
4. 運転者用シート
5. シートストラップ
6. 同乗者用シート
7. シートロック
8. ヘルメットロック
9. リヤステップ
10. フロントフォーク
11. 冷却液リザーブタンク
12. サイドスタンドスイッチ
13. シフトペダル
14. 伸側減衰力アジャスタ（ZR1000P）
15. サイドスタンド
16. ドライブチェーン
17. チェーンアジャスタ



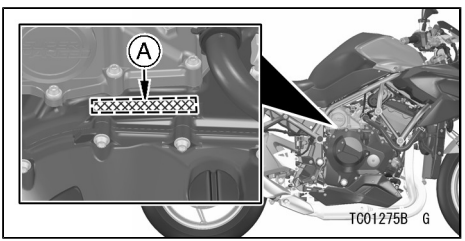
1. ライセンスプレートライト
2. ターンシグナルライト
3. ブレーキ／テールライト
4. ETC車載器
5. ツールキット
6. バッテリ
7. ブレーキリザーバ(リヤ)
8. 燃料タンクキャップ
9. ヒューズボックス
10. ETCアンテナ
11. ヘッドライト
12. ブレーキキャリパ
13. ブレーキディスク
14. ブレーキペダル
15. オイルレベル点検窓
16. スプリング初期荷重アジャスタ(ZR1000R)

エンジン番号･車台番号

エンジン番号・車台番号は車の登録のために使われます。これらの番号はカワサキ正規取扱店に部品を注文する時に必要であり、盗難にあった場合、多くの同機種の車、あるいはいくらか特徴の似ている車の中からあなたの車を捜し出す手掛かりにもなります。

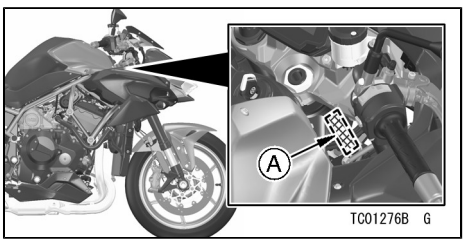
あなたの車のエンジン番号・車台番号を下記の欄に記入してください。

エンジン番号



A. エンジン番号

車台番号

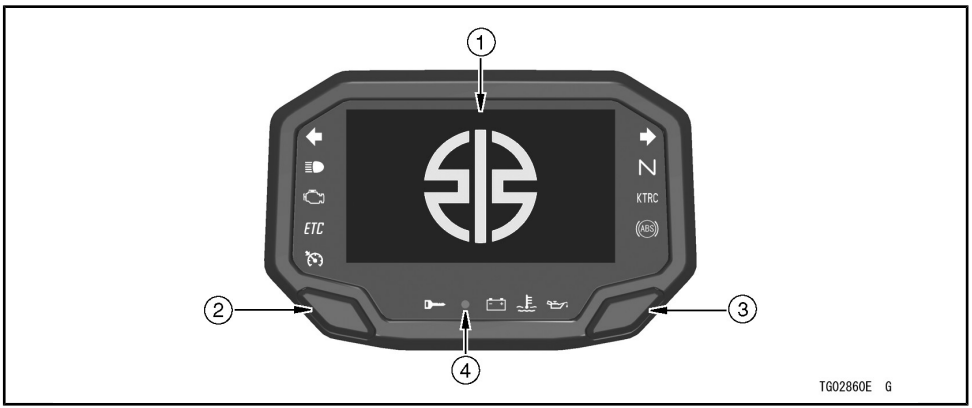


A. 車台番号

メータの見方・使い方

メータユニット

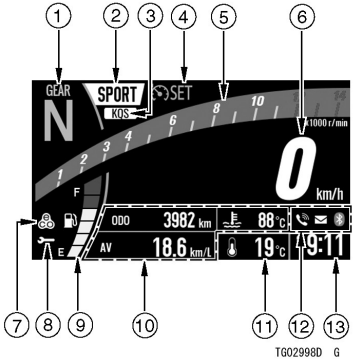
画面表示は2つのタイプから切り替えることができます。「メニューモード」の項、「画面表示（Display）」を参照してください(67ページを参照)。



1. ディスプレイスクリーン
2. 左メータボタン
3. 右メータボタン
4. 光度センサ

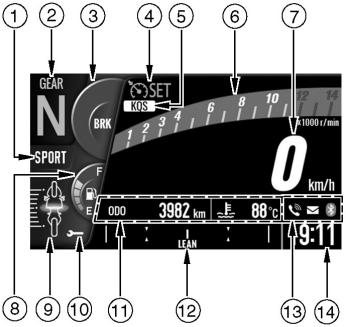
画面タイプ1

1. ギヤポジションインジケータ
2. インテグレイテッドライディングモードインジケータ
3. KQSモードインジケータ
4. クルーズコントロールシステムインジケータ
5. タコメータ
6. スピードメータ
7. ECO走行インジケータ
8. サービスインジケータ
9. 燃料計
10. マルチファンクションディスプレイ
    - オドメータ
    - トリップメータA/B
    - リーン角
    - 最大リーン角
    - 瞬間燃費
    - 平均燃費
    - 航続可能距離
    - 平均車速
    - 経過時間
    - バッテリ電圧
    - 水温
    - ブースト温
    - ブースト圧(%)
11. 外気温計
12. Bluetooth®接続インジケータ
13. 時計



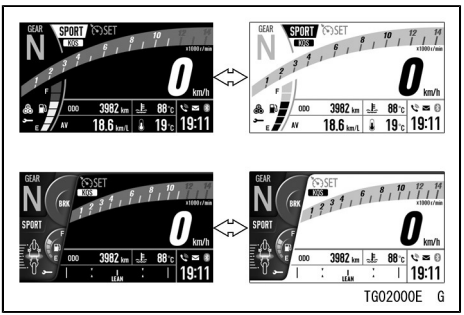
画面タイプ2

1. インテグレイテッドライディングモードインジケータ
2. ギヤポジションインジケータ
3. マルチファンクションゲージ
   – ブースト圧（BST）
   – スロットル開度（TH）
   – フロントブレーキ圧（BRK）
4. クルーズコントロールシステムインジケータ
5. KQSモードインジケータ
6. タコメータ
7. スピードメータ
8. 燃料計
9. 加速度／減速度インジケータ
10. サービスインジケータ
11. マルチファンクションディスプレイ
   – オドメータ
   – トリップメータA/B
   – 最大リーン角
   – 水温
   – バッテリ電圧
   – ブースト温
   – ブースト圧（%）
12. リーン角インジケータ
13. Bluetooth®接続インジケータ
14. 時計



背景色の切り替え

- RESETボタンを押すとディスプレイスクリーンの背景色が反転します。



⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

アドバイス

○ この機能は右メータボタンでも操作できます。背景色が切り替わるまで押し続けてください。

○ ただし、マルチファンクションディスプレイに平均燃費、平均車速または経過時間が表示されている場合、右メータボタンはリセットに使用されますので、背景色の切り替えはできません。

光度センサ

メータユニットの照明は、周囲の明るさに応じて自動調整されます。

アドバイス

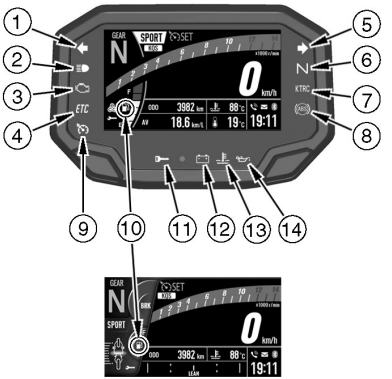
○ 光度センサを覆ったり、影になるものを取り付けたりすると、自動調整機能が正常に作動しない可能性があります。

メータユニットの明るさの設定

- メータユニットの明るさを、手動で3段階に調整できます。「メニューモード」の項、「画面表示（Display）」を参照してください(67ページを参照)。

インジケータ

1. 緑色左ターンシグナルインジケータ
2. 青色ハイビームインジケータ
3. 黄色エンジン警告インジケータ
4. ETCインジケータ
5. 緑色右ターンシグナルインジケータ
6. 緑色ニュートラルインジケータ
7. 黄色KTRCインジケータ
8. 黄色ABSインジケータ
9. 白色クルーズコントロールインジケータ
10. 燃料警告インジケータ
11. 赤色イモビライザ警告インジケータ
12. 赤色バッテリ電圧警告インジケータ
13. 赤色水温警告インジケータ
14. 赤色油圧警告インジケータ



TGO2003E G

インジケータ初期動作



TG02035E G

イグニションスイッチをオンにすると、次の表のとおり、インジケータが点灯または消灯します。もし動作しない場合は、カワサキ正規取扱店にて点検をお受けください。

ON	⌛		インジケータ
□	□	□	ABS N ETC
□	□	■	
□	■	■	KTRC

ON: イグニションスイッチをオンにしたとき
⌛: 数秒後
: エンジン始動時
□: 点灯
■: 消灯
＊: 車両が動き始めてから消灯

警告インジケータが点灯または点滅したとき

警告インジケータが表示された場合、車両に問題がある可能性があります。安全な場所に車両を停車した後、次の表の対応をしてください。

インジケータ	状態	対応
	点滅	車に登録されているイグニションキーを使用しない場合、またはキーと車の間で通信不良が起こるとイモビライザ警告インジケータが点滅します。もし点滅したときは、登録された専用のイグニションキーを使用するか、またはキーの周りに他のキー等による金属部品がないことを確認してください。確認後も点滅する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	バッテリ電圧が11.0V以下または16.0V以上になっています。11.0V以下の場合は、バッテリを充電してください。16.0V以上の場合もしくはバッテリを充電した後でも点灯する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	水温が高温になると点灯します。安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンが冷えてからリザーブタンクの冷却液の量を確認してください。冷却液の量が不充分な場合は、リザーバタンクに冷却液を補給してください。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

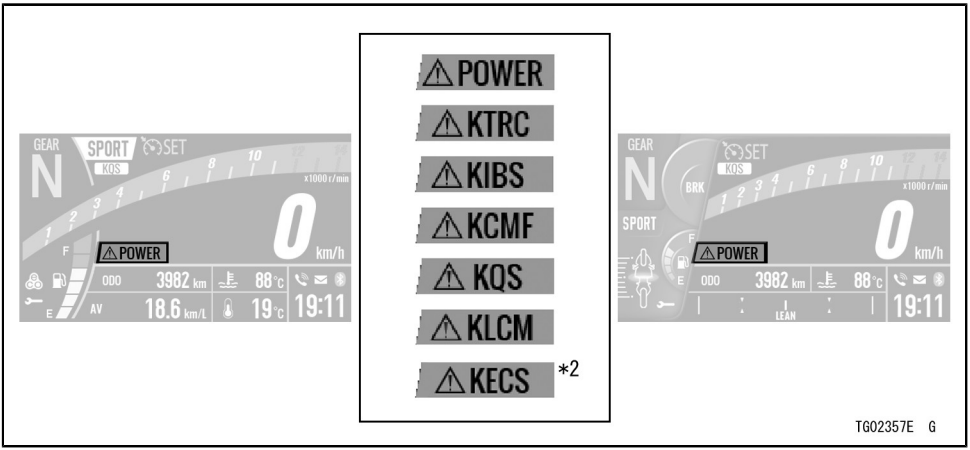
インジケータ	状態	対応
	点灯	油圧が低いとき、またはイグニションスイッチをオンにしたときに点灯します。エンジン始動後も継続して点灯する場合は、エンジンを直ちに停止し、エンジンオイルレベルを確認してください。エンジンオイルが不足している場合は補充してください。オイル量が正常でも点灯する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点滅（一番下のセグメントと共に）	点滅時の燃料残量： 約5.4 L
		燃料を早めに補給してください。サイドスタンド状態においては燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。
	点滅（全てのセグメントと共に）	燃料警告システムに問題があります。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	FI（フューエルインジェクション）システムに問題があります。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点滅	

インジケータ	状態	対応
(ABS)	点灯	特定の条件*1で点灯することがあります。インジケータが点灯した場合は、一旦イグニションスイッチをオフにして、再度イグニションスイッチをオンにした後、走行するとインジケータは消灯します。ABSに問題がある場合は点灯し続けます。点灯中にはABSは作動しませんが、通常のブレーキシステムは正常に作動します。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

*1：
- 連続して悪い路面を走行したとき。
- スタンドで後輪を持ち上げ、ギヤを入れた状態でエンジンを始動して、後輪を回転させたとき。
- 前輪が地面から離れるような、急激な加速をしたとき。
- ABSが強力な電波障害を受けたとき。
- タイヤの空気圧が異常なとき。（空気圧を調整してください。）
- 標準とは異なるサイズのタイヤが使用されたとき。（標準タイヤを使用してください。）
- ホイールが変形しているとき。（ホイールを交換してください。）

警告メッセージ

画面に警告メッセージが表示されたときは、その機能に問題があります。カワサキ正規取扱店にて点検をお受けください。



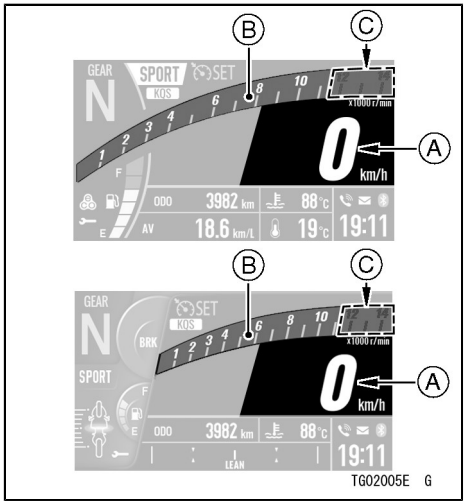
*2: ZR1000Rのみ、KECSを装備しています。

その他のインジケータ

インジケータ	状態
	イグニションスイッチをオフにしたとき、インジケータが点滅*3し始め、システムが作動していることを知らせます。24時間経過後に点滅は終わりますが、システムは継続して作動しています。
KTRC	KTRCが作動しているときに点滅します。
	ターンシグナルスイッチを左の方に入れると点滅します。
	ターンシグナルスイッチを右の方に入れると点滅します。
N	トランスミッションがニュートラルのときに点灯します。
	ヘッドライトの照射をハイビーム（上向き）にすると点灯します。
	クルーズコントロールシステムをオンにすると点灯します。詳細は「正しい運転操作」の章、「クルーズコントロールシステム」の項を参照してください（160ページを参照）。
ETC	ETC車載器の状態を表示します。詳細は「ETCの取り扱い方」の章を参照してください（117ページを参照）。

*3: イモビライザ警告インジケータ点滅モードはオン／オフが設定できます。詳細は「メニューモード」の項を参照してください(62ページを参照)。

スピードメータ／タコメータ



A. スピードメータ
B. タコメータ
C. レッドゾーン

スピードメータ

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

アドバイス

○ 日本国内では、スピードメータの表示をキロメートル(km/h)に合わせてください。切り替え方法は「メニューモード」の項、「表示単位(Units)」を参照してください(82ページを参照)。

タコメータ

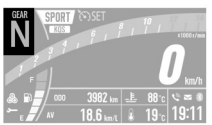
毎分のエンジン回転速度を示します。タコメータにはレッドゾーンがあります。バーがレッドゾーンに入らないように運転してください。

注意

レッドゾーンは、エンジンの許容回転速度を超える領域を示したもので、レッドゾーンに入るような運転あるいはレッドゾーン内での運転は、エンジン故障の原因となりますので、そのような運転をしないようにお願いします。

機能

ギヤポジションインジケータ



TG02006E G

トランスミッションのギヤ位置を表示します。ギヤがニュートラルのときは"N"を表示します。

アドバイス

○ ギヤが正しく入っていない場合、ギヤポジションインジケータは表示されなくなります。

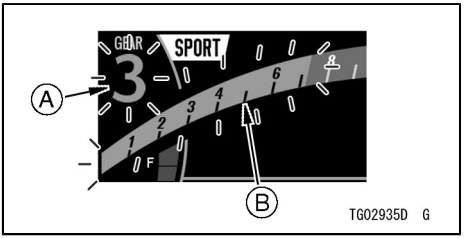
ギヤポジションインジケータはシフトアップインジケータも兼ねています。

シフトアップインジケータ機能

シフトアップインジケータはシフトアップに最適なタイミングを運転者に知らせる機能です。

設定したエンジン回転速度になる手前からタコメータとギヤポジションインジケータがゆっくり点滅し始め、ギヤポジションインジケータがオレンジ色に変わります。エンジン回転速度が設定した値になると、タコメータも色

が変わって、双方の点滅が速くなります。

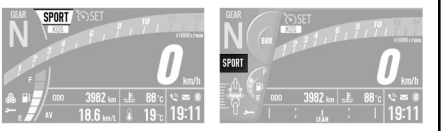


A. ギヤポジションインジケータ（点滅と変色）
B. タコメータ（点滅と変色）

シフトアップインジケータ機能の設定方法

シフトアップインジケータ機能はオン／オフおよび作動するタイミングを設定できます。「メニューモード」の項、「車両設定（Vehicle Settings）」を参照してください(63ページを参照)。

インテグレイテッドライディングモードインジケータ



使用中のライディングモードを表示します。「正しい運転操作」の章の「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください(148ページを参照)。

燃料計

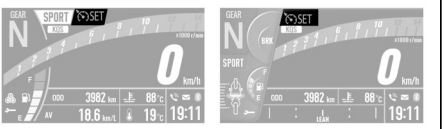


TG02008E G

燃料タンクの残量がセグメントの数で表示されます。燃料計が正しく表示されない場合は、カワサキ正規取扱店で燃料計の点検をお受けください。

燃料が少なくなると、一番下のセグメントと燃料警告インジケータが点滅します。燃料を早めに補給してください。サイドスタンド状態においては、燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。

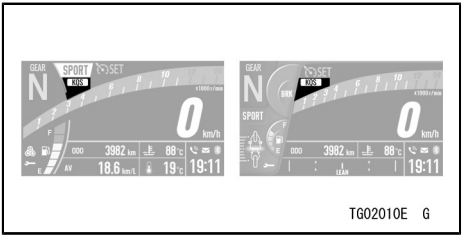
クルーズコントロールシステムインジケータ



TG02009E G

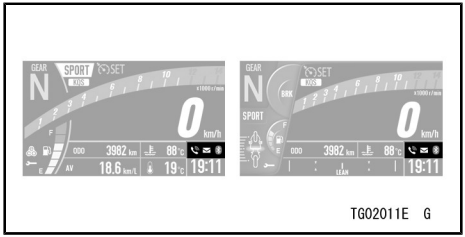
クルーズコントロールシステムの状況を表示します。詳細は「正しい運転操作」の章の「クルーズコントロールシステム」の項を参照してください(160ページを参照)。

KQSモードインジケータ



KQSをオンにすると表示されます。「正しい運転操作」の章の「KQS」の項を参照してください(164ページを参照)。

Bluetooth®接続インジケータ



車両とスマートデバイスが無線接続されると、ブルートゥースアイコンが表示されます。スマートデバイスに電話の着信があると受話器アイコンが表示されます。Eメールやテキストメッセージを受信したときは、メールアイコンが表示されます。



A. 受話器アイコン
B. メールアイコン

ブルートゥースの設定方法

- 「メニューモード」の項、「ブルートゥース® (Bluetooth) 」を参照してください(78ページを参照)。

Bluetooth®について

車両に内蔵されたブルートゥース無線接続技術を介してスマートデバイスと接続できます。

専用アプリ「RIDEOLOGY THE APP」を使用することで、車両の情報をスマートデバイスに表示させたり、車両の設定を変更したりすることが可能です。詳細についてはアプリを参照してください。

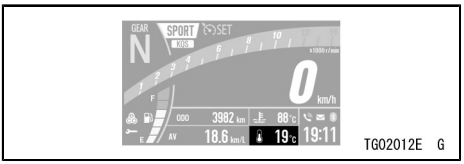
アドバイス

- 安全のため、走行中はスマートデバイスを使用しないでください。
- ご使用の機器がブルートゥースに対応していても、場合によっては接続できない可能性があります。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。



外気温計

（画面タイプ1のみ）



周囲の気温を表示します。

アドバイス

- –20°C ~ 60°Cの範囲で表示できます。
- 車速が20 km/h以下、または外気温センサが濡れている場合は正しく表示されない場合があります。

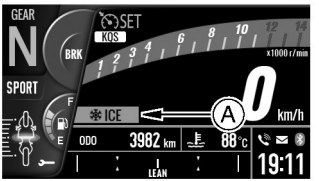
⚠ 警告

キーON時に外気温3°C未満になっていた場合、外気温計の色変化や警告表示によって、路面が凍結している可能性があることをお知らせします。外気温低下時は、路面状況に特に注意して運転してください。



アドバイス

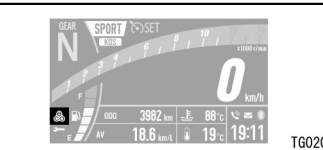
- 外気温計を表示していなかった場合は、警告メッセージが表示されます。



A. 外気温低下警告メッセージ

ECO走行インジケータ

（画面タイプ1のみ）



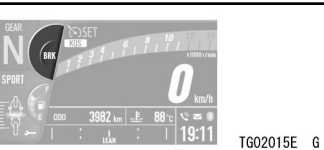
運転者が燃料消費を抑えた走行を行っているときはECO走行インジケータが表示され、低燃費走行であることが確認できます。ECO走行インジケータが表示される運転を心がけることで、燃料効率を高めることができます。

⚠ 警告

ECO走行インジケータに気を取られ過ぎて道路や交通の状況への注意を怠ると、死亡や傷害につながる事故を引き起こす可能性があります。常に広い視野をもって運転してください。

マルチファンクションゲージ

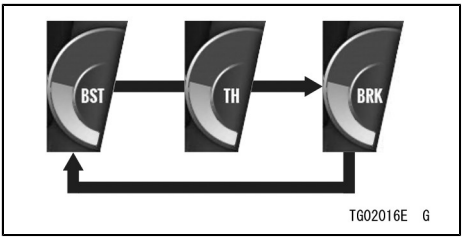
（画面タイプ2のみ）



このゲージはフロントブレーキの液圧、スロットルグリップの開度、インテークエアチャンバ内の過給圧（ブースト圧）を表示します。

マルチファンクションゲージの切り替え方法

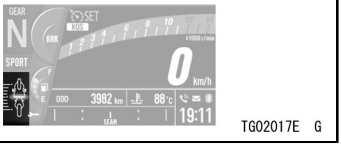
- 下MODEボタンまたは右メータボタンを押すと、表示項目が切り替わります。



➡ ：下MODEボタンまたは右メータボタンを押したときの切り替わり方

加速度／減速度インジケータ

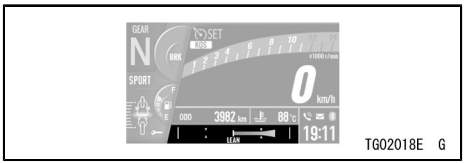
（画面タイプ2のみ）



車両にかかっている加速度、減速度を表示します。加速度が大きくなるほど、インジケータは車体図の後方に移動します。逆に減速度が大きくなるほど前方に移動します。

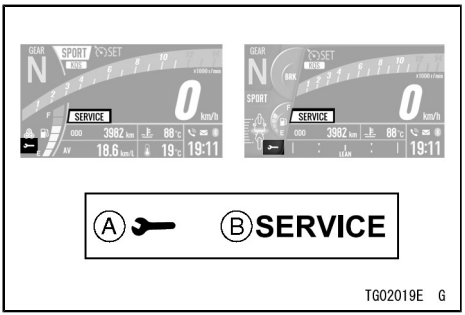
リーン角インジケータ

（画面タイプ2のみ）



車体の左右の傾き（リーン角）を表示します。角度が大きいほどゲージが増えます。

サービスインジケータ



A. サービスインジケータ
B. サービス通知メッセージ

この車にはメンテナンスに関する通知機能を3種類（カワサキの標準設定および個人で指定できるエンジンオイル用とその他用）設定できます。

日付または距離が設定した値に達すると、イグニションスイッチをオンにしたときに、ディスプレイスクリーン上にサービスインジケータとサービス

通知メッセージが表示されるようになります。

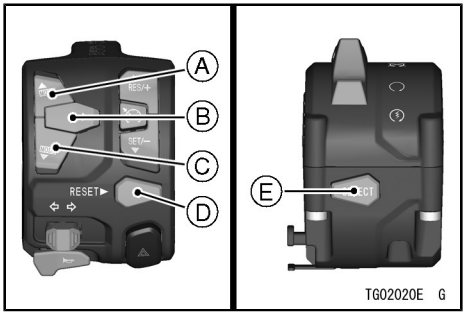
サービス通知メッセージは30秒経過後に非表示となります。

メンテナンス通知機能の設定

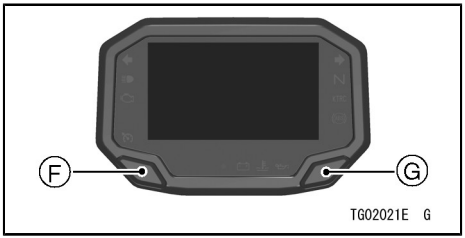
- 「メニューモード」の項、「サービス（Service）」を参照してください(73ページを参照)。

操作ボタン

メータユニットの操作は、左ハンドルの上MODEボタン、下MODEボタン、ミドルボタン、RESETボタン、右ハンドルのSELECTボタン、および左メータボタンと右メータボタンで行います。

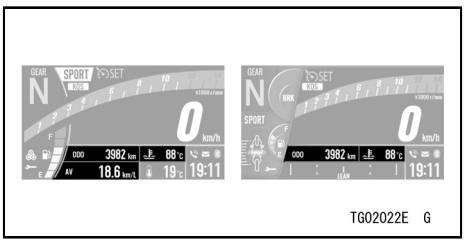


A. 上MODEボタン
B. ミドルボタン
C. 下MODEボタン
D. RESETボタン
E. SELECTボタン



F. 左メータボタン
G. 右メータボタン

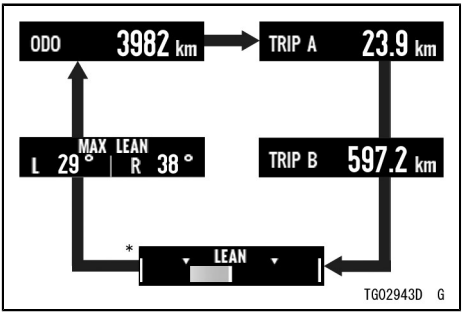
マルチファンクションディスプレイ



- 上MODEボタンまたは左メータボタンを押すと、表示項目が次の順序で切り替わります。

オドメータ
トリップメータA
トリップメータB
リーン角*
最大リーン角

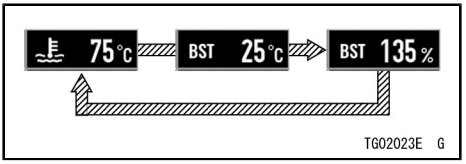
*： 画面タイプ1のみ



➡ :上MODEボタンまたは左メータボタンを押したときの切り替わり方

- ミドルボタンを押すと、表示項目が次の順序で切り替わります。

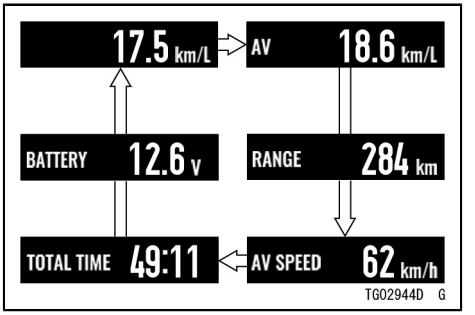
水温
ブースト温
ブースト圧（%）



⇨ :ミドルボタンを押したときの切り替わり方

- 画面タイプ1の場合は、下MODEボタンまたは右メータボタンを押すと、表示項目が次の順序で切り替わります。

瞬間燃費
平均燃費
航続可能距離
平均車速
経過時間
バッテリ電圧



⇨ : 下MODEボタンまたは右メータボタンを押したときの切り替わり方

オドメータ

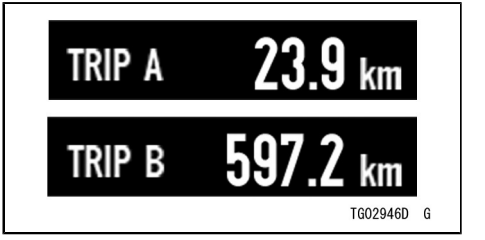


総走行距離を表示します。定期点検整備の目安となります。オドメータは“0 km”に戻すことはできません。

アドバイス

○ 値は“999999 km”までカウントされ、以降は固定されます。

トリップメータ



リセットした時点からの走行距離を表示します。

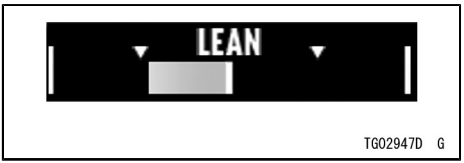
アドバイス

○ 値は“9999.9 km”を超えると“0.0 km”に戻ります。

トリップメータのリセット方法

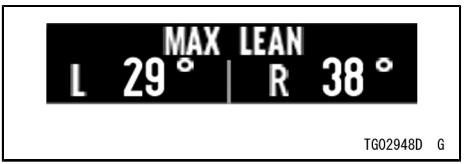
この項で後述する「マルチファンクションディスプレイのリセット」を参照してください(59ページを参照)。

リーン角



車体の左右の傾き（リーン角）を表示します。角度が大きいほどゲージが増えます。

最大リーン角

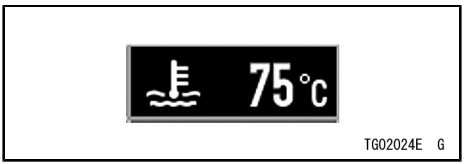


リセット時点から最も大きい車体の左右の傾き（最大リーン角）を表示します。

最大リーン角のリセット方法

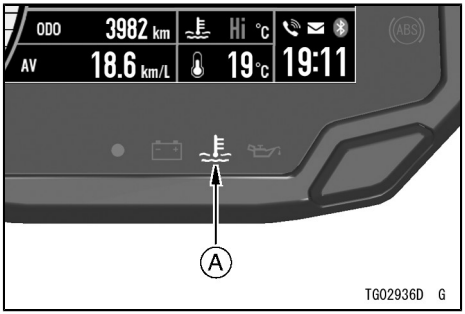
この項で後述する「マルチファンクションディスプレイのリセット」を参照してください(59ページを参照)。

水温



冷却液の温度を表示します。水温計の表示は、下表のとおりです。

水温	水温表示
40° C以下	——
115° C以上	点滅
120° C以上	“Hi”の点滅表示



A. 水温警告インジケータ

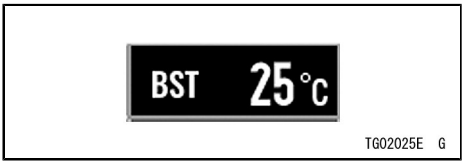
注意

水温警告インジケータが点灯した時は走行しないでください。もし続けて走行すると、エンジンが損傷する原因となります。

アドバイス

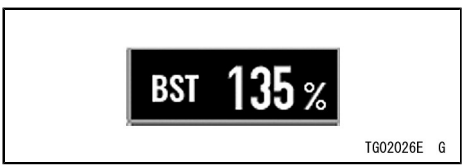
○ 水温以外を表示している場合でも、水温が115° C以上になると、自動的に水温表示に切り替わります。

ブースト温



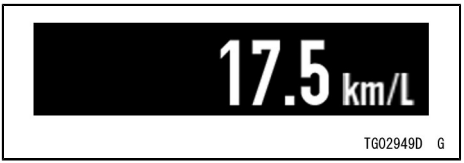
エアインテークチャンバ内の過給温（ブースト温）を表示します。

ブースト圧(%)



エアインテークチャンバ内の過給圧（ブースト圧）をパーセントで表示します。

瞬間燃費



走行中に瞬間の燃料消費率を表示します。値は4秒ごとに更新されます。

アドバイス

○ イグニションスイッチをオンにした時点では“—.—”が表示されます。走行開始から数秒後に数値が表示されます。

平均燃費



リセット時点からの平均の燃料消費率を表示します。値は5秒ごとに更新されます。

平均燃費のリセット方法

この項で後述する「マルチファンクションディスプレイのリセット」を参照してください(59ページを参照)。

航続可能距離



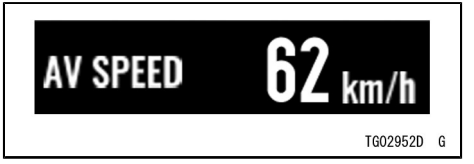
燃料タンクの残量に基づいて航続可能距離を表示します。値は20秒ごとに更新されます。

アドバイス

○ 燃料が充分にあるときは、数値の横に「(＋)」が表示されます。

- 燃料が少なくなり燃料警告インジケータが点滅し始めた後、しばらく走行を続けると、航続可能距離は表示されなくなります。
- 燃料を補給すれば燃料警告インジケータの点滅は止まり、航続可能距離が表示されるようになります。航続可能距離は、燃料残量が少ないときに表示されますが、正確ではありません。

平均車速



リセット時点からの平均の車速を表示します。

平均車速のリセット方法

この項で後述する「マルチファンクションディスプレイのリセット」を参照してください(59ページを参照)。

経過時間



イグニッションスイッチをオンにしている間に経過した時間を表示します。

アドバイス

- 値は“99:59”(99時間59分)までカウントされ、以降は固定されます。

経過時間のリセット方法

この項で後述する「マルチファンクションディスプレイのリセット」を参照してください(59ページを参照)。

バッテリ電圧



現在のバッテリ電圧を表示します。

アドバイス

- 表示範囲は9.0 ~ 16.0 Vです。範囲外の場合は、最小値または最大値で固定されます。
- 表示される値は、他の電圧計で測定した値と異なる場合があります。

マルチファンクションディスプレイのリセット

次の表示項目はリセットできます。リセット方法は2種類あります。

トリップメータA/B
最大リーン角
平均燃費
平均車速
経過時間

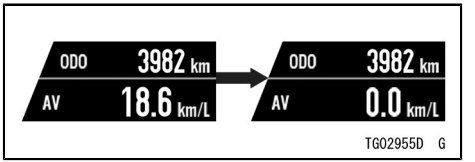
RESETボタンを使ったリセット方法

アドバイス

- リセットする項目の選択中に他のボタン（上 MODE、下 MODE、ミドル、SELECT、左メータ、右メータ）を押すと、キャンセルとなります。
- リセットする項目の選択中に5秒間ボタン操作がなければ、キャンセルとなります。

リセットできる項目がひとつ表示されている場合:

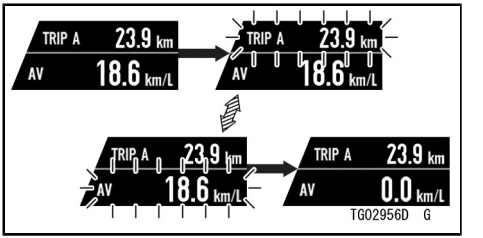
- 数値がリセットされるまでRESETボタンを押し続けます。



➡ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

リセットできる項目がふたつ表示されている場合:

- RESETボタンを長押しすると、表示項目が点滅し始めます。
- RESETボタンを押して表示項目を選択してください。点滅している項目がリセットされます。
- 数値がリセットされるまでRESETボタンを押し続けます。

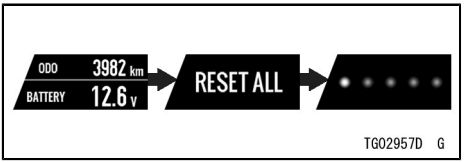


➡ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

リセットできる項目が表示されていない場合:

- RESETボタンを長押しすると、"RESET ALL"と表示されます。
- "RESET ALL"はリセットできるすべての項目をリセットします。RESETボタンを押し続けるとリセットが始まります。



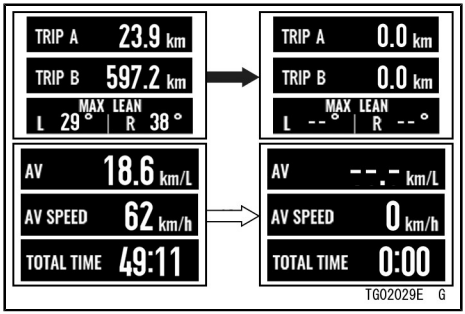
➡ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

アドバイス

○ リセット中にイグニションスイッチをオフにすれば、リセットは中止されます。

メータボタンを使ったリセット方法

- リセットしたい項目を、マルチファンクションディスプレイに表示させます。
- 数値がリセットされるまで、左メータボタンまたは右メータボタンを押し続けます。



➡ :左メータボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :右メータボタンを押し続けたときの切り替わり方

メニューモード



TG02578D G

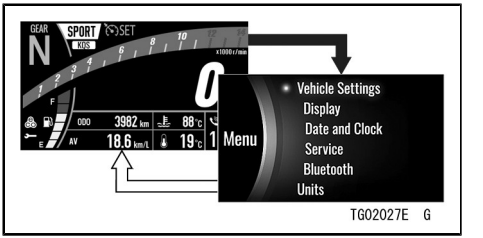
各種機能の設定変更ができます。

アドバイス

○ 車速が5 km/hを超えるとメニューモードは表示できません。

メニューモードの開始／終了方法

- SELECTボタンを押し続けると開始します。
- RESETボタンを押すと終了します。

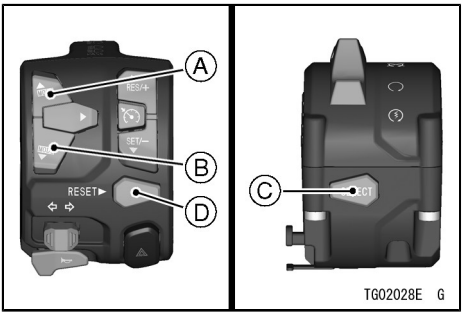


TG02027E G

➡ :SELECTボタンを押し続けたときの切り替わり方

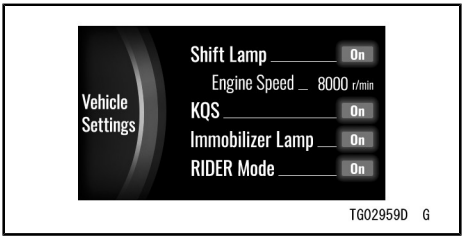
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

メニューモードの基本操作



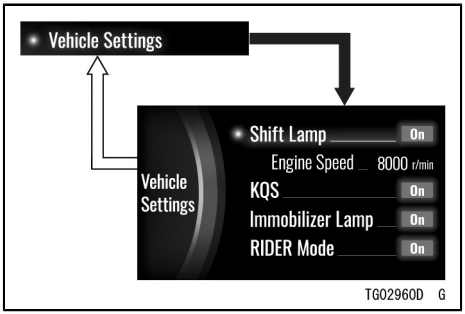
A. 選択項目の移動
B. 選択項目の移動
C. 次の画面に進む(決定)
D. 前の画面に戻る(キャンセル)

車両設定(Vehicle Settings)



Shift Lamp:シフトアップインジケータのオン／オフ切替
Engine Speed:シフトアップインジケータ作動タイミングの設定
KQS:KQSのオン／オフ切替
Immobilizer Lamp:イモビライザ警告灯点滅モードのオン／オフ切替
RIDER Mode:ライダモードのオン／オフ切替

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って"Vehicle Settings"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

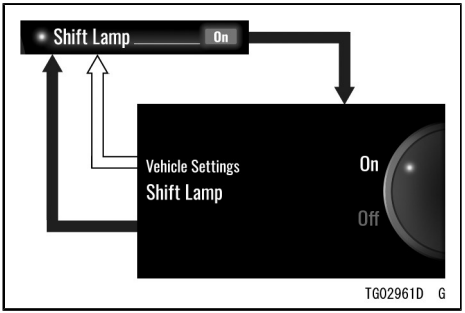


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Shift Lamp

シフトアップインジケータのオン／オフを切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“Shift Lamp”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

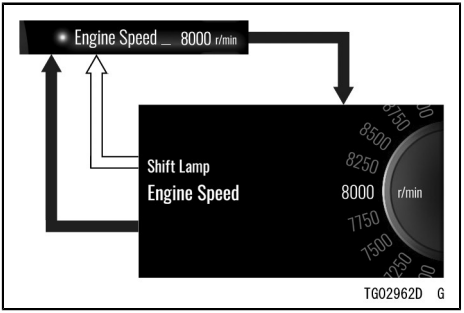
Engine Speed

シフトアップインジケータが作動するタイミングを設定します。

アドバイス

○ “Shift Lamp”の設定がオフのときは選択できなくなります。

- 上下のMODEボタンを使って“Engine Speed”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってエンジン回転速度を選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

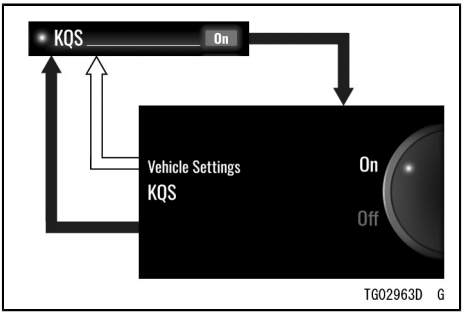


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

KQS

KQS（Kawasaki Quick Shift）のオン／オフを切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“KQS”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

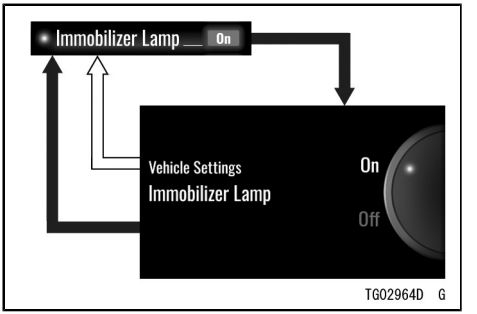


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Immobilizer Lamp

イモビライザ警告灯点滅モードのオン／オフを切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“Immobilizer Lamp”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



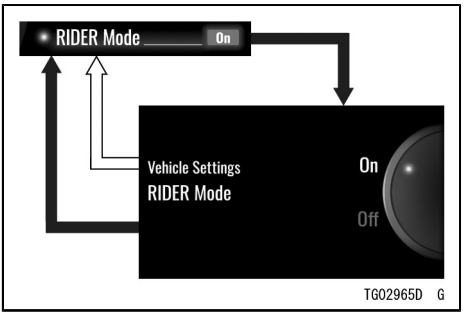
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

RIDER Mode

ライダモードのオン／オフを切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“RIDER Mode”を選択してください。

- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

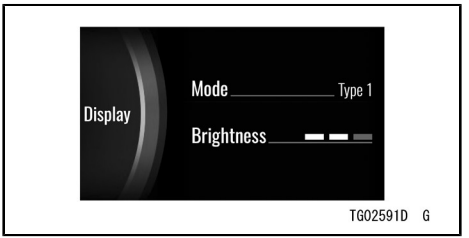


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

アドバイス

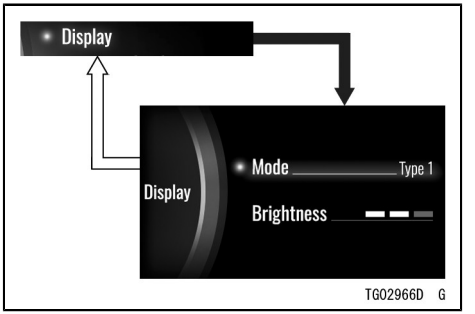
○ “RIDER Mode”(ライダモード)についての詳細は、「正しい運転操作」の章、「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください((148ページを参照)ページの参照)。

画面表示(Display)



Mode:画面レイアウトの切替
Brightness:画面の明るさの設定

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って“Display”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

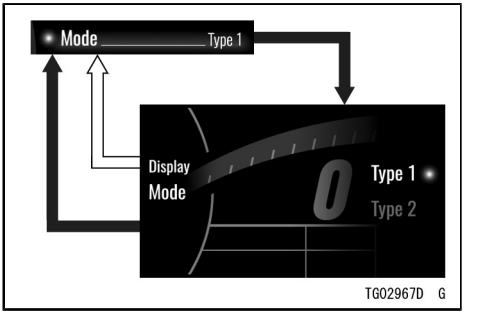


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Mode

画面の表示レイアウトを切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って"Mode"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って表示タイプを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



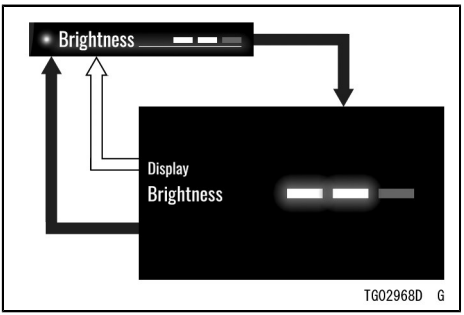
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Brightness

画面の明るさを3段階から選択します。

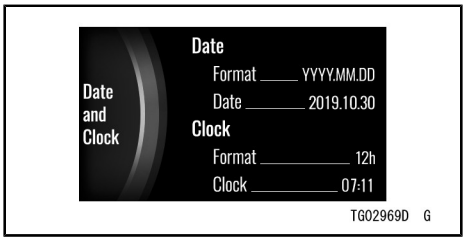
- 上下のMODEボタンを使って"Brightness"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

- 上下のMODEボタンを使って明るさを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



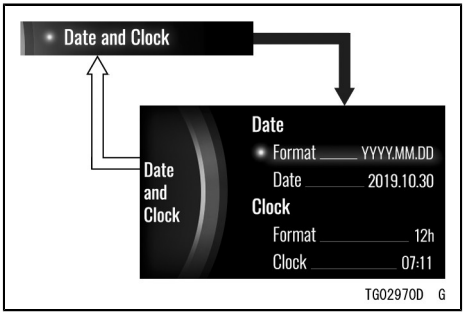
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

日付と時刻(Date and Clock)



Date:日付の設定
Clock:時刻の設定
Format:日付と時刻の表示方法の切替

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って"Date and Clock"を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

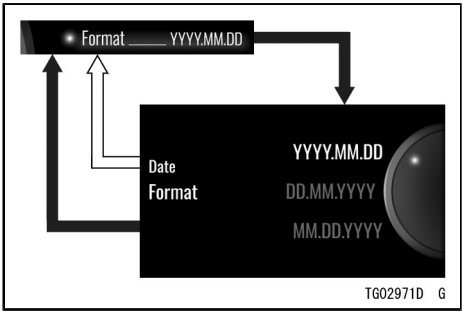


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Format (Date)

日付の表示方法を切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“Date”側の“Format”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って表示方法を選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



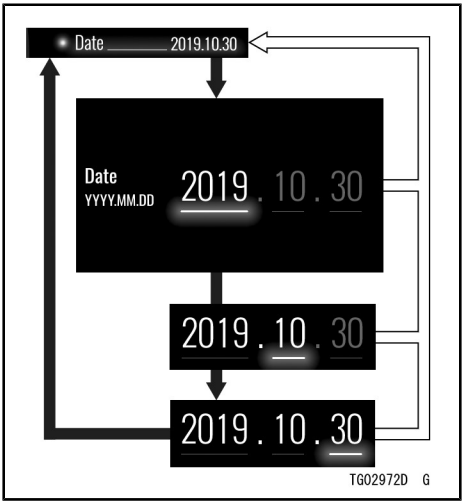
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Date

日付を設定します。

- 上下のMODEボタンを使って“Date”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

- 上下のMODEボタンとSELECTボタンを使って日付を設定してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

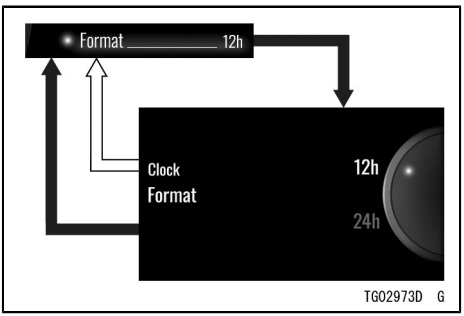


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Format (Clock)

時計の表示方法を切り替えます。

- 上下のMODEボタンを使って“Clock”側の“Format”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って12時制か24時制かを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

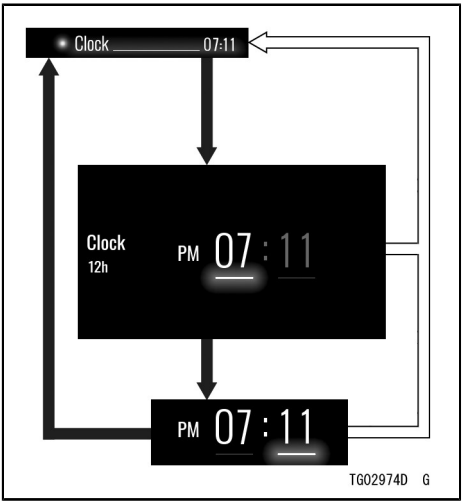


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Clock

時刻を設定します。

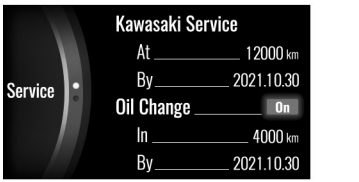
- 上下のMODEボタンを使って“Clock”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンとSELECTボタンを使って時刻を設定してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ : SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

サービス(Service)

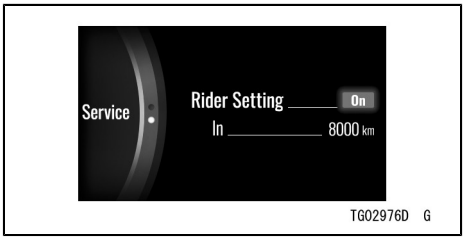
画面 1 / 2



Kawasaki Service: 店舗で設定する定期点検用の項目(カワサキ正規取扱店で有効／無効の切替えが可能です)

Oil Change: ユーザーが設定するエンジンオイル交換用の項目(通知する距離と日付を設定できます)

画面 2 / 2

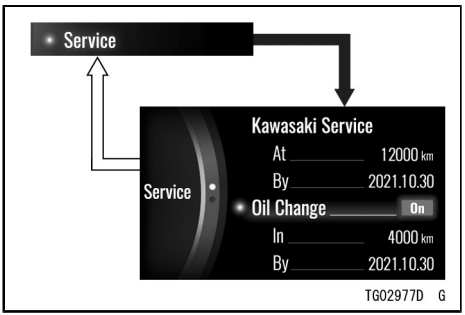


Rider Setting：ユーザーが設定するその他メンテナンス用の項目（通知する距離を設定できます）

アドバイス

- ○ 無効になっている項目は選択できません。
- ○ 表示されている距離はサービスインジケータが表示されるまでの残りを示しており、走行距離に応じて減少していきます。
- ○ 設定した距離または日付に達した項目は、文字がオレンジ色に変わります。

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って“Service”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

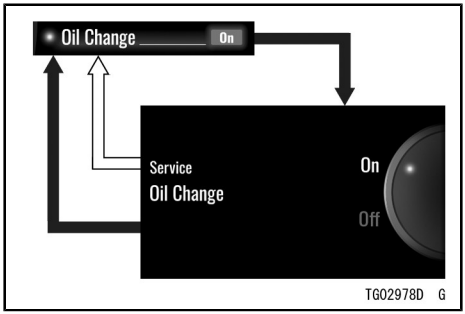


➡ ：SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ ：RESETボタンを押したときの切り替わり方

Oil Change

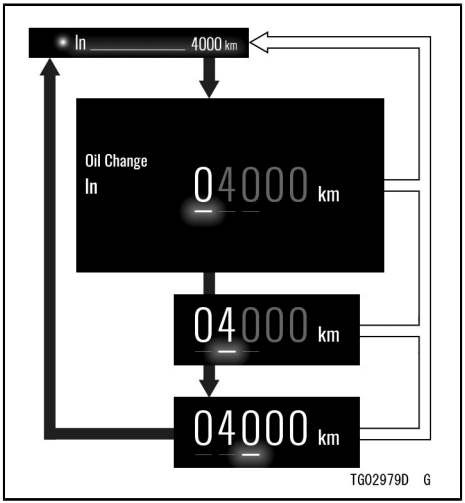
エンジンオイルについての通知のオン／オフを切り替えます。距離の設定が可能です。

- 上下のMODEボタンを使って“Oil Change”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

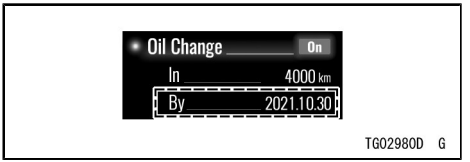
- 上下のMODEボタンを使って“Oil Change”の下にある“In”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンとSELECTボタンを使って次に通知を行う距離を設定してください。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

アドバイス

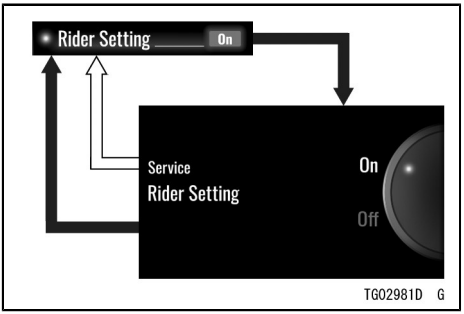
○ 通知する日付は変更できません。通知をオンにしたとき、または距離を変更したときに、自動的に1年後に設定されます。現在日が2020年10月30日の場合は2021年10月30日となります。



Rider Setting

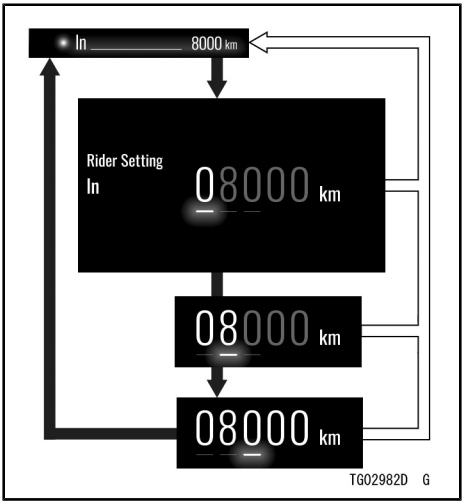
ユーザーが距離を設定できるメンテナンスの通知機能です。

- 上下のMODEボタンを使って“Rider Setting”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



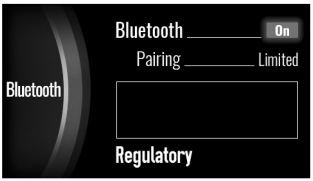
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

- 上下のMODEボタンを使って“Rider Setting”の下にある“In”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンとSELECTボタンを使って次に通知を行う距離を設定してください。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

ブルートゥース®(Bluetooth)



Bluetooth:ブルートゥース機能のオン／オフ切替
Pairing:ブルートゥースのペアリングモードの切替
Regulatory:取得済み認証マークの表示

アドバイス

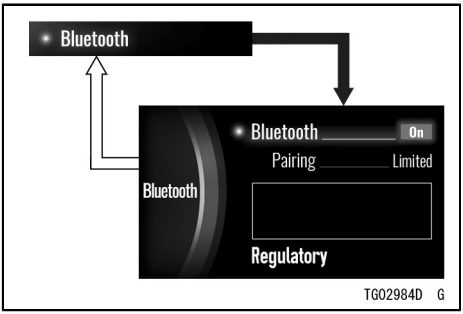
○ 車両とスマートデバイスとの接続には専用アプリ「RIDEOLOGY THE APP」が必要です。

アプリのダウンロードおよびご利用方法

https://www.kawasaki-cp.khi.co.jp/kawasaki_connect/jp/mc.html

TG02048FZ1 S

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って“Bluetooth”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

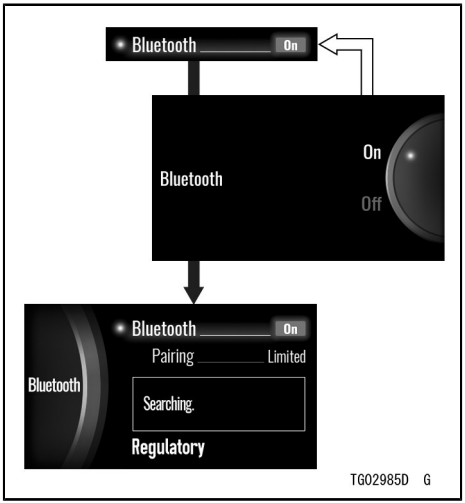


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Bluetooth

ブルートゥース機能のオン／オフを切り替えます。

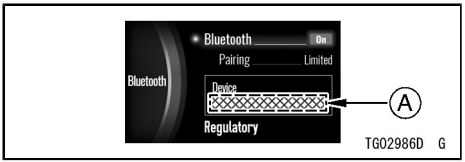
- 上下のMODEボタンを使って“Bluetooth”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使ってオン／オフを選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。オンにすると、車両はスマートデバイスの検索を開始します。
- スマートデバイスのブルートゥース機能をオンにして、専用アプリを起動してください。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

アドバイス

○ ペアリング済みの機器を検知すると自動的に接続を行います。



A. 接続した機器の名称

アドバイス

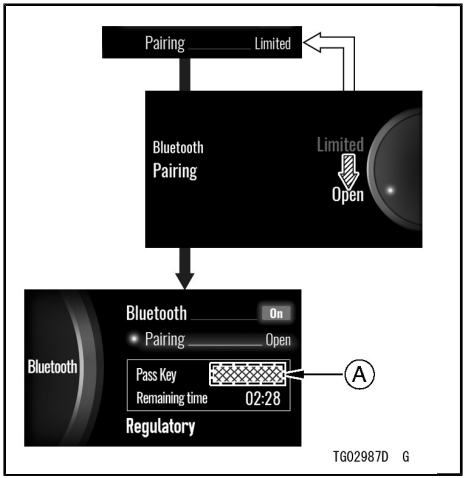
○ 車両に1台もペアリング設定をしていない場合、ペアリングモードが自動的に“Open”に切り替わります。

Pairing

ブルートゥースのペアリングモードを切り替えます。“Limited”はペアリング済みの機器との通信に使用します。“Open”は新しい機器との通信を設定できます。

- 上下のMODEボタンを使って“Pairing”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

- 上下のMODEボタンを使って“Limited”と“Open”を選択してください。“Open”にすると車両はペアリングされていない機器の検索を開始します。
- ペアリングされていない機器のブルートゥース機能をオンにして、専用アプリを起動してください。



➡ : SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇛ : 下MODEボタンを押したときの切り替わり方

A. パスキー（PIN）

- 専用アプリのペアリング設定メニューで「Z H2」を選択し、「connect」ボタンをタップしてください。メータの画面にパスキー（PIN）が表示されます。
- スマートデバイスにパスキーを入力してください。

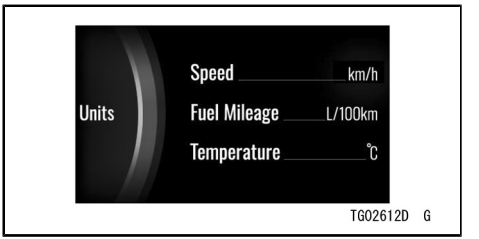
アドバイス

○ 車両が機器を検知しない場合は、機器をメータに近付けてください。

Regulatory

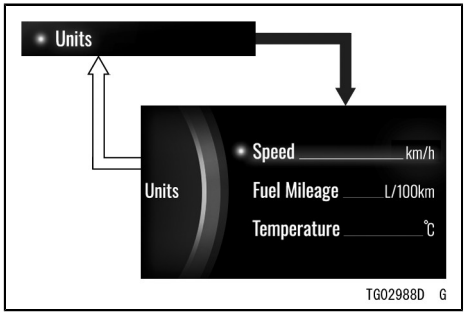
- 上下のMODEボタンを使って“Regulatory”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- SELECTボタンまたはRESETボタンで戻ります。

表示単位（Units）



Speed：速度の単位の変更
Fuel Mileage：燃費の単位の変更
Temperature：温度の単位の変更

- メニューモードを開始してください。
- 上下のMODEボタンを使って“Units”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

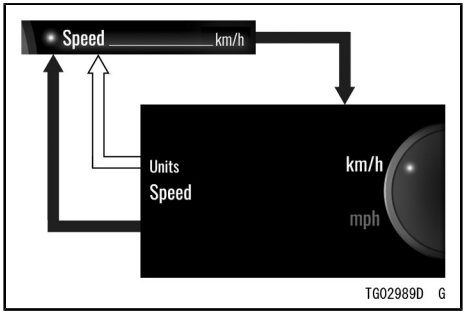


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Speed

速度の表示単位を切り替える項目です。

- 上下のMODEボタンを使って“Speed”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って“km/h”を選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



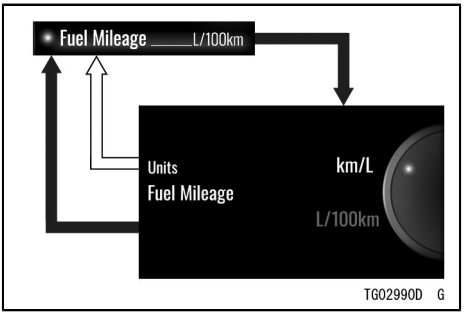
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

Fuel Mileage

燃費の表示単位を切り替える項目です。

- 上下のMODEボタンを使って“Fuel Mileage”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。

- 上下のMODEボタンを使って表示単位を選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

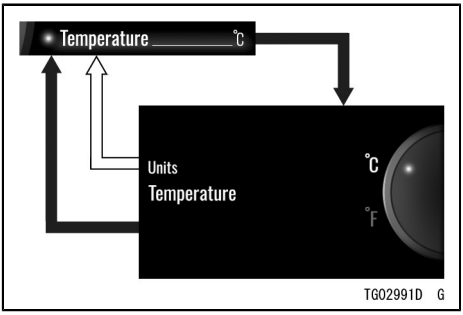
アドバイス

○ 選択肢は速度の表示単位に従って変化します。

Temperature

温度の表示単位を切り替える項目です。

- 上下のMODEボタンを使って“Temperature”を選択してください。
- SELECTボタンを押して次の画面に進みます。
- 上下のMODEボタンを使って“°C”を選択してください。
- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

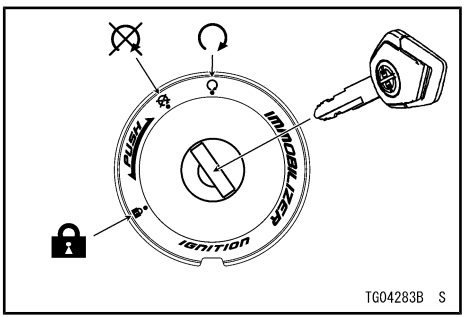


➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

スイッチの使い方

イグニションスイッチ

イグニションスイッチは3段切換えです。キーを回してオン、オフ、ロックを切り替えます。



キーの位置	作用	キーの脱着
ON	エンジンは始動し走行できる。すべての電装部品が使用できる。	抜けない
OFF	エンジンが停止する。エンジンは始動できない。電気回路を遮断する。	抜ける
LOCK	エンジンは始動できない。電気回路を遮断する。ステアリングがロックされる。	抜ける

⚠ 警告

走行中にイグニションキーをオフやロックの位置に操作すると電気系統の作動が停止し、負傷や死亡事故につながる可能性があります。イグニションキーは必ず停車中に操作してください。

アドバイス

○ イグニションスイッチをオンの位置に回したとき、ポジションライト、テールライト、ライセンスプレートライトが点灯します。ヘッドライトはエンジンが始動してエンジンスタート／ストップスイッチを放すと点灯します。

注意

イグニションスイッチがオンの位置のまま、またはエンジン始動後、アイドリング状態で長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。車から離れるときは必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。金属製キーホルダは、使用しないでください。また、イグニションキーにリング等で他のキーをつなげないでください。走行中、キーホルダや他のキーが車の部品を傷つけたり、キーシリンダの損傷の原因となります。

注意

ハザードボタンを長時間使用すると、バッテリが上がる原因になるため、ハザードボタンは長時間使用しないでください。

イモビライザシステム

この車は、電子的に車に登録されているイグニションキーを使用しないとエンジンが始動できないイモビライザシステムを装備しております。

この車に登録されている専用の2本のイグニションキーでエンジンを始動することができます。イグニションキー1本は、紛失しないように保管しておくことをおすすめします。

イグニションキーは最大5本まで登録することができます。新しくイグニションキーを追加されるときは、全てのイグニションキーをお車に添えてカワサキ正規取扱店にお申しつけください。

もしイグニションキーを全て紛失された場合は、新しくイグニションキーを登録することができなくなりますので、ご注意ください。

注意

イグニションキーの保護のために次の注意事項をお守りください。
- **リング等で他のキーをつなげないでください。**
- **水につけたり、高温にさらしたり、磁気を近づけたりしないようにしてください。**
- **キーの上に重い物を置かないようにしてください。**
- **キーを分解しないようにしてください。**
- **キーを落とすまたは、強い衝撃を与えないようにしてください。**
- **イグニションキーを紛失されたときは、ただちにカワサキ正規取扱店にご相談してください。イグニションキーを紛失した場合は残りのイグニションキーすべての再登録をお勧めいたします。**
- **全てのイグニションキーを紛失されたときは、ECUの交換と、新しいイグニションキーの登録が必要となります。**

登録された専用のイグニションキーでないと、エンジンは始動しません。エンジンの始動の際には、登録された専用のイグニションキーをご使用ください。

イグニションスイッチをオフにすると、イモビライザインジケータが点滅し、イモビライザシステムが作動します。イモビライザインジケータは24時間経過後に消えますが、イモビライザシステムは作動しています。

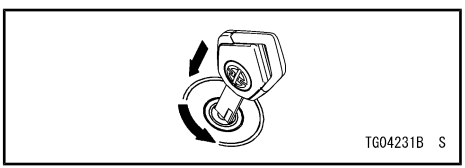
ステアリングロック

車から離れるときは、盗難予防のため必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

かけ方

- ハンドルを左にきります。
- ロックの位置にするときは、オフの位置でキーを押し込み、そのままロックの位置まで回します。



- ハンドルを軽く左右に動かし確実にロックされているか確認します。
- キーを抜きます。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

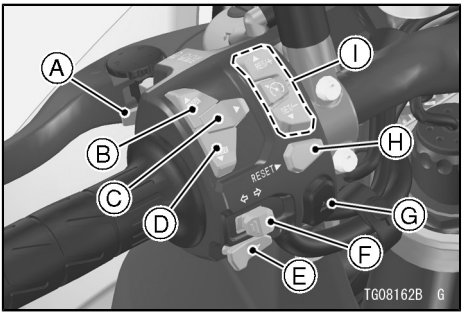
はずし方

- キーを差し込みます。
- キーをオフの位置まで回します。

⚠ 警告

ハンドルのきれ角が左右均等でないと、死亡または重大な傷害となる事故につながる可能性があります。走行前にハンドルを左右に動かして、ハンドルのきれ角が左右均等であることを確認してください。

左ハンドルスイッチ



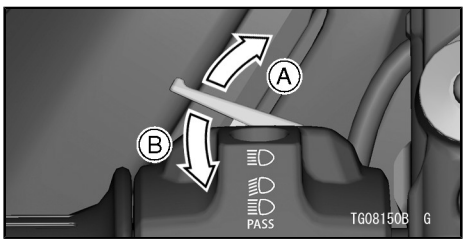
A. ディマ／パッシングボタン
B. 上MODEボタン
C. ミドルボタン
D. 下MODEボタン
E. ホーンボタン
F. ターンシグナルスイッチ
G. ハザードボタン
H. RESETボタン
I. クルーズコントロールボタン

(A)ディマ／パッシングボタン

ヘッドライトの照射の上下切り替えは、ディマ／パッシングボタンで行います。

ハイビーム（上向き）を使用するときは、ボタンを前方に押し出してください。ロービームに戻す場合は、ボタンを手前に引いてください。

他車に対して合図をするときは、ボタンを手前に引いてください。ボタンを手前に引いている間だけハイビームが点灯します。



A. 押す:ハイビーム点灯
B. 引く:ハイビーム消灯／パッシング

≡D	上向き
≡D	下向き
≡D PASS	パッシング

アドバイス

- **ヘッドライト点灯時にレンズ部分を衣類等でさえぎらないでください。ヘッドライトの熱によりレンズ部が変色、溶損等を引き起こす可能性が有ります。また、さえぎった衣類等にも影響を及ぼす可能性がありますので、行わないでください。**

(B/D)上MODEボタン／下MODEボタン

メータ表示やインテグレイテッドライディングモードの切り替え等に使用します。

メータ表示：「メータの見方、使い方」の章を参照してください（30ページの参照）。

ライディングモード：「正しい運転操作」の章、「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください（148ページの参照）。

(C) ミドルボタン

メータ表示の切り替えに使用します。「メータの見方、使い方」の章を参照してください(30ページを参照)。

(E)ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。ホーンが正常に作動しない時は、ホーンが故障しています。

アドバイス

- **必要なとき以外は使用しないでください。**

(F)ターンシグナルスイッチ

右左折するときや進路を変更するときは、ターンシグナルで合図します。

スイッチを左（ ⇦ ）または右（ ⇨ ）に入れると、メータユニットのターンシグナルインジケータが、ターンシグナルライトと共に点滅します。

⇦ ･･･左折　　⇨ ･･･右折

⚠ 警告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除しません。使用後は必ずスイッチを操作して解除してください。つけたままにしておくと他の方の判断を誤らせて事故をまねく可能性があります。

(G)ハザードボタン

路肩で緊急停車するときは、ハザードライトで他の運転者に停車していることを警告します。

イグニションスイッチをオンの位置にしてハザードボタンを押すと、ターンシグナルインジケータとすべてのターンシグナルライトが点滅します。

注意

ハザードボタンを長時間使用すると、バッテリが上がる原因になるため、ハザードボタンは長時間使用しないでください。

(H)RESETボタン

メータ表示のリセット等に使用します。「メータの見方、使い方」の章を参照してください(30ページを参照)。

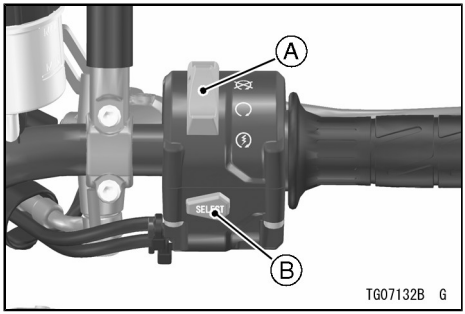
(I)クルーズコントロールボタン

クルーズコントロールシステムの操作に使用します。「正しい運転操作」の章、「クルーズコントロールシステム」の項を参照してください(160ページを参照)。

右ハンドルスイッチ

アドバイス

○ 右ハンドルスイッチに磁石等を近づけないでください。電子スロットルセンサに影響を与える可能性があります。



A. エンジンスタート／ストップスイッチ
B. SELECTボタン

(A)エンジンスタート／ストップスイッチ

エンジンを始動する手順については、「正しい運転操作」の章の「エンジンのかけ方」の項を参照してください(136ページを参照)。

注意

スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

非常時にエンジンを停止するには、エンジンストップスイッチを ⊠ の位置にします。

通常、車を作動させるためには、エンジンストップスイッチを ↺ の位置にしなければなりません。

アドバイス

- **エンジンストップスイッチは、転倒またはスロットル系統に故障を生じたときなどの非常時にエンジンを停止させるために使用します。**
- **通常、エンジンを停止するときは、イグニションスイッチを使用します。**

注意

- **エンジンストップスイッチでエンジン停止後、すぐにイグニションスイッチをオフにしてください。オンのままにしておくと、バッテリあがりの原因となります。**
- **走行中にエンジンストップスイッチを ↺ → ⊠ → ↺ にするとエンジン回転が円滑に作動しなくなり、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。**

(B) SELECTボタン

メータ表示の切り替えに使用します。「メータの見方、使い方」の章を参照してください(30ページを参照)。

各部の取り扱い方

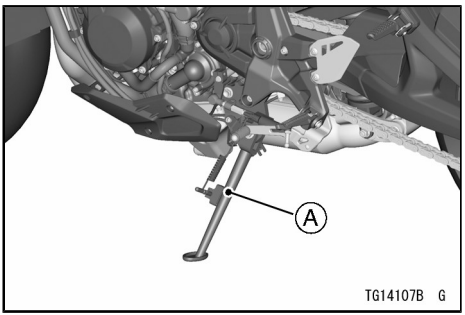
サイドスタンド

この車にはサイドスタンドがあります。

サイドスタンドを使ったときは、発進する前に、サイドスタンドを確実に格納する習慣をつけてください。サイドスタンドが降りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが止まります。

アドバイス

- **サイドスタンドを使用する時には、ハンドルを必ず左にきってください。**
- **車から離れる前にサイドスタンドが確実にセットされているか確認してください。**



A. サイドスタンド

ブレーキレバーアジャスタ

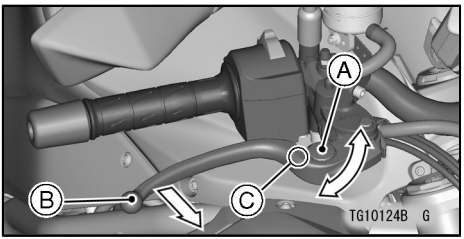
ZR1000P

ブレーキレバーとグリップの距離を6段階からお好みの位置に調整できます。レバーとグリップの距離は1が最大、6が最小です。

● レバーを前方に押しながらアジャスタを回して、アジャスタの番号をレバーのマークに合わせ、レバーを放します。

[ブレーキレバーの位置調整]

アジャスタの位置	1	2	3	4	5	6
レバーとグリップの距離	遠い← — →近い					



A. アジャスタ
B. ブレーキレバー
C. マーク

ZR1000R

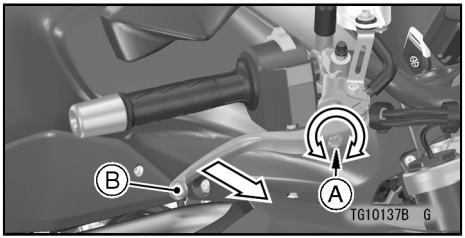
⚠ 警告

記載したレバー位置調整以外は行わないでください。ブレーキレバー位置調整以外の内容についてはカワサキ正規取扱店にご相談ください。

● レバーを前方に押しながらアジャスタを回して好みの位置に調整し、レバーを放します。

[ブレーキレバーの位置調整]

アジャスタ	締め込む← — →ゆるめる
レバーの位置	遠い← — →近い



A. アジャスタ
B. ブレーキレバー

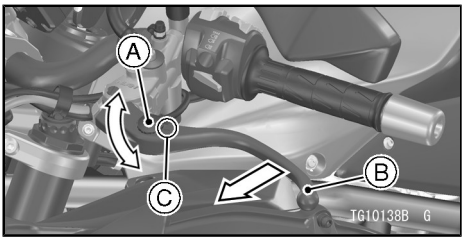
クラッチレバーアジャスタ

クラッチレバーとグリップの距離を5段階からお好みの位置に調整できます。レバーとグリップの距離は1が最大、5が最小です。

- レバーを前方に押しながらアジャスタを回して、アジャスタの番号をレバーホルダのマークに合わせ、レバーを放します。

[クラッチレバーの位置調整]

アジャスタの位置	1	2	3	4	5
レバーとグリップの距離	遠い← — →近い				



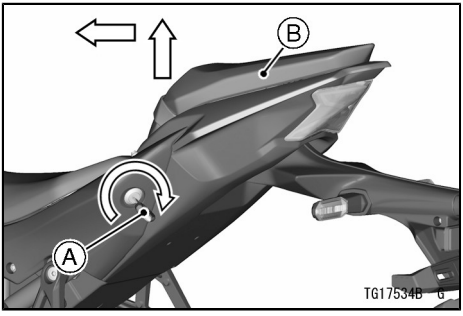
A. アジャスタ
B. クラッチレバー
C. マーク

シート

シートは同乗者、運転者の順で取り外し可能です。

同乗者用シートの取り外し

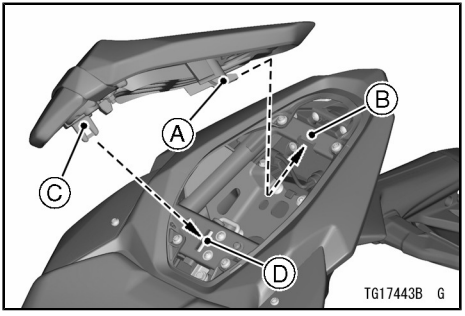
- シートロックにイグニションキーを差し込みます。
- イグニションキーを時計回りに回し、シートの前側を引き上げます。
- 同乗者用シートを前方へ取り外します。
- イグニションキーを抜き取ります。



A. イグニションキー
B. 同乗者用シート

同乗者用シートの取り付け

- シート後側のフックを車体後端部に差し込みます。
- シート前側にあるラッチプレートをラッチ穴に差し込みます。
- シートの前側を上から押してロックします。

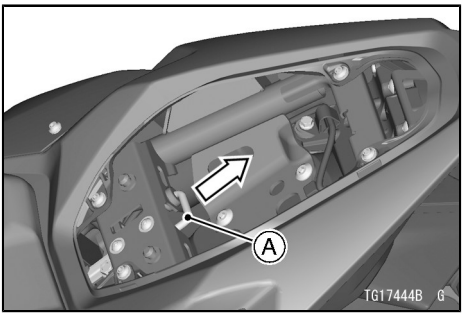


A. フック
B. 車体後端部
C. ラッチプレート
D. ラッチ穴

- シートの前後を軽く引き上げ、確実にロックされていることを確認します。

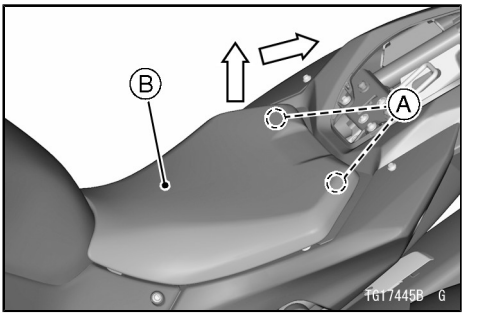
運転者用シートの取り外し

- 同乗者用シートを取り外します(99ページを参照)。
- シートロックブラケットをずらします。



A. シートロックブラケット

- 運転者用シートの後部を引き上げて突起からはずし、シートを後方へ取り外します。



A. 突起
B. 運転者用シート

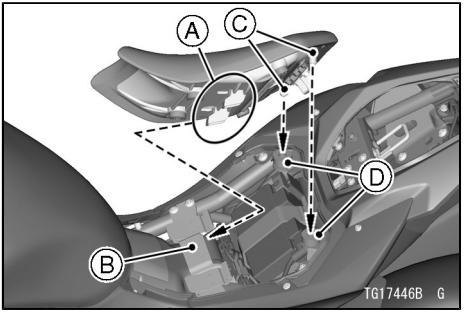
運転者用シートの取り付け

- シート前側のフックをシートブラケットの下部に差し込みます。

アドバイス

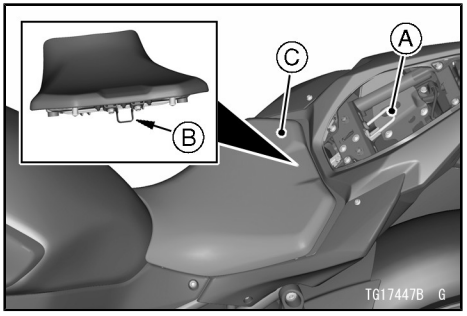
○ **前側のフックが正しく差し込まれていない場合、シートを押し下げたときに、シートの金属ブラケットによってシートカバーに傷や破損が生じる可能性があります。**

- シート後側の突起を車体のグロメットに差し込みます。



A. フック
B. シートブラケット
C. 突起
D. グロメット

- シートロックブラケットを、運転者用シートの金属ブラケットに差し込んで固定します。



A. シートロックブラケット
B. 金属ブラケット
C. 運転者用シート

- 同乗者用シートを取り付けます(99ページを参照)。

ヘルメットロック

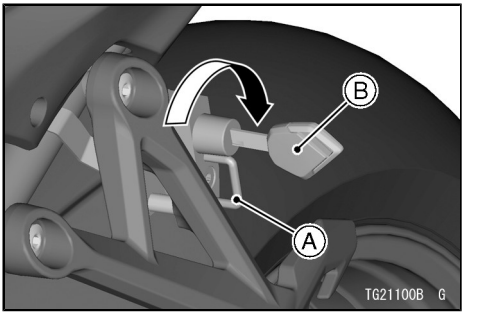
車体の左側に、ヘルメットをかけるためのヘルメットロックがあります。

⚠ 警告

ヘルメットをヘルメットロックにつけた状態で走行すると、走行の妨げになり事故につながる危険性があります。また、ヘルメットに損傷を与え機能を低下させる可能性があります。ヘルメットをヘルメットロックにつけたまま走行しないでください。

ヘルメットロックの使い方

- ヘルメットロックにイグニションキーを差し込み、キーを時計回りに回してロックをはずします。
- ヘルメットロックのフックにヘルメットの金具をかけます。
- フックを閉じてキーを抜きます。



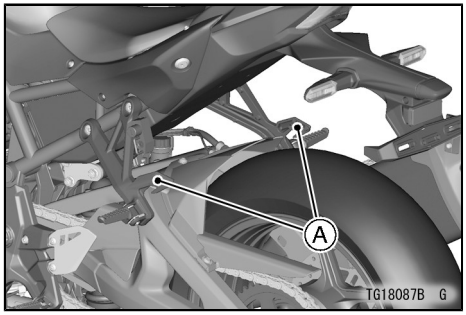
A. ヘルメットロック
B. イグニションキー

アドバイス

○ ヘルメットロックは、常にロックした状態にしておいてください。

荷掛けフック

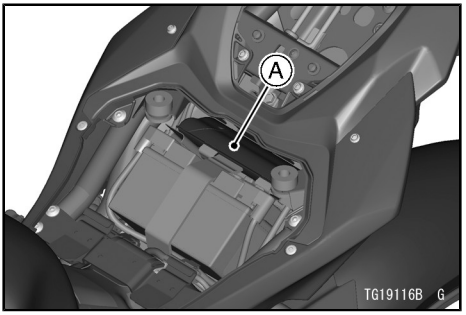
シートに軽い荷物を結びつける場合、リヤステップ後方にある左右の荷掛けフックを使用してください。



A. 荷掛けフック

ツールキット

運転者用シート下にツールキットがあります。ツールキットは整備や調整などに使用するので常備してください。



A. ツールキット

バックミラー

乗車位置から後方の安全を十分確認できる位置にミラーを合わせます。

調整方法

- ミラー部を動かして微調整をします。
- ミラー部で調整できない場合、ゴムブーツをずらしてステー取り付け部

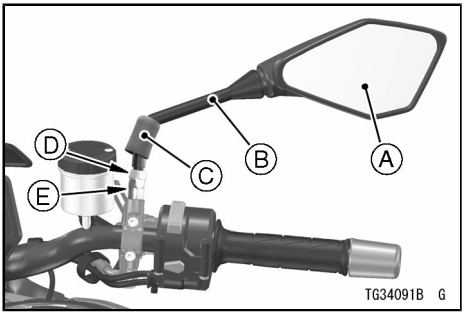
の上側ナット部をゆるめ、ステーを手で回して調整してください。

アドバイス

○ 上側ナット部は逆ねじです。

締め付けトルク

下側ナット部：30 N·m（3.1 kgf·m）
上側ナット部：18 N·m（1.8 kgf·m）



A. バックミラー
B. ステー
C. ゴムブーツ
D. 上側ナット部
E. 下側ナット部

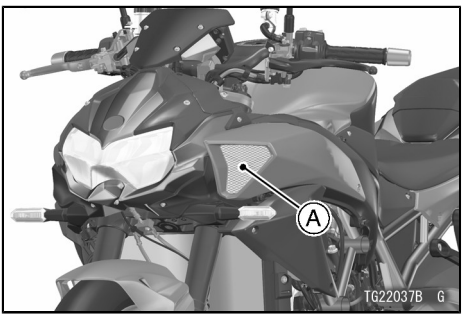
アドバイス

○ トルクレンチがない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

エアインテーク

エンジンに空気を取り入れるためのエアインテーク（吸気口）が車の前方

にあります。このエアインテークを塞いでしまうと、空気取り入れ量が少なくなり、車の性能を低下させたり、排出ガスを増やしたりする原因となります。



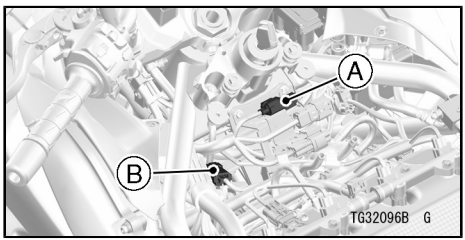
A. エアインテーク

アクセサリコネクタ

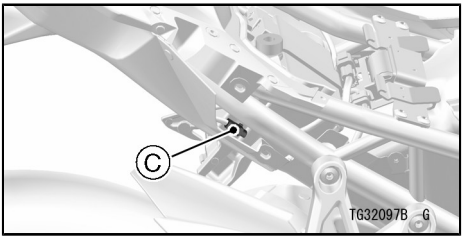
アクセサリコネクタからバッテリ電源を取り出すことができます。以下の注意事項に従ってご使用ください。

アドバイス

- アクセサリコネクタをご使用になる場合は、専用のリレーが必要となるモデルがあります。
- アクセサリコネクタをご使用になる場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



A. 純正グリップヒータ用（燃料タンク下）
B. 純正DC12 Vアウトレット用（燃料タンク下）



C. 純正USBソケット用(シートカバー内側)

アクセサリコネクタ		定格ヒューズ	許容電力
A	グリップヒータ	15 A	54 W
B	DC12 Vアウトレット	2 A	25 W
C	USBソケット		

注意

- **アクセサリ用回路には必ず定格のヒューズを使用してください。**
- **このアクセサリ用回路には許容以上の負荷をかけないでください。負荷が大きくなると、エンジンをかけていてもバッテリが放電する可能性があります。**

サスペンションセッティング

各自の好みや運転の状態、路面、積荷の状態に応じて調整ができます。

フロントフォークのセッティング

注意

通常走行時や雨天時、未舗装路を走行した際、インナチューブに付着した汚れ（砂埃、泥、虫等）は固まる前に清掃してください。付着したまま使用を続けるとオイルシールが損傷しオイル漏れの原因となります。

スプリングの初期荷重の調整（ZR1000P）

右側のフロントフォーク上部にスプリング初期荷重アジャスタがあります。

- アジャスタを回すことにより、スプリングの初期荷重を変えることができます。

＜硬くする場合＞

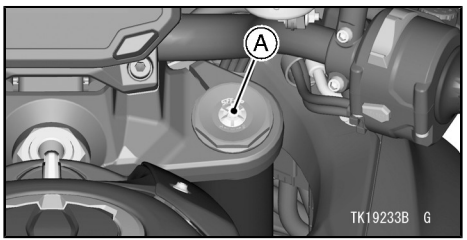
アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞

アジャスタを反時計回りに回します。

アドバイス

○ 標準値と調整範囲は、「セッティング表」を参照してください(113ページを参照)。



A. スプリング初期荷重アジャスタ

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

伸側減衰力の調整(ZR1000P)

左側のフロントフォーク上部に伸側減衰力アジャスタ（TEN）があります。

- アジャスタを回すことにより、フォークが伸びるときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。

＜硬くする場合＞

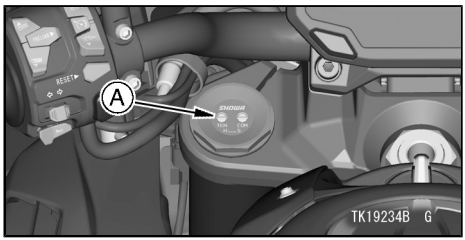
アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞

アジャスタを反時計回りに回します。

アドバイス

○ 標準値と調整範囲は、「セッティング表」を参照してください(113ページを参照)。



A. 伸側減衰力アジャスタ(TEN)

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

圧側減衰力の調整(ZR1000P)

左側のフロントフォーク上部に圧側減衰力アジャスタ（COM）があります。

- アジャスタを回すことにより、フォークが縮むときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。

＜硬くする場合＞

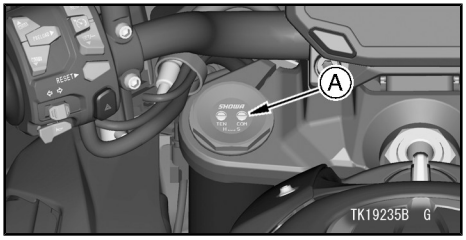
アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞

アジャスタを反時計回りに回します。

アドバイス

○ 標準値と調整範囲は、「セッティング表」を参照してください(113ページを参照)。



A. 圧側減衰力アジャスタ(COM)

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

スプリングの初期荷重の調整(ZR1000R)

右側のフロントフォーク下部にスプリング初期荷重アジャスタがあります。

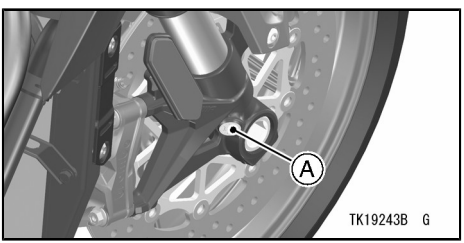
● アジャスタを回すことにより、スプリングの初期荷重を変えることができます。

＜硬くする場合＞
アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞
アジャスタを反時計回りに回します。

アドバイス

○ 標準値と調整範囲は、「セッティング表」を参照してください(116ページを参照)。



A. スプリング初期荷重アジャスタ

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

リヤショックアブソーバのセッティング

スプリングの初期荷重の調整

スプリングの初期荷重の調整は、リヤショックアブソーバのアジャスティングナットを回すことにより調整できます。

もし、スプリングの状態を柔らかく感じたり、硬く感じたときは、カワサキ正規取扱店で調整を行ってください。

伸側減衰力の調整(ZR1000P)

リヤショックアブソーバ下部に伸側減衰力アジャスタ（TEN）があります。

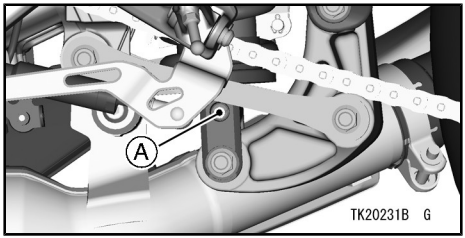
- アジャスタを回すことにより、リヤショックアブソーバが伸びるときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。

＜硬くする場合＞
アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞
アジャスタを反時計回りに回します。

アドバイス

○ 標準値と調整範囲は、「セッティング表」を参照してください(113ページを参照)。



A. 伸側減衰力アジャスタ（TEN）

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

リヤショックアブソーバの取り扱い方

⚠ 警告

リヤショックアブソーバには、高圧窒素ガスが封入されています。取り扱いを誤ると爆発する可能性があります。

- **リヤショックアブソーバを火中に投棄しないでください。火中に投棄すると爆発が起こり、危険です。**
- **リヤショックアブソーバは穴をあけたり、分解をしないでください。穴をあけたり分解を行うとオイルが吹き出し、危険です。**

アドバイス

○ リヤショックアブソーバを廃棄するときは、カワサキ正規取扱店にお申しつけください。

セッティング表（ZR1000P）

フロントフォークスプリング初期荷重のセッティング

	柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置	0*	**11回転戻し****	20回転戻し**
スプリングの作用	弱い	←→	強い
設定	柔らかい	←→	硬い
荷重	軽い	←→	重い
路面	良好	←→	悪路
速度	低速	←→	高速

*：アジャスタを反時計回り一杯に回した位置。
**：反時計回り一杯の位置から時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、初期荷重に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

フロントフォーク減衰力のセッティング

		柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置：	伸側（TEN）	5 1/2回転戻し**	**4 1/2回転戻し****	0*
	圧側（COM）	7回転戻し**	**5回転戻し****	0*
減衰力		弱い	←→	強い
設定		柔らかい	←→	硬い
荷重		軽い	←→	重い
路面		良好	←→	悪路
速度		低速	←→	高速

*：アジャスタを時計回り一杯に回した位置。
**：時計回り一杯の位置から反時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

リヤショックアブソーバ減衰力のセッティング

		柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置：	伸側（TEN）	2 1/2回転戻し**	**1 3/4回転戻し****	0*
減衰力		弱い	←→	強い
設定		柔らかい	←→	硬い
荷重		軽い	←→	重い
路面		良好	←→	悪路
速度		低速	←→	高速

*：アジャスタを時計回り一杯に回した位置。
**：時計回り一杯の位置から反時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

セッティング表（ZR1000R）

フロントフォークスプリング初期荷重のセッティング

	柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置	0*	**8回転戻し****	15回転戻し**
スプリングの作用	弱い	←→	強い
設定	柔らかい	←→	硬い
荷重	軽い	←→	重い
路面	良好	←→	悪路
速度	低速	←→	高速

*：アジャスタを反時計回り一杯に回した位置。
**：反時計回り一杯の位置から時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、初期荷重に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

ETCの取り扱い方(ETCを搭載している場合)

ETCとは

- ETC (Electronic Toll Collection) とは、有料道路（高速道路）において料金所の通過をスムーズに行うため、無線通信を用いて利用料金を自動精算するシステムです。

ETC2.0の情報提供サービス

- ETC2.0は、道路側のITS（高度道路交通システム）スポットアンテナと無線通信することで、ITSスポットから発信されている交通情報（安全運転支援情報、渋滞回避支援情報、災害時支援情報など）を受け取ることができます。本モデルでは、受け取った交通情報をメータユニットのETCインジケータでお知らせします。

ETCを利用するには

- ETCを利用するには、事前にETCカードの取得が必要です。お客様ご自身によりクレジットカード会社等へお申込みください。
- すでにETCカードを所有している場合は、車種を問わずにご利用いただけます。
- 車両の情報を車載器に登録するため、ご利用前にセットアップが必要です。詳しくはカワサキ正規取扱店にご相談ください。
- ナンバープレートが変更になった場合等には、再セットアップが必要です。

ETC利用上の注意

- ETCシステムを安全に使用して頂くため、ご利用前に必ず以下の事項を

お読み頂き、記載された内容に従って正しくお使いください。

- ETCカードを挿入する前に、車載器本体のカードソケット、ETCカードのコンタクト面に汚れ、濡れが無いことをご確認ください。
- 汚れや濡れがあると接触不良を起こし、車載器の故障の原因となります。汚れや濡れがあった場合は、柔らかい乾いた布等で取り除いてください。
- ETCカードの出し入れは雨等に濡れない場所で行ってください。
- 車載器のアンテナ周辺を物などで遮らないでください。
- アンテナの位置は、本書の車両各部の名称をご覧ください。
- 車載器は二輪車専用ですので、四輪車には使用できません。
- 乗車前にETCカードを車載器に確実に挿入し、正常に作動することを確認してください。
- ETCカードの有効期限をあらかじめご確認ください。
- 有効期限切れのETCカードを車載器に挿入した場合でも、車載器はカードを正常に認証しますが、料金所の開閉バーは開かず利用料金の自動精算も行えません。
- 盗難防止のため、車両から離れる際はETCカードを車載器から取り出してください。
- ETCカードを車載器に挿入したまま放置すると、カードが高温で変形し、車載器が正常に作動しなくなる場合があります。また、ETCカードに強い力を加えることもカード変形の原因となりますので、取り扱いにはご注意ください。
- ETCカードの取扱いは、ご契約された発行会社の注意事項に従ってください。
- 車載器管理番号は、お持ちの車載器に記載されている19桁の固有の番号で、ETCの各種割引サービスを受け

る場合、あるいは今後の新たなサービスを受けるにあたって必要な番号です。

- 車載器を他の車両に載せ換える場合や、住所変更等により車両の登録住所が変更となり、ナンバープレートを変更する場合には車載器への車両情報の再登録が必要になります。再登録する場合にはカワサキ正規取扱店へご相談ください。

⚠ 警告

ETC車載器の取り扱いを誤ると、火災や感電による負傷や、死亡事故につながる危険性があります。必ず下記の項目を守ってください。

- **ご自身での車載器の載せ替え等は絶対に行わないでください。取り付け方法を誤る可能性があります。**
- **ETCアンテナの周辺に物を置いたり、周囲を塞がないでください。料金所通行時に通信エラーとなり、開閉バーが開かない可能性があります。**

注意

ETC車載器の取り扱いを誤ると、破損、故障、誤作動の原因となる可能性があります。必ず下記の項目を守ってください。

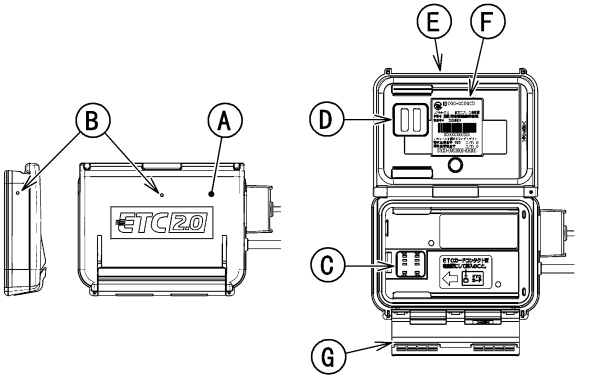
- **分解や改造を行わないでください。不法改造により法律で罰せられます。**
- **車載器の上に荷物を載せるなど、圧迫しないでください。**
- **車載器内部へ水、金属などの異物が混入した場合や異常に高温となった場合、または異臭や煙が出ている場合などは、イグニションスイッチをオフにして、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

- 料金所では、案内板等により、ETCが利用可能であることを確認し、ETCレーンでは路面表示に従って走行してください。
- ETCレーンには、十分な車間距離をとり、20km/h以下に減速して進入し、徐行して通行してください。ETCレーンでの並走、追い抜き、車群走行は禁止です。
- ETCレーンを走行中に開閉バーが開かなかった場合は、路側表示が停車と出る場合もありますが、後続車による追突防止のため、後退や停車をせず、開閉バーを避けてETCレーンから退避し、駐停車が禁止されていない場所から安全を確認の上、すみやかにご利用の高速道路会社にご連絡ください。
- 有料道路の入口料金所から出口料金所を出るまでは、同一のETCカードを継続して使用してください。ETCカードには、通行料金の計算に必要な情報が記録されます。異なるETCカードを使用すると料金が正しく計算されない場合があります。
- 一部の料金所では、左側のETCレーンの利用を推奨しています。対象と

なる料金所では、「ETC 二輪 左へ」等の案内板が設置されています。

- 通信エラー等により、入口料金所のETCレーンで通行券を受け取られた場合は、出口料金所でのお支払いは係員のいるレーンで一旦停止し、ETCカードと通行券を係員にお渡しください。清算機のあるレーンでは、インターホン等で係員を呼び出してください。
- ETCを利用して入口料金所を通過した場合で、出口料金所でETCレーンが利用できない時、あるいは設置されていない時は、一旦停止してETCカードを係員にお渡しください。
- 点検等によりETCレーンが閉鎖されている場合は、係員のいるレーンでETCカードでの支払いが可能です。
- ETCシステムのご利用方法、通行方法、制限事項等については、「ETCシステム利用規定」（https://www.go-etc.jp/）をご覧ください。

車載器各部の名称



TG32062B S

A. ETC車載器本体
B. 呼吸穴
C. カードソケット
D. 耐振ゴム
E. カバー
F. 銘版
G. バックル

(A)ETC車載器本体

ETCカードを装着させ、路側アンテナとの通信の制御を行います。

(B)呼吸穴

ケース内の気圧を調整し、防水性を保ちます。防水性の低下およびカバーが開かなくなる可能性があるため、呼吸穴は塞がないでください。

(C)カードソケット

ETCカードとの通信を行います。

(D)耐振ゴム

ETCカードとカードソケットの接触を保持します。カード認証ができなくなったり、カード破損の原因となるため、耐振ゴムは剥がさないでください。

(E)カバー

ETCカード着脱時に開閉します。

(F)銘版

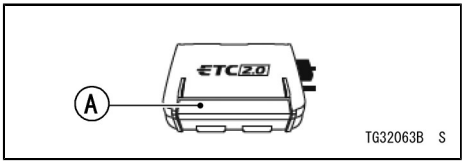
型式、製造年月日、技適番号、車載器管理番号等が記載されています。認証機器としての証明ですので、銘版は剥がさないでください。

(G)バックル

カバー開閉時に付け外しします。車載器の使用/不使用に関わらず、常にロックしてください。

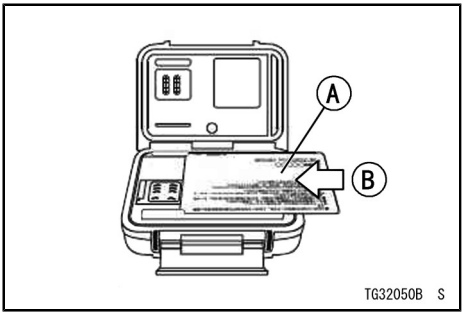
ETCカードの挿入

- バックルを外し、車載器本体のカバーを開いてください。



A. バックル

- ETCカードの端子面と車載器本体のカードソケットが接触するようにスライドさせて突き当たるまで挿入してください。

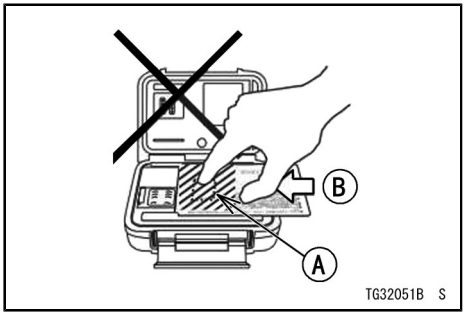


A. ETCカード
B. 挿入方向

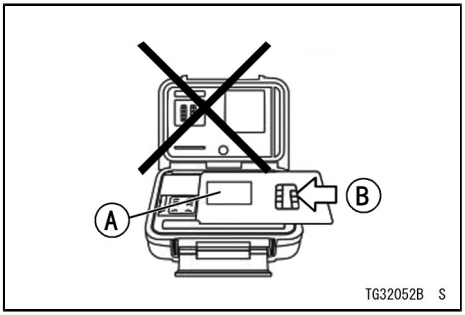
- カバーを閉じ、バックルでカバーを固定します。
- イグニションスイッチをオンにすると、カード認証が開始され、メータユニットのETCインジケータが緑/赤に交互点滅します。
- カードが正常に認証されると、メータユニットのETCインジケータが緑色に点灯します。

注意

- ETCカードを挿入する際、カードのICチップ付近を押さえながら入れると、車載器のカードコネクタピンが破損する可能性があります。カードの端を軽く押してゆっくりと挿入してください。
- ETCカードの向き(前後、表裏)を誤ったり、ETCカードではない物を挿入した場合も、カードコネクタピンが破損する可能性があります。カードの向きや種類をよくご確認ください。



A. ICチップ
B. 挿入方向



A. 表面
B. 挿入方向

ETCインジケータの表示について

状態	ETCインジケータのパターン
車載器が利用できる時 料金所で正常に情報を受け取った時	緑　点灯
ETCカードが未挿入の時 車載器が利用できない時	赤 点灯／点滅
料金所で異常情報を受け取った時	赤　点灯
ETCカード認証中	緑／赤 交互点滅
車載器が未セットアップの時	赤　点滅
イグニションスイッチをオフにした時	消灯
ETCカードの更新をお知らせする時	2秒おきに3回赤点滅

状態	ETCインジケータのパターン
ITSスポットで注意喚起情報を受け取った時	赤高速点滅(約5秒間)
ITSスポットで一般情報を受け取った時	緑高速点滅(約2秒間)

注意

ETCカードの更新をお知らせする機能は簡易的な機能です。GPS信号を受信していない時は、ETCカードの有効期限切れ判定は行わず、インジケータ表示は緑点灯のままとなります。

⚠ 警告

メータユニットのETCインジケータが緑色に点灯していない場合、ETCシステムは利用できません。ETCレーンの開閉バーが開かず、負傷や死亡事故につながる可能性があります。

ETCレーンでの注意

- ETCレーンに進入する前に、メータユニットのETCインジケータが緑色に点灯していることを確認してください。
- 確認する際は、インジケータを注視せず、運転の妨げにならないようにしてください。
- ETCレーンでは路面表示(レーンマーク)に従って走行してください。
- ETCレーンには、十分な車間距離をとり、20km/h以下に減速して進入

し、徐行して通行してください。ETCレーンでの並走、追い抜き、車群走行は禁止です。

- 渋滞などでETCレーンに他の車両が停車している場合も、絶対に追い抜きはしないでください。

⚠ 警告

ETCレーンで並走、追い抜き、車群走行などを行った場合、ETCが正常に作動せず、負傷や死亡事故につながる可能性があります。充分な車間距離を保ち、1台ずつまっすぐに進入してください。

- スマートインターチェンジ*を利用する場合は、車両停止状態で通信が行われるため、必ず開閉バーの手前で一旦停止してください。一旦停止しても開閉バーが開かない場合は、レーンに設置されたインターホン等で係員を呼び、案内に従ってください。
- 運営時間、出入り方向、対象車種等に制約がある場合がありますので、ご注意ください。

*スマートインターチェンジ：高速道路の本線、サービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができ、ETCを搭載した車両のみ通行が可能なインターチェンジ。

⚠ 警告

ETCアンテナの周辺に物を置いたり、周囲を塞ぐと通信エラーの原因となります。料金所通行時に開閉バーが開かず、負傷や死亡事故につながる可能性があります。

故障かなと思ったら

- 次の表で内容を確認し、ご対応ください。
- 症状が改善されない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

症状	確認事項	対応
ETCインジケータが緑色に点灯しない	ETCカードが挿入されているか。	ETCカードを正しく挿入してください。(挿入方向、表裏等)
	ETCカードが正しく挿入されているか。	
	ETCカードのICチップ、車載器本体のカードソケットに汚れや濡れがないか。	ETCカードのICチップ、車載器本体のカードソケットを掃除してください。
	ETCカードが変形していないか。	変形していないETCカードをご使用ください。
ETCレーンの料金所で開閉バーが開かない	料金所との通信トラブル。	開閉バーが開かなかった場合、後続車による追突防止のため、後退や停車をせず、開閉バーを避けてETCレーンから退避し、駐停車が禁止されていない場所から安全を確認の上、すみやかにご利用の高速道路会社にご連絡ください。
	ETCカードの有効期限が切れていないか。	有効なETCカードをご使用ください。
	アンテナの周囲に遮蔽物がないか。	アンテナ周辺に電波を遮るものを置かないでください。

症状	確認事項	対応
ETCカードが入らない	ETCカードが変形していないか。	変形していないカードをご使用ください。
	車載器の内部に異物が入っていないか。	異物を取り除いてください。
請求金額が違う	下記のホームページにて利用履歴をご確認ください。 https://www.go-etc.jp/  	料金については、ご利用のETCカード発行会社（クレジットカード会社）にお問合せください。

燃料の補給

ガソリンの補給

⚠ 警告

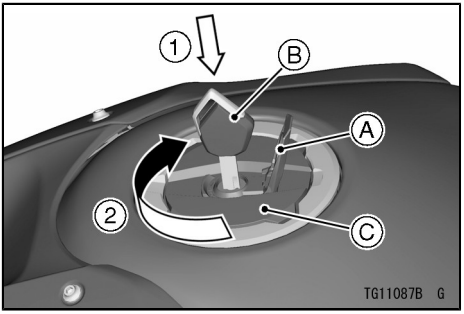
燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。燃料を取り扱うときあるいは、給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- **タバコを吸うなど火気を近づけないでください。**
- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。**
- **給油は必ず風通しのよい屋外で行ってください。**

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります。次のことは必ず守ってください。

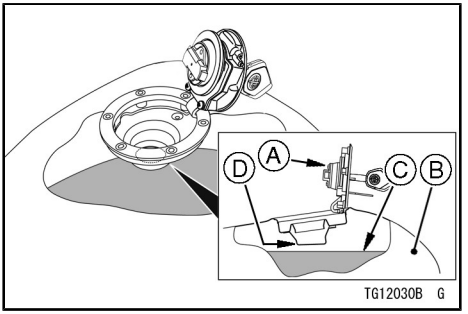
- **タンクキャップを開ける前に車体または、給油機等の金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。**
- **ガソリンまたは燃料がこぼれた場合は、布などで完全に拭きとってください。**
- **タンクキャップを開けるなど、給油機の操作は必ず、静電気の除去を行った人お1人で行ってください。**
- **給油口に他の人を近づけないでください。**

- キーホールカバーを引き上げます。
- 燃料タンクキャップのロックにイグニションキーを差し込み、燃料タンクキャップを軽く押しながらイグニションキーを時計回りに回します。



A. キーホールカバー
B. イグニションキー
C. 燃料タンクキャップ

- タンクキャップを開けます。
- 燃料を給油します。燃料は注入口にあるレベルプレートの下端以上入れず、図のように少し控え目に入れてください。



A. 燃料タンクキャップ
B. 燃料タンク
C. トップレベル
D. レベルプレートの下端

タンク容量：19 L

使用燃料：無鉛プレミアムガソリン

注意

- **必ず無鉛プレミアムガソリンを使用してください。燃料を補給するときは、必ず無鉛プレミアムガソリンであることを確認してから行ってください。無鉛レギュラガソリンを使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。**
- **高濃度アルコール燃料を使用しないでください。高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。**
- **粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす可能性があります。**

- タンクキャップを閉じるときは、イグニションキーをキャップに差し込んだ状態で、キャップを手で押し下げます。
- キーを"LOCK"の位置に回して抜きます。
- キーホールカバーを閉めます。
- サイドスタンド状態においては燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。

アドバイス

○ タンクキャップはイグニションキーを差し込んでいないとロックできません。また、キャップが確実にロックされていないとキーは抜けません。

○ タンクキャップを閉じるときに、イグニションキーを持って押し付けないでください。正しくロックできません。

⚠ 警告

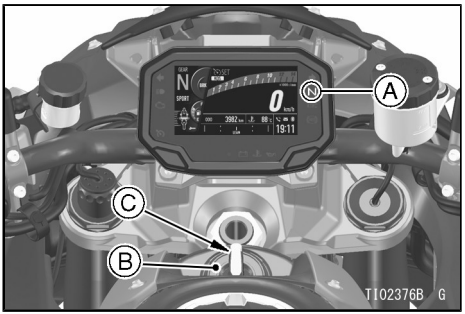
燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。燃料を取り扱うときあるいは、給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- **燃料タンクに燃料を入れすぎると、走行中燃料が膨張してタンクキャップのブリーザホースからにじみ出ることがあります。燃料は入れすぎないでください。**
- **タンクキャップは確実に閉めてください。**
- **燃料がこぼれた場合は、ただちに布などで完全に拭きとってください。**

正しい運転操作

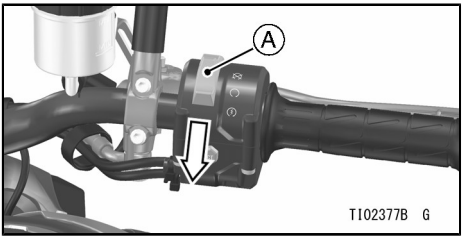
エンジンのかけ方

- イグニションスイッチをオンにします。
- トランスミッションをニュートラルにします。ニュートラルに入っているかどうかニュートラルインジケータで確認します。



A. ニュートラルインジケータ
B. イグニションスイッチ
C. オンの位置

- メータの初期動作が終了したのち、スロットルグリップを動かさずに、クラッチレバーを握り、エンジンスタート／ストップスイッチを の位置にスライドし、エンジンを始動させます。



A. エンジンスタート／ストップスイッチ

アドバイス

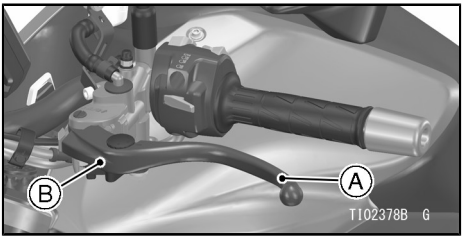
○ エンジン冷間時にはファーストアイドル機構が自動的に働き、エンジン回転速度が高くなります。この時、無理なスロットル操作を行うとエンジン警告インジケータが点灯する可能性があります。
○ この車には、転倒した際に自動的にエンジンを停止させるための転倒センサを採用しています。再度エンジンを始動させるには車体を垂直に起こした後、一旦イグニションスイッチをオフにして、それから再度イグニションスイッチをオンにします。

⚠ 危険

排気ガスには、無色無臭の有毒ガスである一酸化炭素が含まれています。排気ガスを吸い込むと、意識不明になったり、死亡する可能性があります。閉め切った場所でエンジンを運転しないでください。換気の良い場所で作業してください。

アドバイス

○ スタータロックアウトシステムにより、サイドスタンドが降りている時は、ニュートラル以外でエンジンは始動できません。



A. クラッチレバー
B. スタータロックアウトスイッチ

アドバイス

- エンジンスタート／ストップスイッチをスライドして5秒以内でエンジンが始動しない時は、一旦イグニションスイッチをオフにし、10秒くらい休んでから再度イグニションスイッチをオンにしてエンジンスタート／ストップスイッチをスライドしてください。これはバッテリ電圧を回復させるためです。
- エンジンが始動してエンジンスタート／ストップスイッチを放すと、ヘッドライトが点灯します。
- 不必要な空吹かしはしないでください。燃料の無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を及ぼします。
- アイドリング状態で長時間放置すると、充電不良を起こし、バッテリに悪影響を及ぼします。

ならし運転

最初の1 000 kmを走行するまでは下表のエンジン回転速度以下でならし運転をしてください。ならし運転を行うと、車の性能を維持し寿命を延ばします。

走行距離	エンジン回転速度
0 ~ 350 km	4 000 rpm
350 ~ 600 km	6 000 rpm
600 ~ 1 000 km	控えめな運転

アドバイス

- 必要に応じて一時的に制限回転速度を超えることは問題ありません。

○ 不必要な空吹かし、急加速、急減速はつつしんでください。
○ 法定速度を守って走行してください。

走り方

● サイドスタンドが完全に戻っているかを確認します。

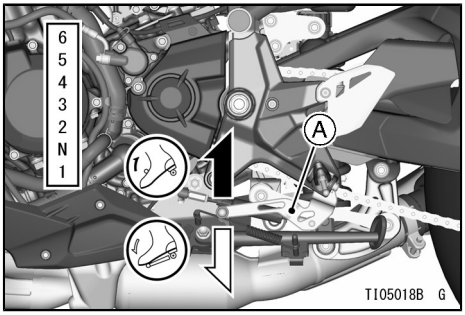
アドバイス

○ サイドスタンドが降りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが止まります。
○ サイドスタンドが滑らかに作動しない時は取り付け部に注油を行い、滑らかに作動するか確認してください。

⚠ 警告

走行中はサイドスタンドを操作しないでください。走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが止まり、思わぬ事故の原因となることがあります。

● クラッチレバーを握り、シフトペダルを操作してギヤを１速に入れ、静かに発進します。
● 車のスピードに応じてギヤチェンジをします。ギヤチェンジは6段リターン式です。



A. シフトペダル

アドバイス

○ ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻し、クラッチレバーを完全に握ってから行ってください。
○ チェンジ操作は、ペダルにコツンと感じるまで確実に行ってください。
○ チェンジ操作が堅く感じられる時は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。
○ 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命を延ばします。

注意

- **無理なチェンジ操作やシフトペダルに足を乗せたままでの走行は、チェンジ機構やクラッチを傷める原因となります。**
- **走行中に異常を感じたときは、ただちにカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

シフトダウンの仕方

追い越しするとき等強力な加速が必要な時は、シフトダウン（低速ギヤにチェンジ）をすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うとエンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を及ぼします。各ギヤ共、5 000 rpm以下で行ってください。

⚠ 警告

急激なシフトダウンは、走行安定性をそこない転倒等の原因となりますので行わないでください。

ブレーキの使い方

- ブレーキは前後輪同時に使用してください。

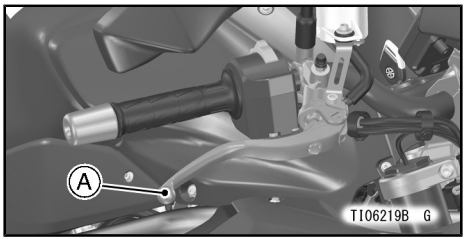
⚠ 警告

前輪または後輪ブレーキだけを使うと、走行安定性をそこない横すべりや転倒の原因となる場合があります。必ず前後ブレーキを同時にかけてください。

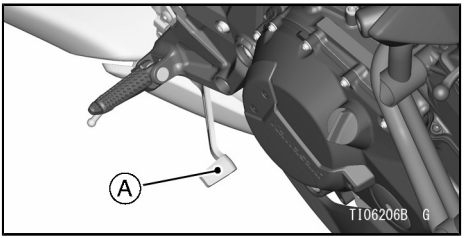
- 不必要な急ブレーキはかけないでください。

⚠ 警告

急ブレーキをかけると、走行安定性をそこない横すべりや転倒の原因となる場合があります。不必要な急ブレーキは行わないでください。



A. フロントブレーキレバー



A. リヤブレーキペダル

アドバイス

- 雨の日や路面が濡れているところ、雪道や凍った道路では路面が滑りやすく、晴天時よりも制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもって運転してください。
- 長い坂道を下る時等に連続してブレーキを使用すると、ブレーキ部の温度が上昇しブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。このようなときはエンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。
- 雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキの効きが悪い時は、周囲の交通状況に充分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

エンジンブレーキ

走行中、スロットルグリップを戻した時にかかる制動力です。低速ギヤほどエンジンブレーキはよく効きます。

ABS

ABS（アンチロックブレーキシステム）は、直線走行中に急ブレーキをかけたとき、車輪がロックしないように設計されています。ABSはブレーキ力を自動的に制御します。グリップ力とブレーキ力を断続的に得ることによって、車輪がロックすることを防ぎ、車が停止するまで運転者が安定したハンドル操作をできるようにします。

ブレーキの操作は通常の車と同じです。前輪ブレーキはブレーキレバーで、後輪ブレーキはブレーキペダルでかけます。

ABSは車輪のロックを防いで車を安全に停止させますが、次のような特徴がありますので注意してください。

- ABSは悪い路面、誤った判断、または間違ったブレーキのかけ方を良い方向に補うことはできません。ABSがついていない車と同じような注意が必要です。
- ABSは停止距離を縮めるようには設計されていません。すべりやすい、凹凸が多い、あるいは下りの道路などでは、ABS搭載の車の方が搭載されていない車より停止距離が長くなる場合があります。このようなところを走行するときは特に注意してください。
- ABSは直線走行中にブレーキをかけたとき車輪がロックすることを防ぐのに役立ちます。しかし、コーナリング中にブレーキをかけたときに起こる車輪の横すべりをコントロールすることはできません。コーナリング中のブレーキはかけない方が安全です。もしかける必要がある場合は、前後輪共、軽くかけるだけにします。

アドバイス

○ コーナに入る前にシフトダウンをして、充分に減速してください。

- ABSに組み込まれているコンピュータは、車の走行速度と車輪の回転速度を比べています。指定サイズ以外のタイヤは車輪の回転速度を変え、コンピュータを誤作動させて停止距離を長くすることがあります。

⚠ 警告

指定外のタイヤを使用するとABSが誤作動を起こし、停止距離が長くなって事故につながる可能性があります。必ず指定されたタイヤを使用してください。

⚠ 警告

ABSシステムの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

アドバイス

○ ABSの作動中に、ブレーキレバーやペダルに振動を感じることがあります。これは異常ではありませんので、ブレーキをかけているのを中断する必要はありません。

○ バッテリが上がっている場合も、ABSは作動しません。

○ 以下の車速ではABSは作動しません。

約10 km/h以下

KIBS

KIBS（カワサキインテリジェントアンチロックブレーキシステム）はスポーツライディングにおいて、よりスムーズなブレーキ制御を行うシステムです。

KIBSは減速中の車輪のロックを防ぐために、前後輪の車輪回転速度に加えてエンジンのデータも使用して自動的にブレーキの強さを制御します。

⚠ 警告

KIBSの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

エンジンの止め方

- スロットルグリップを全閉にします。
- トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチをオフにします。

エンジンの非常停止

何らかの原因で、エンジンがスロットルコントロールを失うと非常に危険な状態に陥ることがあります。このような非常時において、イグニションスイッチで停止できないときはエンジンスタート／ストップスイッチを ⊠ の位置にしてください。ハンドルから手をはなさずにエンジンを停止することができます。

駐車の仕方

⚠ 警告

可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

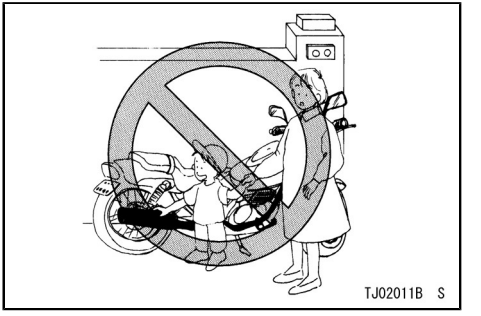
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

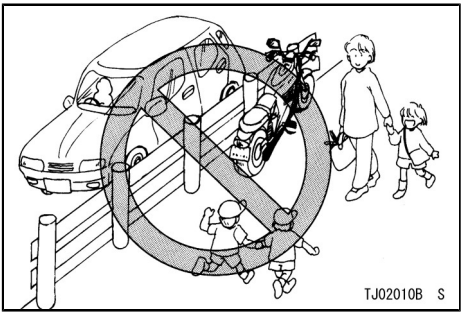
- 車を止め、トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチをオフにしてエンジンを停止させます。
- サイドスタンドを使って、水平でしっかりとした場所に駐車します。

⚠ 警告

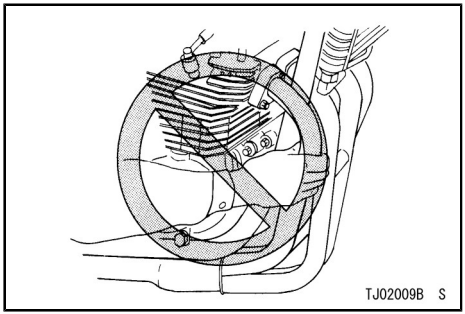
坂道、砂利道や凸凹な所に駐車すると、スタンドが不安定になり転倒する可能性があります。車が安定するところに駐車してください。

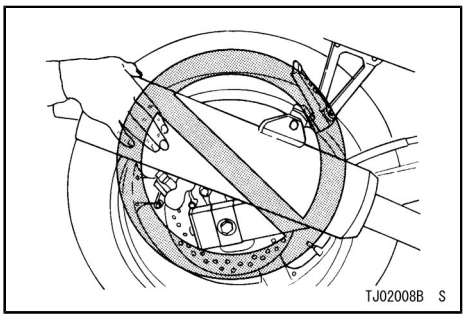
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。





- エンジン回転中や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンに触れないでください。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車してください。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。





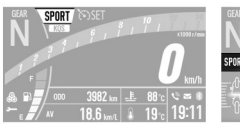
- ガレージまたはその他の建物の内部に駐車する時は、風通しが良く、火気のない所にします。

⚠ 警告

ガソリンは引火性が高く火災の原因になることがあります。ガソリンを取り扱うとき、あるいは燃料を給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- ステアリングをロックします。盗難防止のため、**車から離れるときは必ずステアリングをロックし、キーを抜いてお持ちください。**

インテグレイテッドライディングモード



この車両は、ボタンひとつでその性能特性を変更できます。各ライディングモードはエンジンを統合制御します。ZR1000Rは、それらに加えてサスペンションの制御（*）も行います。

SPORT:

パワーモード	F（100%）
KTRC	1（介入、少）
KECS*	HARD（硬め）

ROAD:

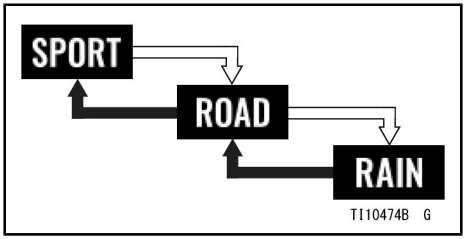
パワーモード	F（100%）
KTRC	2（中間）
KECS*	NORMAL（標準）

RAIN:

パワーモード	L（50%）
KTRC	3（介入、多）
KECS*	SOFT（柔らかめ）

ライディングモードの切り替え方法

- 上下のMODEボタンを長押ししてモードを切り替えます。



➡ :上MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :下MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
- スロットルを開けているとき
- クルーズコントロールを使用しているとき

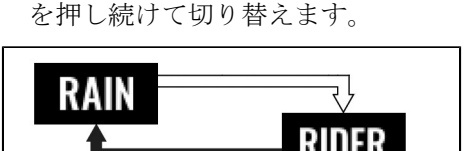
ライダモード（RIDER）

3種類のライディングモードに加えて、好みに合わせて設定を変えられる「ライダモード」が利用できます。パ

ワーモード、KTRC、ZR1000Rは更にKECS（減衰力）のパラメータを調整できます。

ライダモード（RIDER）への切り替え方法

- メニューモードでライダモードを使用できるようにしてください。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード」の項を参照してください(62ページを参照)。
- “RAIN”モードのときに下MODEボタンを押し続けて切り替えます。



➡ :上MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

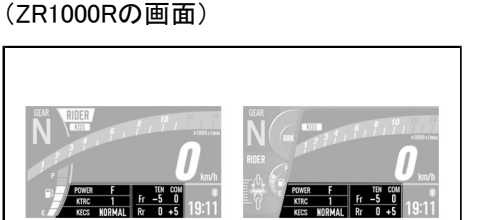
⇨ :下MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
- スロットルを開けているとき
- クルーズコントロールを使用しているとき

アドバイス

○ ライダモードに切り替えると、各パラメータの設定状態がマルチファンクションディスプレイ上に表示されます。

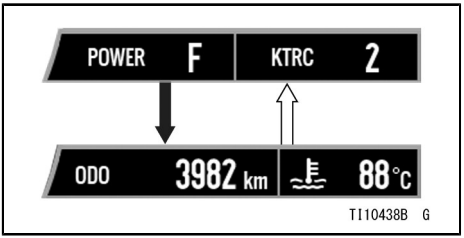
（ZR1000Rの画面）



- パラメータを非表示にするには、RESETボタンを長押ししてください。

● パラメータを再度表示するには、SELECTボタンを押してください。

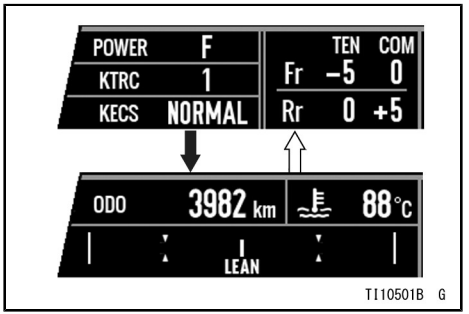
（ZR1000Pの画面）



➡ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方

（ZR1000Rの画面）



➡ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

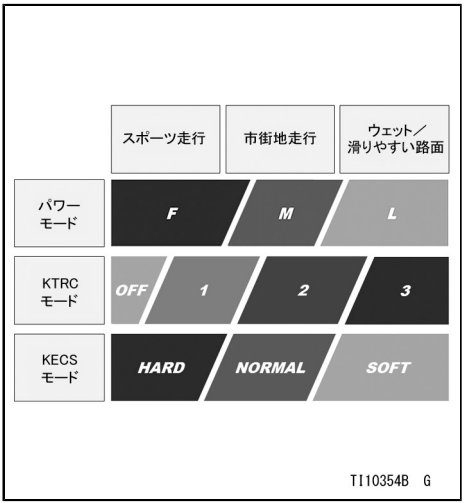
⇨ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方

ライダモードのパラメータ

パワーモード、KTRC、KECSのパラメータを組み合わせることにより、好みに合わせた設定を作成できます。

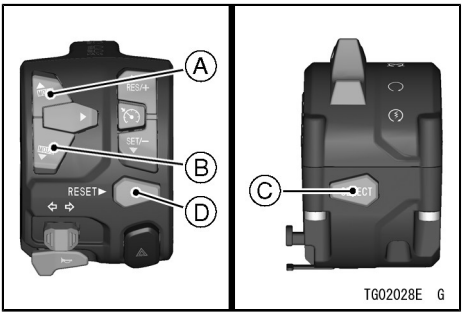
各モードの組み合わせは運転者の技量や路面状況により異なります。組み合わせは、次の表を参考に、運転者自身の判断で行ってください。

組み合わせの例



ZR1000Rのみ、KECSを装備しています

パラメータの変更方法



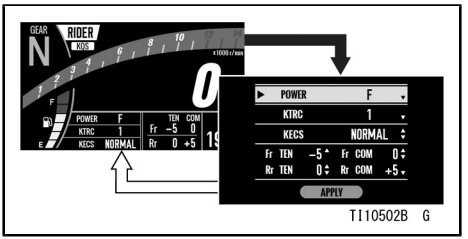
A. 選択項目の移動
B. 選択項目の移動
C. 次の画面に進む(決定)
D. 前の画面に戻る(キャンセル)

アドバイス

○ RESETボタンの代わりにスロットルグリップを回しても前の画面に戻れます。

- ライダモードのパラメータを表示してください。
- SELECTボタンを押すと詳細設定画面に切り替わります。
- 下記の状態では切り替えができません。
- スロットルを開けているとき
- 車速が5 km/hを超えているとき

(ZR1000Rの画面)



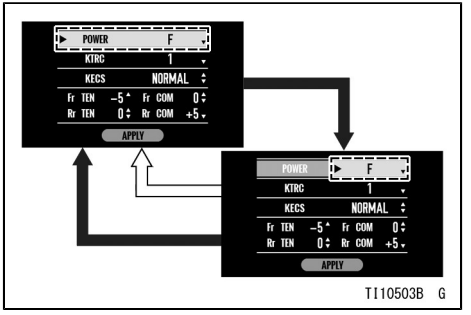
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

- 上下のMODEボタンを使って"POWER"を選択してください。
- SELECTボタンを押し、上下のMODEボタンでパラメータを選択してください。

パラメータ	出力特性
F	フルパワー
M	ミドルパワー（約75%）
L	ローパワー（約50%）

- SELECTボタンで決定、またはRESETボタンでキャンセルします。

（ZR1000Rの画面）



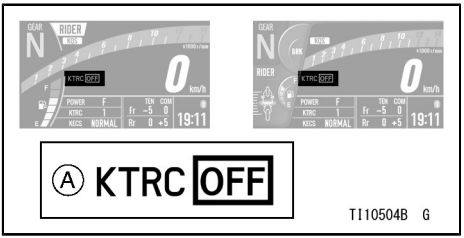
➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

- 同じ要領でKTRCのパラメータを変更します。

パラメータ	システム介入頻度
1	少
2	中
3	多
OFF	なし

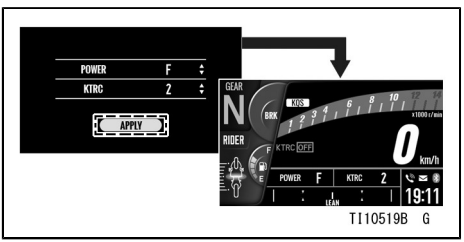
アドバイス

- KTRCをオフにすると後輪の空転が制御されなくなりますので、スロットル操作に注意してください。
- KTRCをオフにするとディスプレイスクリーンにKTRC OFFインジケータが表示されます。



A. KTRC OFFインジケータ

- ZR1000Pの場合、“APPLY”を選択してSELECTボタンを押すと、全パラメータの変更が確定します。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方

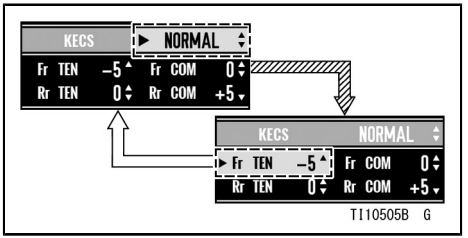
- ZR1000Rの場合、同じ要領でKECSのパラメータを変更します。

パラメータ	サスペンションセッティング
HARD	硬め。高荷重時や高速域用
NORMAL	標準レベル。
SOFT	柔らかめ。軽荷重時や低速域用

アドバイス

- **前後サスペンションの伸側／圧側減衰力セッティングを個別を調整できます。**
- **KECSの減衰力セッティングはHARD、NORMAL、SOFTそれぞれで個別に保存されます。**

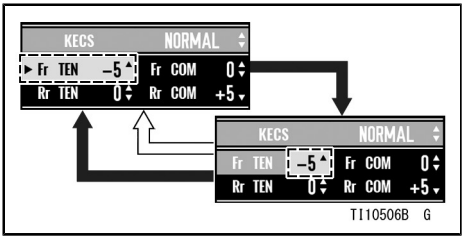
- KECSのパラメータを選択しているときにSELECTボタンを押し続けると、「Fr TEN」が選択されます。



⇛ :SELECTボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

- 変更したい減衰力を選択してSELECTボタンを押します。
- 減衰力セッティングを±5段階から選択してください。
- SELECTボタンを決定、またはRESETボタンでキャンセルします。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方

⇨ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

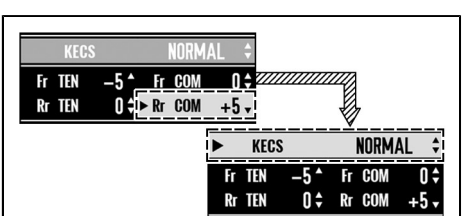
フロントフォークセッティング（Fr）

伸側減衰力（TEN）		
柔らかめ	−5 ← 0 → +5	硬め
圧側減衰力（COM）		
柔らかめ	−5 ← 0 → +5	硬め

リヤショックアブソーバセッティング（Rr）

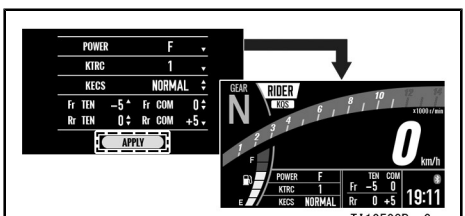
伸側減衰力（TEN）		
柔らかめ	−5 ← 0 → +5	硬め
圧側減衰力（COM）		
柔らかめ	−5 ← 0 → +5	硬め

● SELECTボタンを押し続けて変更を確定します。



⇛ :SELECTボタンを押し続けたときの切り替わり方

● “APPLY”を選択してSELECTボタンを押すと、全パラメータの変更が確定します。



➡ :SELECTボタンを押したときの切り替わり方

KTRC

KTRC（Kawasaki TRaction Control）は、加速時の後輪スリップ（ホイールスピン）を検出し、ライディング状況に応じた最適なスリップ率になるように制御するインテリジェントシステムです。スポーツ走行だけでなく、ツーリング先の荒れた路面や滑り易い路面でも安定した走行をサポートします。

KTRCは、公道で使用することを目的にしていますが、あらゆる状況に対応できるものではありません。路面状態

によってはホイールスピンが生じ、車両の加速に遅れが生じることがあります。

⚠ 警告

KTRCシステムの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

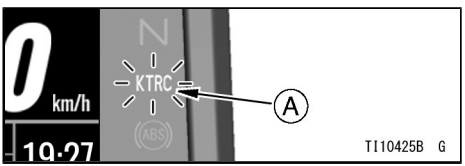
極端な加速により前輪が浮き上がると、KTRCはエンジン出力を抑制し、前輪を接地させようとします。このような場合には、スロットルグリップを少し戻してできるかぎり早く前輪を接地させてください。

⚠ 警告

指定外のタイヤを使用するとKTRCが誤作動を起こし、正しく機能しなくなって事故につながる可能性があります。必ず指定されたタイヤを使用してください。

KTRCインジケータ

システム介入中に点滅します。



A. 黄色KTRCインジケータ

KTRCモード

KTRCは、道路状況に応じて3種類の作動モードが選択できます。また、KTRCをOFFにすることもできます。

モード1:
スリップ抑制を最も控えめにしたモードです。スポーツライディングに適した加速力が得られます。

モード2:
システムの介入頻度は中程度で、モード1と3の中間レベルになります。

モード3:
システムが早期に介入し、可能なかぎり後輪の空転が抑制されます。路面のグリップ力が弱い場合に使用してください。

パワーモード

パワーモードは、3種類のエンジン出力特性が選択できます。

モードF(フルパワー):
最高出力を発揮するモードです。エンジンが持つ本来のスロットルレスポンスを発揮します。

モードM(ミドルパワー):
最高出力の75%程度の出力に抑制します。

モードL(ローパワー):
最高出力の50%程度の出力に抑制します。スロットルレスポンスが最も穏やかになります。

KECS

KECS（Kawasaki Electronic Control Suspension）はZR1000Rのみ装備しています。KECSは前後サスペンションの減衰力を個別に自動制御します。

アドバイス

○ **スプリング初期荷重は、手動で調整できます。「各部の取り扱い方」の章、「サスペンションセッティング」の項を参照してください(106ページを参照)。**

減衰力

KECSの減衰力は、3種類のセッティングが選択できます。KECSは車速や加速度およびサスペンションストロークに基づいて、自動的に伸側減衰力および圧側減衰力を調整するシステムです。

HARD:
スポーツライディングや高荷重時に適したセッティングです。

NORMAL:
路面の凹凸に対する吸収性を高めた標準的なセッティングです。

SOFT:
濡れた路面に対して効果的な、最も柔らかいセッティングです。

クルーズコントロールシステム

クルーズコントロールは、スロットルを操作することなく、車速約32 km/h以上を維持できます。

アドバイス

○ **エンジン回転速度が低い場合やギヤがニュートラル、1速、2速の場合、クルーズコントロールはセットされません。**

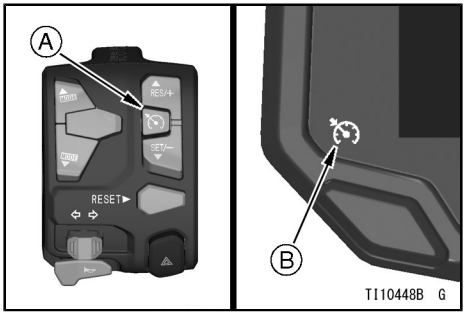
○ 3速ギヤの場合、クルーズコントロールは車速約32 km/h 以上で使用できます。
○ クルーズコントロールを使用するときは、法定速度をご確認ください。
○ エンジン保護のため、設定可能車速はギヤ位置によって異なります。

⚠ 警告

クルーズコントロールは、一定速度で安全に運転できない場合には危険を伴います。交通量の多い道路、起伏やカーブの多い道路では、死亡または重大な傷害に至る事故を引き起こす危険性があるため、クルーズコントロールを使用しないでください。

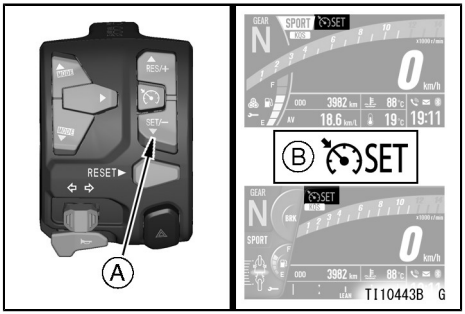
クルーズコントロールの使用方法

● 左ハンドルのクルーズコントロールボタン（ ）を押してください。システムが起動してクルーズコントロールインジケータが点灯します。

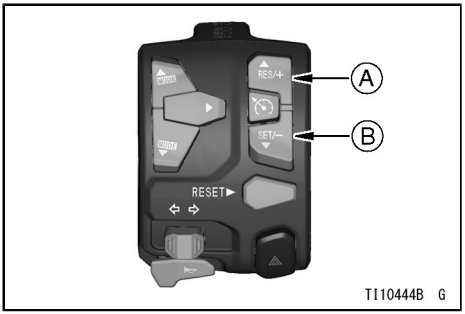


A. クルーズコントロールボタン（ ）
B. クルーズコントロールインジケータ

● 希望する車速で「SET/-」ボタンを押してください。クルーズコントロールが現在車速でセットされ、ディスプレイスクリーンにセットマークが表示されます。



A.「SET/−」ボタン
B. セットマーク



A. RES/+ボタン
B. SET/−ボタン

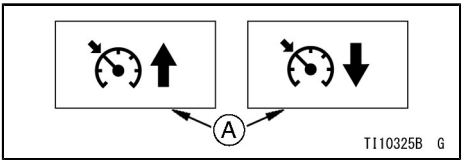
設定車速の変更方法

- 設定車速を上げるには、希望の速度になるまで「RES/+」ボタンを押し続けます。
- 設定車速を下げるには、希望の速度になるまで「SET/−」ボタンを押し続けます。

アドバイス

- 「RES/+」ボタンを素早く放したときは、設定車速が1.5 km/hずつ増加します。
- 誤操作による設定速度の上昇を防ぐため、「RES/+」ボタンの連続入力は制限される場合があります。
- 「SET/−」ボタンを素早く放したときは、設定車速が1.5 km/hずつ減少します。

○「RES/+」または「SET/−」ボタンを押している間は、ディスプレイスクリーンに矢印が表示されます。



A. 矢印

アドバイス

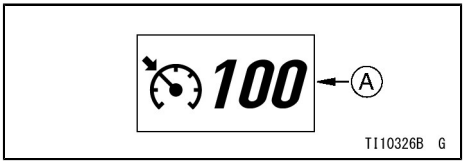
○ 一時的に加速する場合は、通常のスロットル操作で速度を上げてください。このときブレーキを使わずにスロットルを戻せば、元の設定車速に戻ります。

設定車速の解除方法

- 設定車速は以下の条件で一時的に解除されます。
- ブレーキレバーを引いたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- クラッチレバーを引いたとき
- ギヤチェンジを行ったとき
- スロットルをアイドリング位置以上に戻したとき
- クルーズコントロールは以下の条件で解除され、設定車速が消去されます。
- エンジン回転速度が約2 000 rpmを下回ったとき
- 現在車速が設定車速より15 km/h低下したとき
- クルーズコントロールボタン（ ）を押したとき
- セットマークが消えます。

設定車速への復帰方法

- 「RES/+」ボタンを押します。
- 設定車速に復帰するまで、設定車速がメインディスプレイに表示されます。



A. 設定車速

アドバイス

○ 設定車速への復帰中に「RES/+」または「SET/−」ボタンを押すと、設定車速は現在車速で再設定されます。
○ 現在車速が設定車速に復帰したとき、セットマークが再表示されます。

クルーズコントロールの終了方法

- クルーズコントロールボタン（ ）を押します。
- システムが終了してクルーズコントロールインジケータが消灯します。設定車速も消去されます。

KQS

KQS（Kawasaki Quick Shift）はクラッチ操作をせずにシフトアップ／ダウンが可能となる機能です。

KQSは自動的にシフトアップ／ダウンする機能ではありませんので、KQSが搭載されていない車両と同様のシフトペダル操作が必要です。

アドバイス

○ クラッチレバーを引いたときには、KQSは作動しません。
○ エンジン回転数が約2 500 rpm以下のときには、KQSは正しく作動しません。
○ KQSを繰り返し作動させるには、ギヤチェンジ後にシフトペダルを完全に戻す必要があります。

シフトアップ

車両加速時、クラッチ操作をせずに、かつ、スロットルグリップを戻す

ことなく、シフトアップ操作が可能となります。

アドバイス

○ スロットルグリップが閉じているときには、KQSのシフトアップ機能は働きません。

シフトダウン

車両減速時、クラッチ操作をせずにシフトダウンが可能となります。

アドバイス

○ KQSのシフトダウン機能は、スロットルグリップが閉じているときのみ働きます。

○ エンジン回転数が高い（レッドゾーン付近）ときには、KQSのシフトダウン機能は働きません。

KQSの設定

● メニューモードでKQSのオン、オフを選択できます。「メータの見方、使い方」の章の「メニューモード」の項を参照してください(62ページを参照)。

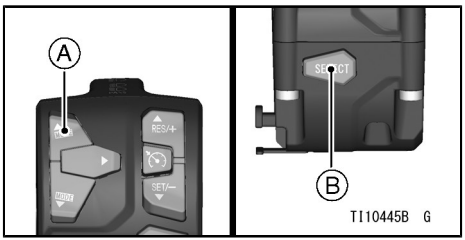
KLCM

KLCM（Kawasaki Launch Control Mode）は電子制御によりエンジン出力を制御することで、最適な発進加速を得ることができる運転者サポートシステムです。**KLCMはサーキット走行で使用し、通常走行では使用しないでください。**

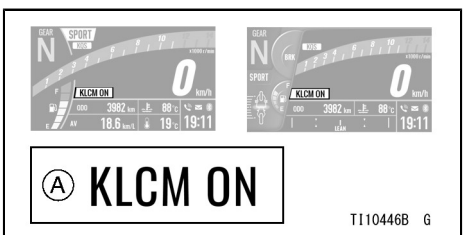
KLCMのセット方法

● ライディングモードを“SPORT”、“ROAD”または“RIDER”に変更します。
“RIDER”モードでは、パワーモードを“F”に設定してください。「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください(148ページを参照)。

- KLCM起動メッセージが3回点滅するまで、上MODEボタンとSELECTボタンを同時に押し続けます。



A. 上MODEボタン
B. SELECTボタン



A. KLCM起動メッセージ

KLCMを起動した後、停車中にギヤを1速に入れると、KLCMは作動状態になります。作動中はスロットルを全開にしても、エンジン回転速度は6 250 rpmに保たれます。

発進時はスロットルを全開にしたまま、徐々にクラッチをつなげてください。クラッチがつながった後、システムは最大限の加速を得るためにトルクを制御します。KLCMは、4速ギヤへのシフトアップ時に自動的に解除されます。

エンジン保護のため、KLCMの連続使用には一定の制限を設けています。

水温が40°C以下	制限なし
水温が41 ~ 100°C	最後の使用から2.5分間は使用できません。
水温が101°C以上	使用できません。

KLCMが使用できないときは、以下のメッセージが表示されます。



A. KLCM制限メッセージ

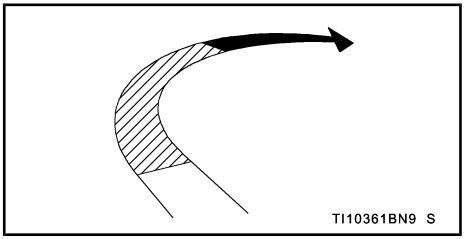
⚠ 警告

KLCMは経験を積んだ運転者向けのシステムです。使用する前にその特性を十分にご理解してください。クラッチは決して急激に接続しないでください。バランスを崩し転倒する可能性があります。また、急激な動力の伝達によりエンジンが損傷する可能性があります。

KCMF

KCMF（Kawasaki Cornering Management Function）は走行中にIMU（慣性計測装置）から得られる精細な車体姿勢の情報を基にして、コーナの入り口から出口に至る全域でエンジン・車体制御のパラメータを監視することでブレーキ力とエンジン出力を調整します。それにより減速から加速に至るまでスムーズに移行でき、意図したとおりにコーナリングを行えるように運転者をアシストします。

このシステムはKTRC、KLCM、KIBS、ZR1000Rは加えてKECSを統合制御しています。



⇨ :カーブの手前(KTRC/KLCM/KECS)
⇛ :カーブ(KIBS/KECS)
➡ :カーブの出口(KTRC/KECS)

慣性計測装置(IMU)

IMUは車体姿勢の分析に使用されています。車両に搭載された電子システムは、IMUの情報を利用することで、よりスムーズな制御を行えるようになります。

点検整備について

法令で定められた点検整備

お車を安全かつ快適にご使用いただくため、法令により日常点検と定期点検整備を行うことが義務付けられています。必ず実施してください。

1. 日常点検

走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に実施する点検です。

2. 定期点検整備

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。
二輪車については1年点検と2年点検があります。
なお、詳細についてはメンテナンスノートをご覧ください。

カワサキが指定する点検整備（メーカ指定点検整備）

- **1か月目（または1 000 km）点検整備**
  登録日から1か月目または1 000 km走行時点に行う点検です。
  お買いあげいただいたカワサキ正規取扱店にてお受けください。
- **メーカ指定点検整備**
  法令で定められた定期点検整備項目のほかに、カワサキが指定する定期点検整備項目があります。所定の時期になりましたら、法令で定められた定期点検整備と同時に実施してください。

また、総排気量が251 cm³以上の車は初回3年目、以降2年毎の継続検査（車検）を受けなければ､引き続き使用することができません。車検有効期間の満了前に必ずお受けください。
なお、点検整備の詳細についてはメンテナンスノートの「お車を安全、快適にご使用いただくために」をご覧ください。

簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換等の整備が必要となった場合、通常行われることの多い代表例について、その整備の実施方法を述べています。

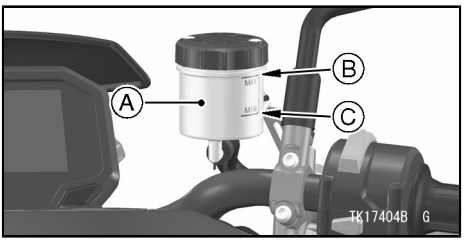
⚠ 警告

整備は安全のためご自身の知識、技量の範囲内で行ってください。難しいと思われる内容、あるいは整備後に何か不審を感じられた場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。整備を行うときは、安全に充分注意してください。

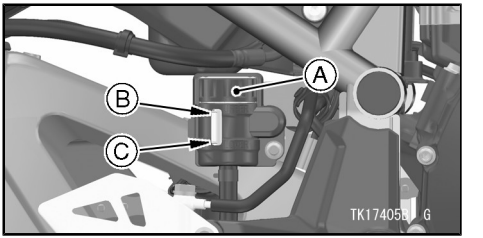
- **場所は、平坦で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジンを停止し、イグニションキーを抜いた状態で行ってください。**
- **排気ガスには有害な一酸化炭素等の成分が含まれています。エンジンをかけた状態で点検整備を行うときは、通気性の良い場所で行ってください。**
- **エンジンの運転時や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジン、ラジエータ等が熱くなっています。触れてやけどをしないようにしてください。**
- **適切な工具を使用してください。もし、不適切な工具を使用して整備作業を行うとけがをする可能性があります。**

ブレーキ液量の点検

- 平坦な場所で車を垂直にし、リザーバを水平にします。
- リザーバ内のブレーキ液量がアッパとロアレベルの間にあるかを点検します。



A. フロントブレーキリザーバ
B. アッパ(UPPER)レベルライン
C. ロア(LOWER)レベルライン



A. リヤブレーキリザーバ
B. アッパ(UPPER)レベルライン
C. ロア(LOWER)レベルライン

アドバイス

○ もし液面がロア(LOWER)レベル以下の場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきますが、ブレーキ液が早く減少する場合、ブレーキ系統からの液漏れが考えられます。重大な事故につながる可能性がありますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**
- **ブレーキ液は安全のため、2年毎の交換をおすすめします。**

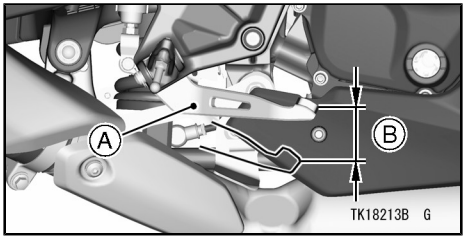
注意

- **ブレーキ液を混用すると変質するので、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **ブレーキ液は塗装をいためますので、部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。**

ブレーキライトスイッチの調整

ブレーキペダルを踏み込んだ時に、適正な踏み込み量になると、リヤブレーキライトが点灯します。

[踏み込み量]
標準値: 約7 mm

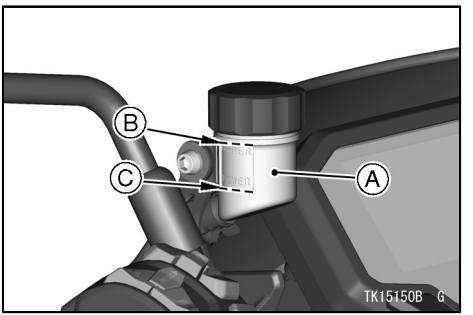


A. ブレーキペダル
B. 踏み込み量

フロントブレーキをかけた時もブレーキライトが点灯するか点検します。もし異常があれば、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

クラッチ液量の点検

- 平坦な場所で車を垂直にし、リザーバを水平にします。
- リザーバ内のブレーキ液量がアッパとロアレベルの間にあるかを点検します。



A. クラッチリザーバ
B. アッパ(UPPER)レベルライン
C. ロア(LOWER)レベルライン

アドバイス

○ ブレーキと同じ液を使用します。

⚠ 警告

● 液面はクラッチプレートの摩耗と共に下がってきますが、ブレーキ液が早く減少する場合、クラッチ系統からの液漏れが考えられます。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
● ブレーキ液は安全のため、2年毎の交換をおすすめします。

⚠ 警告

リザーバキャップを取り外す前に清掃する。密閉された容器に入ったDOT4ブレーキ液を使用すること。

注意

- **ブレーキ液を混用すると変質するので、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **ブレーキ液は塗装をいためますので、部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。**

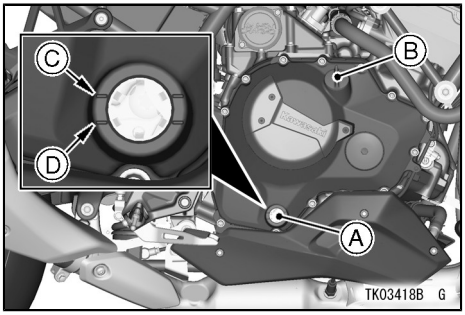
エンジンオイルの補給

- 平坦な場所で、エンジンを2～3分間アイドリング運転で暖機し、エンジンを停止します。

アドバイス

○ **走行直後でエンジンが充分に暖機していればアイドリング運転は不要です。**

- 車体を垂直にし、エンジンを停止して2～3分後に、オイル量がオイルレベル点検窓のアッパレベルとロアレベルの間にあることを確認します。
- もしオイルが多いときは、スポイトや適切な器具を使用してオイルを排出します。
- オイル量がロアレベルに近ければ、オイル注油口キャップを取り外し、オイルレベル点検窓で確認しながらアッパレベルとロアレベルの間まで、エンジンオイルを補給します。
- オイル注油口キャップを確実に取り付けます。



A. オイルレベル点検窓
B. オイル注油口キャップ
C. アッパレベル
D. ロアレベル

＜推奨オイル＞

カワサキ純正4サイクルオイル

R4 SJ 10W-40 JASO MA

S4 SG 10W-40 JASO MA

または

API SG、SH、SJ、SLまたはSM（JASO MA、MA1またはMA2適合品）

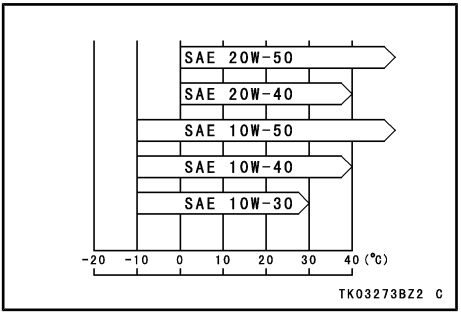
SAE 10W-40

アドバイス

○ クラッチの滑りやエンジンの性能、耐久性に悪影響を与えることがあるので、エンジンオイルに摩擦を低減させる添加物は加えないでください。

エンジンオイルの粘度は、次の図を参考にして使用する地域の外気温によって使いわけてください。なお、前述の推奨オイルと同じAPI分類とSAE規格のエンジンオイルでも、それぞれオイルの特性等が微妙に異なっているた

め、この車には適合しない場合があります。



交換時期は“走行キロ毎交換”と“年（月）毎交換”のどちらか早い方で実施してください。

＜エンジンオイル交換時期＞

初回： 1 000 km時　または　1か月時
2回目： 6 000 km時　または　1年時
以後： 6 000 km毎　または　1年毎

[エンジンオイル量]

ｵｲﾙﾌｨﾙﾀを取り外していない時	3.5 L
ｵｲﾙﾌｨﾙﾀを取り外した時	4.3 L

＜オイルフィルタ交換時期＞

初回： 1 000 km時　または　1か月時
2回目： 18 000 km時
以後： 18 000 km毎

アドバイス

- 補給するときには、オイル注油口からゴミ等が入らないようにしてください。
- オイル量は、規定範囲の上限（アッパレベル）を超えないようにしてください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **オイルをこぼしたときは、完全に拭きとってください。**

注意

- **銘柄や等級の違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用すると変質してエンジンの故障の原因になることがあります。同一銘柄、等級の良品質オイルを使用してください。銘柄、等級が不明の場合はオイル全てを交換してください。**

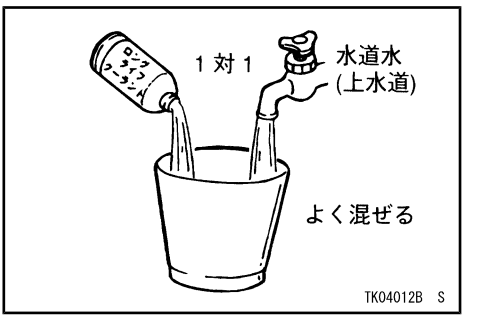
アドバイス

○ 油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

冷却液

冷却液の作り方

カワサキ純正ロングライフクーラントと水道水（上水道）を1：1に混ぜ合わせます。



⚠ 警告

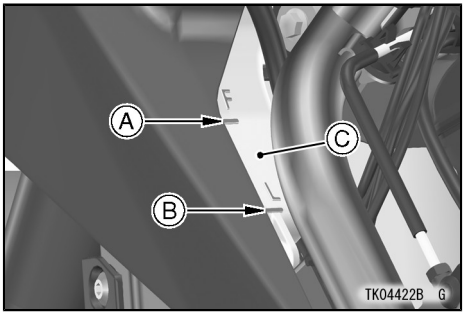
冷却液には毒性があります。取り扱いには充分注意してください。
- **皮膚や衣類についた場合**
  すみやかに水で洗ってから、石けん水で洗ってください。
- **目に入った場合**
  水で充分洗い流してから、医師の診察を受けてください。
- **飲んだ場合**
  直ちにおう吐させ、医師の診察を受けてください。

注意

冷却液に混合または補充する水は水道水（上水道）を使用してください。井戸水や塩分を含む天然水はエンジンの損傷につながるので使用しないでください。

冷却液の点検

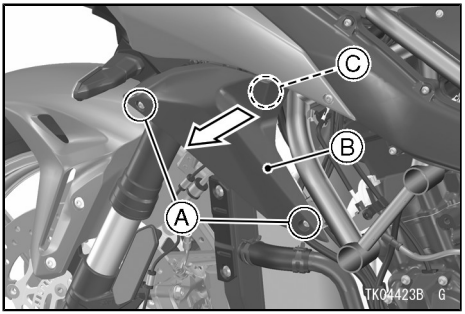
- 車体を地面と垂直に保持します。
- エンジンが冷えている時に、左ミドルカウリングの裏側にあるリザーブタンク内の冷却液の量を点検します。液面がL（下限）マークラインより下がっている場合は、リザーブタンクのキャップをはずして、タンクのF（上限）とL（下限）のマークラインの間まで冷却液を補給します。



A. F(上限)マークライン
B. L(下限)マークライン
C. リザーブタンク

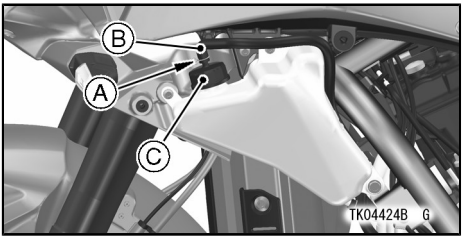
冷却液の補給

- ボルトとワッシャを取り外します。
- 左ミドルカウリングを外側へ引いて突起をはずします。



A. ボルトおよびワッシャ
B. 左ミドルカウリング
C. 突起

- ホースの損傷を防ぐため、クランプをずらしてホースをはずします。
- リザーブタンクのキャップをはずし、タンクのF（上限）とL（下限）のマークラインの間まで冷却液を補給します。



A. クランプ
B. ホース
C. リザーブタンクキャップ

アドバイス

○ 冷却液はF（上限）マークラインを超えて補給しないでください。

注意

冷却液の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、エンジン内部、ホースなどからの液漏れが考えられますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。冷却液の交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

- リザーブタンクにリザーブタンクキャップを取り付けます。
- ホースを挟まないように、取り外した部品を取り付けます。

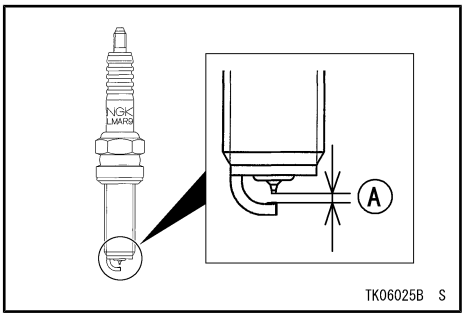
スパークプラグ

スパークプラグは以下の通りです。

標準プラグ	NGK SILMAR9E9
プラグギャップ	0.8～0.9 mm

締め付けトルク

スパークプラグ：13 N·m（1.3 kgf·m）



A. プラグギャップ

注意

スパークプラグを交換するときは、指定スパークプラグ以外は使用しないでください。エンジン故障の原因となります。

アドバイス

○ スパークプラグの取り外しおよび取り付けは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

エアクリーナ

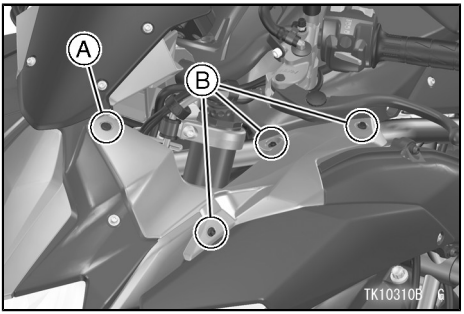
エアクリーナエレメントが詰まると吸入空気量が不足し、燃料消費量増加、出力低下、プラグかぶり等の原因になります。

アドバイス

○ 著しくほこり等の多い場所を走行した場合は、定期点検期間よりお早めに点検を行ってください。

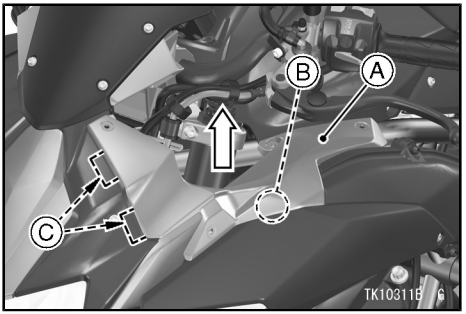
エレメントの交換

- クイックリベットを取り外します。
- ボルトを取り外します。



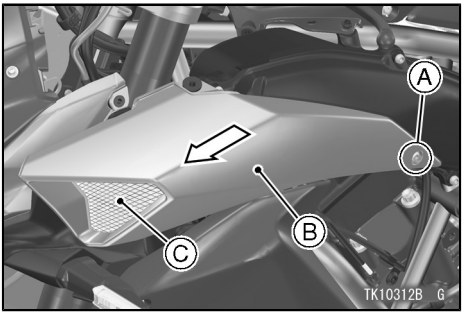
A. クイックリベット
B. ボルト

- 左インナカウリングを引き上げて突起と爪をはずします。



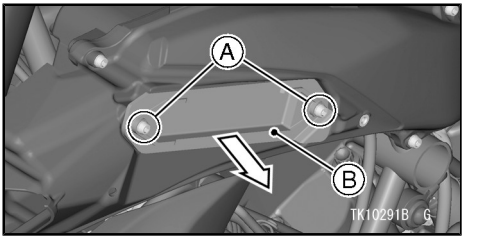
A. 左インナカウリング
B. 突起
C. 爪

- ボルトを取り外します。
- インテークダクトカバーを、スクリーンと共に前方へ取り外します。



A. ボルト
B. インテークダクトカバー
C. スクリーン

- ボルトを取り外します。
- エアクリーナエレメントを取り外します。



A. ボルト
B. エアクリーナエレメント

- 新しいエレメントを取り付けます。
- ボルトを既定のトルクで締め付けます。

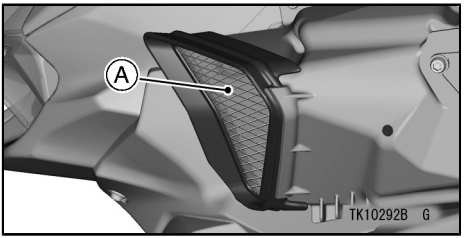
締め付けトルク

エアクリーナエレメントボルト：5.9 N·m (0.60 kgf·m)

アドバイス

○ トルクレンチがない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

- スクリーンをインテークダクトへ取り付けます。

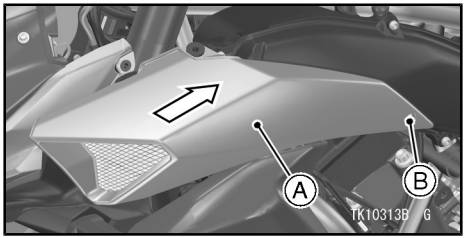


A. スクリーン

- インテークダクトカバーを取り付けます。
- ボルトを既定のトルクで締め付けます。

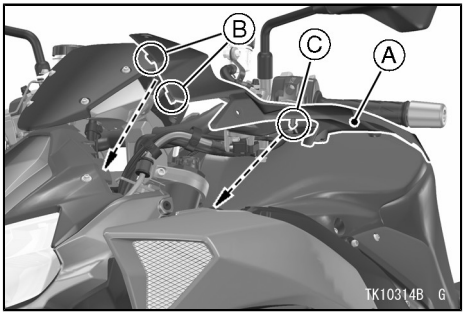
締め付けトルク

インテークダクトカバーボルト：3.0 N·m (0.31 kgf·m)



A. インテークダクト
B. ボルト

- 左インナカウリングを取り付けます。爪をアッパカウリングに引っ掛け、突起をグロメットに差し込んでください。

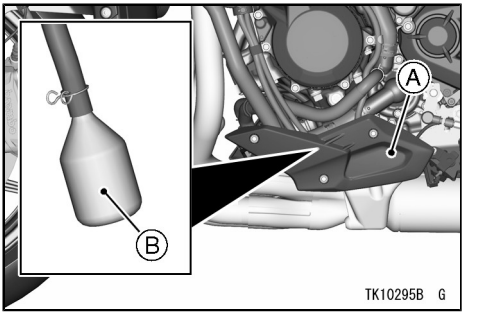


A. インナカウリング
B. 爪
C. 突起

- ボルトとクイックリベットを取り付けます。

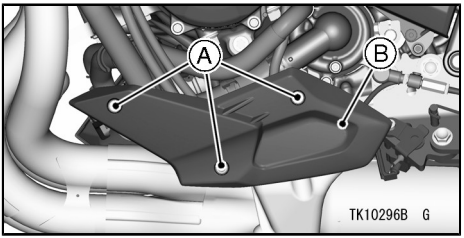
オイルの排出

- 左ロアカウリングの内側にあるキャッチタンクに、エアクリーナハウジングからの水やオイルがたまっていないか点検します。



A. 左ロアカウリング
B. キャッチタンク

- 水やオイルがたまっている場合は排出します。ボルト、ワッシャ、左ロアカウリングを取り外してください。



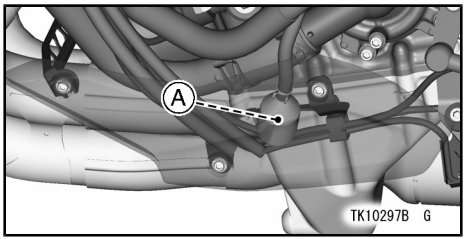
A. ボルトおよびワッシャ
B. 左ロアカウリング

- 排出後、キャッチタンクは必ず元どおりに取り付けてください。

⚠ 警告

キャッチタンクからオイルが漏れるとタイヤに付着し、タイヤが滑りやすくなり負傷や死亡事故につながる危険性があります。キャッチタンクは必ずしっかりと取り付けてください。

- 左ロアカウリングを取り付けるときは、キャッチタンクを図の位置に配置します。

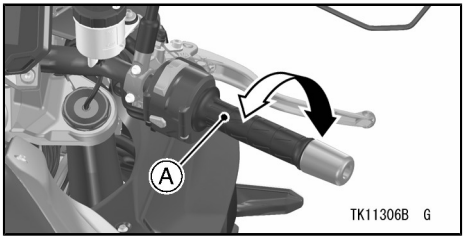


A. キャッチタンク

- ワッシャを取り付けます。
- ボルトを締め付けます。

スロットルの点検

スロットルグリップが全閉から全開までスムーズに動くか点検します。もし異常を感じた場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



A. スロットルグリップ

アイドリング回転速度の調整

アイドリング回転速度は電子制御されており、調整の必要はありません。アイドリング回転速度が不安定な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

[アイドリング回転速度]
標準値: 1 000 ~ 1 200 rpm

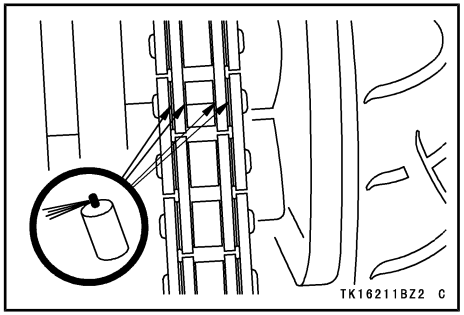
アドバイス

○ エンジン冷間時にはファーストアイドル機構が自動的に働き、エンジン回転速度が高くなります。

ドライブチェーン

給油

- 後輪を浮かした状態で、後輪を手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを柔らかいブラシ等で落とし、カワサキ純正チェーンクリーナを使用して洗浄します。
- 乾燥後、後輪を手でゆっくり回しながら給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。



注意

- **オイルは、カワサキ純正チェーンオイルを使用してください。**
- **この車のチェーンは、ゴムシールを使用しています。ゴムシールの損傷を防ぐためスチーム洗浄は行わないでください。**
- **シンナ、ガソリン等の揮発性溶剤、ワイヤブラシを使用しての洗浄はしないでください。ゴムシールが損傷します。**

アドバイス

○ **雨天走行後、あるいは洗車後も給油してください。**

- 給油後、余分なオイルは拭きとります。

たるみ点検

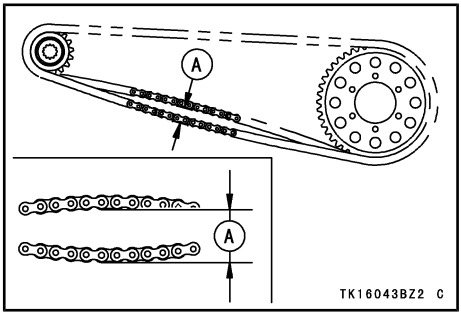
アドバイス

○ **チェーンが汚れていたり、乾いている場合は、洗浄および給油します。**

- サイドスタンドを立てます。
- 後輪を回し、チェーンの張りが最も強くなる位置で、前後のスプロケットの中間部で垂直の動き（チェーンのたるみ）を測定します。標準値外の場合は、調整してください。

[ドライブチェーンのたるみ]

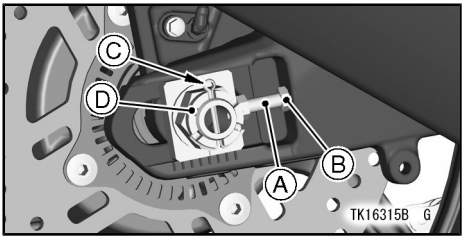
標準値： **20 ~ 30 mm**



A. たるみ

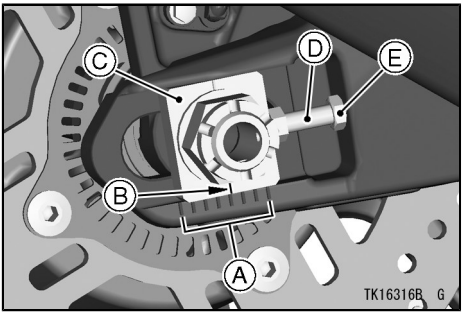
たるみ調整

- 左右のチェーンアジャスタロックナットをゆるめます。
- リヤアクスルナットから割りピンを取り外し、リヤアクスルナットをゆるめます。



A. チェーンアジャスタ
B. チェーンアジャスタロックナット
C. 割りピン
D. リヤアクスルナット

- チェーンアジャスタを回して、たるみを標準値にします。
- ホイールアライメントインジケータの切り込みとスイングアームの目盛りを左右同じ位置に合わせます。



A. 目盛り
B. 切り込み
C. ホイールアライメントインジケータ
D. チェーンアジャスタ
E. チェーンアジャスタロックナット

⚠ 警告

左右のアライメントインジケータの位置がずれていると、チェーンやスプロケットが異常に摩耗したり、走行安定性を失い事故につながる可能性があります。アライメントインジケータの調整位置は左右等しくしてください。

- 左右のチェーンアジャスタロックナットを締め付けます。
- リヤアクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

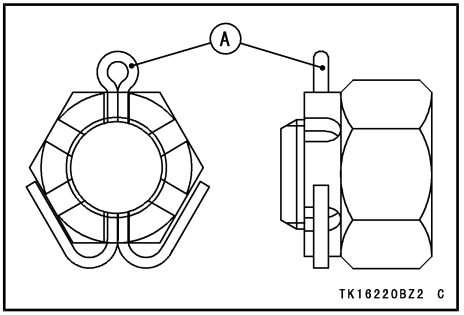
締め付けトルク

リヤアクスルナット：130 N·m (13.3 kgf·m)

アドバイス

○ トルクレンチがない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

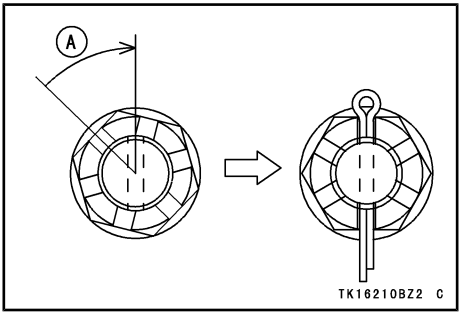
- 後輪を回し、たるみの最も少ない位置で再度たるみを点検します。必要があれば再調整します。
- リヤアクスルシャフトとアクスルナットに新しい割りピンを通します。そして割りピンの両端を折り曲げます。



A. 割りピン

アドバイス

○ 割りピンを差し込むときに、アクスルシャフトの穴とアクスルの穴が一致しない場合は、アクスルナットを時計方向(締め付け方向)に回します。
○ 締め付け角度は30度以内にしてください。
○ 最も近い穴が過ぎた時は、ナットを一度ゆるめてから再度締め付けてください。



A. 時計方向に回す

⚠ 警告

アクスルナットの取り付け不良は走行安定性を失う可能性があり、負傷や死亡事故につながる可能性があります。規定トルクでアクスルナットを締め付け、割りピンを確実に取り付けてください。

- リヤブレーキの効き具合を点検します。

タイヤ

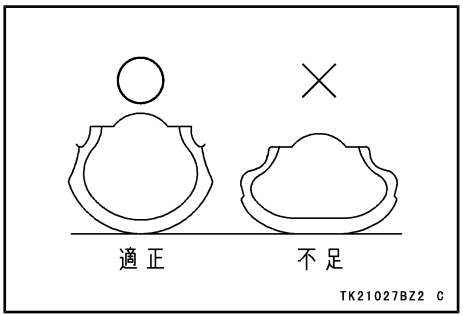
車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが重要です。

⚠ 警告

空気圧が適正でなかったり、タイヤに亀裂や、損傷、異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

空気圧

常に適正な空気圧を保ってください。タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えている時に、タイヤの接地部のたわみ状態により空気圧が適正であるかを点検します。

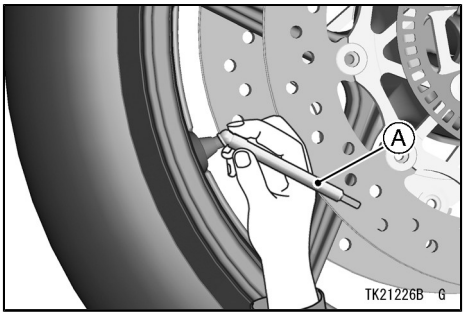


アドバイス

○ タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目では分かりにくいものもあるため、少なくとも1か月に一度はタイヤ

ゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

○ 走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。



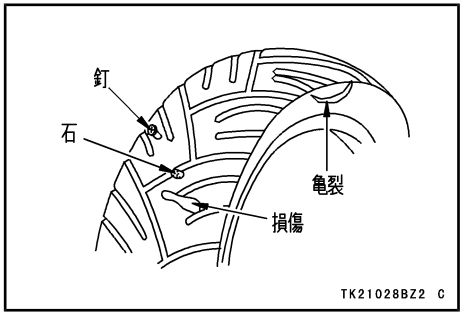
A. タイヤゲージ

前輪	
タイヤ空気圧	250 kPa (2.50 kgf/cm²)
タイヤサイズ	120/70ZR17 M/C (58W)
指定タイヤ	ピレリ DIABLO ROSSO III

後輪	
タイヤサイズ	190/55ZR17 M/C (75W)
指定タイヤ	ピレリ DIABLO ROSSO III
タイヤ空気圧	290 kPa (2.90 kgf/cm²)

亀裂と損傷

タイヤの全周に著しい亀裂や損傷がないか点検します。また、タイヤの全周にわたり、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



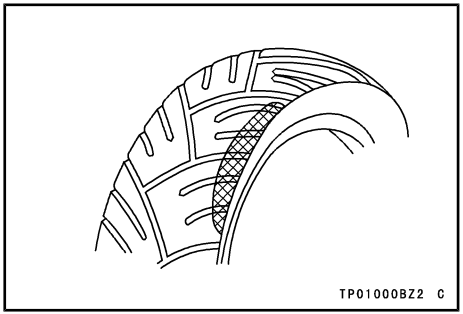
アドバイス

○ 道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越した時は、必ず点検してください。

異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

タイヤが異常に摩耗しているときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



溝の深さ

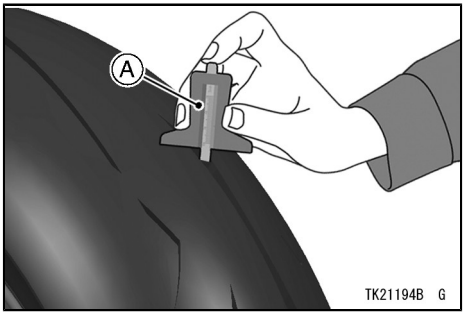
コーナリング、操縦安定性、さらに安全走行のため、二輪車のタイヤは溝の深さが規定以下になりましたら交換をおすすめします。

タイヤの交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

[溝の深さ]

前輪： 1 mm

後輪： 2 mm



A. デプスゲージ

⚠ 警告

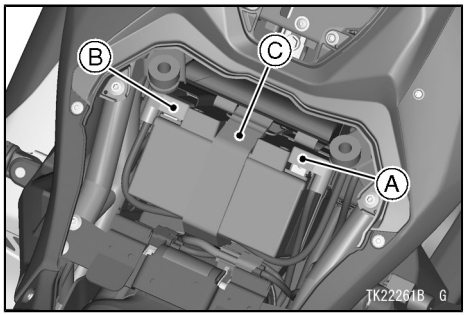
異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車の走行安定性を失い、けがや死亡にいたる事故につながる可能性があります。前後輪同一メーカの指定タイヤを使用してください。

バッテリ端子部の清掃

バッテリ端子部に汚れや腐食がある場合はバッテリをはずして清掃します。

バッテリの取り外しおよび取り付け方

- イグニションスイッチをオフにします。
- 運転者用シートを取り外します(100ページを参照)。
- 黒色キャップをずらし、マイナス（−）ケーブルを取り外します。
- 赤色のキャップをずらし、プラス（＋）ケーブルを取り外します。
- バンドをはずし、バッテリをバッテリケースから取り出します。



A. 黒色キャップとマイナス(−)端子
B. 赤色キャップとプラス(＋)端子
C. バンド

- バッテリの取り付けは、取り外しの逆順に行います。
- プラス（＋）ケーブル（キャップあり）を接続し、それからマイナス（−）ケーブルを接続します。

アドバイス

○ マイナス(−)ケーブル接続時、必ずケーブルの端子をバッテリ端子へ押し当てながら端子ボルトを締め付けてください。

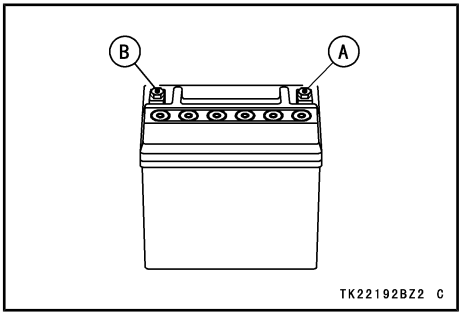
注意

バッテリケーブルの(＋)(−)の接続は逆にしないでください。電気系統が損傷します。

- 取り外した部品を取り付けます。

バッテリ端子部の清掃

- バッテリを取り外します。
- 端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。なお、端子部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭くとよく落ちます。
- 端子部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシ、サンドペーパで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、端子部にグリースを薄く塗布します。



A. プラス(＋)端子
B. マイナス(－)端子

⚠ 危険

バッテリ液は、腐食性が大きく皮膚炎を起こしたり、金属を腐食させる等非常に危険です。万一、目や皮膚等に付着したときはすぐ多量の水で、5分間(目の場合は15分間)以上洗浄して専門医の診察を受けてください。

⚠ 危険

バッテリは引火性ガス(水素ガス)を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発する可能性があります。必ず下記の項目を守ってください。

- **バッテリの整備を行う時は、必ずエンジンを停止させてください。**
- **作業中、バッテリの(＋)(－)端子が工具等により、ショートしないように注意してください。**
- **ケーブルを取り外す場合は、(－)端子から取り外してください。また、取り付ける場合は、(＋)端子を先に取り付けてください。**
- **ケーブルに緩みが生じないよう確実に接続してください。**
- **バッテリにガソリン、オイル、有機溶剤等を付着させないでください。電槽割れの原因になります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

注意

- **この車のバッテリにはシール形バッテリを使用しています。シール形バッテリは液の補充は必要はありません。密封栓をこじ開けて液の補充は絶対おやめください。バッテリが損傷します。**
- **寿命がつきたバッテリを交換する場合は、必ず同型式のバッテリをご使用ください。**
- **使用済みのバッテリを廃却する場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。**

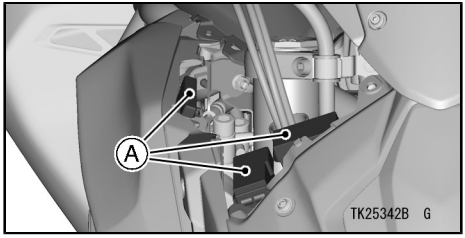
メーカ名	**GSユアサ**
型式	**YTZ10S**

アドバイス

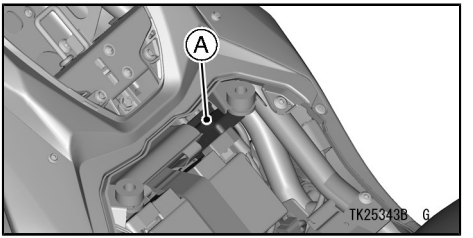
○ エンジンが始動しなかったり、ホーンの音が弱い、ヘッドライトが暗い等の場合は、バッテリが放電しています。バッテリの補充電をカワサキ正規取扱店にご相談ください。

ヒューズの交換

ヒューズは右インナカウリングの下にあるヒューズボックスにあります。メインヒューズは運転者用シートの下にあるスタータリレーに付いています。



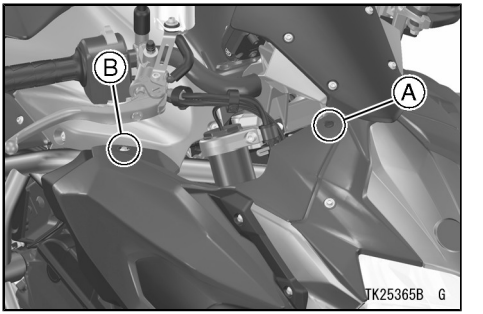
A. ヒューズボックス



A. メインヒューズ

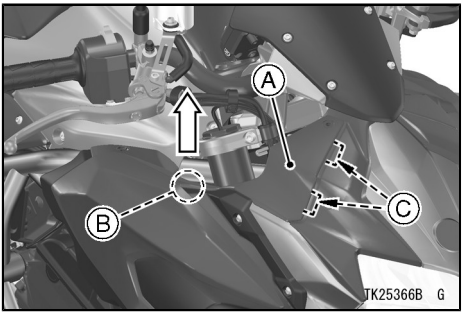
ヒューズボックスへのアクセス方法

- クイックリベットを取り外します。
- ボルトを取り外します。



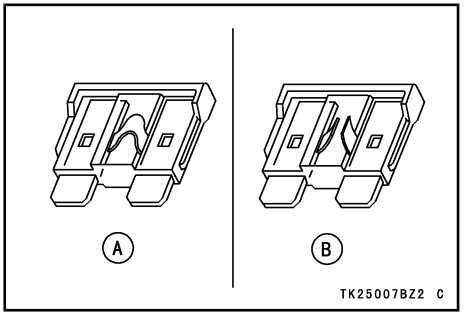
A. クイックリベット
B. ボルト

- 右インナカウリングを引き上げて、突起と爪をはずします。



A. 右インナカウリング
B. 突起
C. 爪

- ヒューズを確認します。ヒューズが切れているときは原因を調べてからスペアヒューズと交換してください。



A. 正常
B. 切れた状態

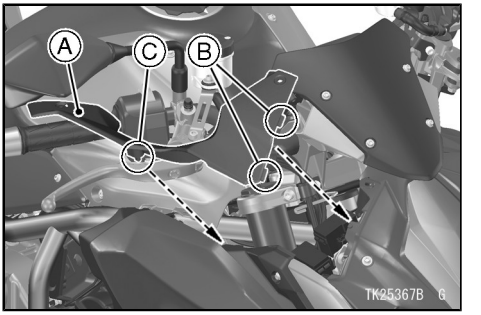
⚠ 警告

指定以外のヒューズを使用するのは火災の可能性があり危険です。かならず指定の容量、規格のヒューズを使用してください。

アドバイス

○ 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、他の原因が考えられます。カワサキ正規取扱店にご相談ください。
○ スペアヒューズを使用した場合は、なるべく早めに代わりのスペアヒューズを補充してください。

● インナカウリングを取り付けます。爪をアッパカウリングに引っ掛け、突起をグロメットに差し込んでください。



A. インナカウリング
B. 爪
C. 突起

車のお手入れ

いつまでも愛車を長持ちさせるため定期的にお手入れを行ってください。隅々まで清掃すれば、普段気づかない異常箇所や摩耗が発見でき、故障予防にもつながります。

⚠ 警告

ごみや可燃物が車体、エンジン、排気系部品の中や周囲に堆積すると、故障の原因となることがあり、火災の可能性も高くなります。

- **ごみや可燃物が車体に堆積するような環境で使用するときは、エンジン、電気部品、排気系統を頻繁に点検してください。**
- **ごみや可燃物が堆積している場合は、屋外に車を停めてエンジンを停止し、エンジンが冷えてから堆積したごみ類を取り除いてください。**
- **駐車や狭い囲われた場所に格納する前に、ごみや可燃物が堆積していないか点検してください。**

注意

通常走行時や雨天時、未舗装路を走行した際、インナチューブに付着した汚れ（砂埃、泥、虫等）は固まる前に清掃してください。付着したまま使用を続けるとオイルシールが損傷しオイル漏れの原因となります。

主な注意事項

- 洗車はエンジンとエキゾーストパイプ等が冷えているときに行ってください。
- シール部品、ブレーキパッド、タイヤにクリーナ等がかからないようにしてください。

注意

コンパウンド入りのワックスや洗剤、硬いブラシまたはやすりなどを使用して塗装面や樹脂部品を磨くと、色むらあるいは傷が入る可能性がありますので、使用しないでください。

注意

ヘッドライトのレンズは樹脂製です。レンズ部分を洗浄する場合には中性洗剤を用いて柔らかいスポンジで行ってください。

- ワックス、洗剤等はコンパウンドを含んでいないものをご使用ください。
- ガソリン、ブレーキ液および冷却液等は、塗装面や樹脂部品を傷めますので、これらを部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。
- 硬いブラシまたはやすり等は、ご使用にならないでください。
- 樹脂部分を傷めないように、充分に注意をしてください。
- 高圧洗車機を使用しての洗車は行わないでください。特に可動部分や電装品に水がかかると、作動不良や故障の原因となります。

- 銀鏡塗装の塗装面に傷がある場合、高圧洗浄機やエアガンを使用すると塗装面がはがれる可能性がありますので、使用しないで下さい。
- 洗車の前に下記の部分に水がかからないようにしてください。
  - イグニションスイッチ
    キー差し込み口にビニールテープを貼る。
  - マフラ後部
    ビニール袋でカバーする。
  - クラッチレバーと左ハンドルスイッチ
    ビニール袋でカバーする。
  - エアクリーナの吸入口
    ガムテープ、または布でふさぐ。
  - フロントブレーキレバーと右ハンドルスイッチ
    ビニール袋でカバーする。
  - シート
    ビニール袋でカバーする。
- 下記の部分には強く水をかけないでください。
  - メータユニット
  - ヘッドライト
  - ディスクブレーキのマスタシリンダとキャリパ
  - シートの下、カウリング内および燃料タンクの下の電装品（スティックコイル、スパークプラグ等が著しく濡れると漏電によりエンジンが始動しなくなることがあります。）
  - フロント／リヤホイールのハブ
  - ステアリングステムヘッドパイプ部
  - スイングアームのピボット部
  - 燃料タンクキャップ
  - スロットルボディアッシ

洗車

- 水を流しながら柔らかい布やスポンジを使って汚れを落とし、水分を拭きとってください。拭きとり作業を行いながら、破損や傷がないかを点検してください。自然乾燥は塗装面を傷めますのでおやめください。
- 汚れが落ちにくいときは、中性洗剤を使って拭きとり、水で充分に洗い流し、水分を拭きとってください。
- 防錆のため、洗車後はドライブチェーン、または各可動部の給油を行ってください。

⚠ 警告

洗車後はブレーキの効きが悪くなり思わぬ事故につながる可能性があります。効きが悪い場合は周囲の安全を確認し、低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させ、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

- **ブレーキディスク、パッドにワックス、オイルを塗らないでください。ブレーキが効かなくなり事故の原因になります。**
- **ディスク、パッドにオイルが付着した場合は、乾燥後オイル成分が残らないような洗浄液で洗浄してください。また、完全に洗浄しきれないときは、パッドを交換してください。**

アドバイス

○ 海岸地域や路面凍結防止剤を散布した路面を走行した後は、直ちに水洗い

をしてください。温水を使用すると塩の化学反応を強めますので、洗車は冷水で行ってください。洗車後は水分を拭きとり、金属部品やクロームメッキ部には防錆油を吹き付けてください。

○ 雨天走行後、または洗車直後等に、ヘッドライト内部に結露による曇りが発生することがあります。ヘッドライト内部が曇った時は、エンジンを始動し、ヘッドライトを点灯させ、しばらくすると、曇りは徐々に消えます。

塗装面

洗車後はワックスがけしてください。ワックスは3か月に一度、または必要に応じてかけてください。

アドバイス

○ それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項を必ずお守りください。

つや消し塗装

中性洗剤と水を使って、汚れを落としてください。塗装面は強く擦ると、つや消しの塗装面につやが出るおそれがあります。不明な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

樹脂部品

洗車後、樹脂部品に残った水分は柔らかい布で丁寧に拭きとってください。乾燥後は樹脂部品専用のワックス／ポリッシュをご使用ください。

注意

- **樹脂部品にガソリン、ベンジン等の有機溶剤が付着すると部品の損傷の原因となります。付着した場合は直ちに水、または中性洗剤で拭きとり、損傷がないかを点検してください。**
- **コンパウンド入りの洗剤や硬いブラシの使用は塗装面に傷を入れる可能性があります。使用しないでください。**

長期間の格納

長期間、車を使用しない場合は下記の要領で手入れをしてください。

アドバイス

○ **油脂類の廃却は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、カワサキ正規取扱店にご相談ください。**

格納のための準備

- 車全体を念入りに洗浄します。
- エンジンを充分に暖機後、エンジンを停止します。そして、ドレンボルトをはずし、エンジンオイルを排出します。
- ドレンボルトを取り付け、オイル注油口キャップを取り外し、新しいエンジンオイルを入れます。
- オイル注油口キャップを取り付けます。
- 燃料タンクの燃料をすべて排出します。

⚠ 警告

燃料を排出するときは、通気性のよい、火気のない場所で行ってください。

- タイヤの空気圧を2割減らし、前後輪の下に防湿のために板を敷きます。

- メッキ部には防錆油を吹き付けます。ただしゴム部品とブレーキは避けてください。
- ドライブチェーンとすべてのケーブルに注油します。
- バッテリを取り外します。直射日光の当たる所、湿気の多い所、温度が非常に低い所等には保管しないでください。また、1か月毎にバッテリの補充電を行ってください。
- マフラに水が入るのを防ぐためにビニール袋でカバーします。
- 防塵のため車全体にカバーをかけてください。

格納した車を使用する時には

- マフラからビニール袋を取り外します。
- タイヤの空気圧を正規の値にします。

前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm²)

- バッテリの補充電を行います。
- 燃料を入れます。
- 車体各部に注油します。
- 日常点検の項目に従って点検します（メンテナンスノートの日常点検項目、日常点検の方法をご覧ください。）。

環境保護について

● 車、または使用済みの部品・オイル等を廃棄するときは？

環境保護のため、使用済みのバッテリやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。これらのものを廃棄するときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。また、将来お車を廃棄する際は、お近くの廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

● 廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会に登録されている販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されている廃棄二輪車取扱店です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口であり、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪車取扱店の証（230 mm × 200 mm）

● 二輪車リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化するための費用です。

二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けされている二輪車は、リサイクル費用がメーカ参考小売価格に含まれていますので、あらためてリサイクル

料金をお支払いいただくことはありません。ただし、運搬または収集する費用は含まれておりませんのでお客様から廃棄二輪車取扱店、あるいは指定引取場所までの運搬または収集費用はお客様の負担となります。

● 二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行、部品販売の取り扱いはいたしません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等については、カワサキのホームページまたは、（公財）自動車リサイクル促進センターのホームページでご確認ください。



二輪車リサイクルマーク（30 mm × 30 mm）

● 廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車のお取り扱いに関しましては、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記までお問い合わせください。

カワサキホームページ
https://www.global-kawasaki-motors.com/environment/recyc01.html

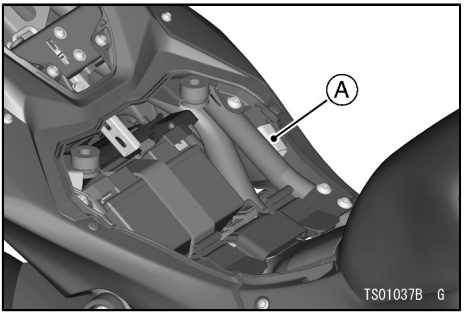
TP01110B Z1 S

（公財）自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

TP01102BZ1 S

DFI自己診断システムコネクタの位置

DFI自己診断システムコネクタはシートの下にあります。



A. DFI自己診断システムコネクタ

車両情報の記録に関して

カワサキでは、この車に搭載されているコンピュータにカワサキ車専用ツールを接続し、記録されている情報を取得する 事があります。取得した情報は車両の点検や故障診断、研究開発、法規適合確認を目的に利用する事があります。

取得する情報はモデルやグレード、地域によって異なりますが、主な項目は次のとおりです。

- エンジンや車体の電子制御装置に記録されている使用状況や設定などの情報
- 排気ガス規制に関連する情報

なお、この車に搭載されているコンピュータは音声や映像を記録する事はございません。

取得した情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。

- お客様（または使用者）の同意を得た場合
- 行政や司法機関より法的に要請された場合
- お客様（または使用者）個人や車両を特定せず、加工した情報を研究開発や統計調査などに使用する場合。

万一の故障に備えて

日常点検、定期点検を欠かさず行っていただければ、不測のトラブルは未然に防止することができます。万一故障の場合は応急処置を行って、お買いあげいただいたカワサキ正規取扱店へ修理をお申しつけください。

エンジンが始動しない

スタータが回らないとき

- イグニションスイッチはオンになっていますか。
- ヒューズが切れていませんか。
- ギヤがニュートラルになっていますか。
- バッテリケーブルは確実に接続されていますか。
- バッテリはあがっていませんか。

スタータは回るが始動しないとき

- 燃料タンクに燃料が入っていますか。
- 燃料系統が詰まっていませんか。
- 燃料の品質が低下していませんか。
- スパークプラグはゆるんでいませんか。
- スパークプラグは正常ですか。
- スパークプラグギャップは正常ですか。
- スパークプラグはかぶっていませんか。
- 転倒後、一度イグニションスイッチをオフにしましたか。
- 車に登録されているイグニションキーを使用していますか。
- イグニションキーの周りに他のキー等の金属部品で通信不良が起こっていませんか。

エンジンが止まる

1速に入れたとき

- クラッチの切れは正常ですか。
- サイドスタンドが降りたままになっていませんか。

走行中に

- 燃料は入っていますか。
- 燃料タンクキャップのエア抜き穴が詰まっていませんか。
- エンジンオイルはありますか。
- バッテリはあがっていませんか。

イベントデータレコーダ

他の多くの自動車メーカーと同様に、カワサキもこの車にイベントデータレコーダ（EDR）を装備しています。この装置は、一定条件の事故や事故に近い状況が発生したときにのみ、事故発生の直前から事故発生中に車両システムがどのように作動していたかを理解するためのデータを、短時間記録するように作られています。

アドバイス

- **通常走行時もデータは常に記録され上書きされていますが、イグニションスイッチをオフにしたときに消去されます。**
- **事故発生時以外にEDRデータが、後で読み出しできるように保存されることはありません。また、全ての事故がEDRデータとして保存されるものではありません。**
- **この装置に個人情報（例：氏名、性別、年齢）が集められ記録されることはありません。**

このデータにより、事故発生時車両がどのように作動していたかを、運転者とメーカーの双方がより良く理解するのに役立ちます。この車のEDRは、次のような事故時の車両走行状況を示すデータのみを記録するよう設計されています。

- 走行速度
- エンジン回転速度
- スロットル開度

EDRが記録したデータを読み取るには、特殊な装置をEDRに接続する必要があります。カワサキは、警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合を除き、あなたの承諾なしにEDRの情報を提供することはありません。

お客様相談室

名称	電話番号	郵便番号	所在地
(株)カワサキモータースジャパン お客様相談室	フリーコール：0120–400819 *フリーコールは携帯電話からもご利用いただけます。 受付時間　月曜 ~ 金曜 （祝日および当社休業日を除く） 9：00 ~ 12：00、 13：00 ~ 17：00	〒673–8666	明石市川崎町1番1号

国土交通省ではリコール業務を円滑に行うため、お客様の安全や環境に大きな影響を及ぼすと判断される場合の情報窓口を設定しております。

●自動車不具合情報専用ダイヤル：「自動車不具合情報ホットライン」

フリーダイヤル：0120–744–960 （受付時間 9：30～12：00、 13：00～17：30）

24時間電話受付：03–3580–4434 （年中無休・24時間）

●国土交通省のホームページ：https://www.mlit.go.jp/ → 自動車不具合情報コーナー



TP01103BN1 S

リコールについてのお願い

リコールとは、クルマの構造・装置の不具合による事故を未然に防止することを目的とした制度です。
同一型式・一定範囲のクルマについて、構造・装置・性能などが、安全・公害防止の規定（保安基準）に適合しなくなるおそれがあると弊社が判断した場合に、その旨を国土交通省に届け出て、おクルマをご使用のお客様にご連絡し、無料で修理するものです。
なお、保安基準にかかわらない場合でも、対応の必要があると判断した場合には「改善対策」や「サービスキャンペーン」を行っております。

＜改善対策＞
改善対策とは、保安基準にかかわらない場合でも、弊社が安全確保・公害防止の観点から必要と判断した場合に、ご使用のお客様へご連絡し、責任を持って修理するものです。

＜サービスキャンペーン＞
サービスキャンペーンとは、商品品質改善等の観点から、弊社が必要と判断した場合に、ご使用のお客様へご連絡し、責任を持って修理するものです。

適合宣言

アメリカ合衆国:

Each radio frequency device installed in the vehicle conforms to the requirements and standards of the regulation below:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

TR01095B S

カナダ:

Each radio frequency device installed in the vehicle conforms to the requirements and standards of the regulation below:

This device contains licence-exempt transmitter(s)/receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause interference.
(2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

TR01096B S

Chaque dispositif de radiofréquence installé dans le véhicule est conforme aux exigences et aux normes du règlement ci-dessous:

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:

(1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage;
(2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

TR01097B S

バッテリに関する補足情報

バッテリ全般に関する情報

ここでは、車両に搭載されているモーター駆動バッテリ、12 Vバッテリ、ボタン型電池に関する追加情報を提供します。使用前によく読んでバッテリについて理解してください

⚠ 危険

電解液が衣服、皮膚、目に付着すると、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります。衣服、皮膚、目についた場合は、すぐに多量の水で5分以上（目の場合は15分以上）洗い、専門医の診察を受けてください。

⚠ 警告

バッテリを不適切に取り扱うと、感電、重度の火傷、重傷または死亡を引き起こすおそれがあります。以下の注意事項を厳守してください。

- 火花、火または高温を引き起こす可能性のある熱源から遠ざけてください。
- 子供やペットの手の届かないところに保管してください。
- 落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 端子部に金属などを触れたり、接続したりしないでください。
- 水をかけたり、濡れた手で触れたりしないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 破損、変形、水没した場合は絶対に使用しないでください。
- 煙や異臭がした場合は、すぐに使用を中止してください。

注意

バッテリを不適切に取り扱うとバッテリが損傷するおそれがあります。以下の注意事項をお守りください。

- 落としたり、衝撃を与えたり、穴を開けたり、変形させたりしないでください。
- 上に重いものを置かないでください。
- 火花、火または高温を引き起こす可能性のある熱源から遠ざけてください。
- バッテリの排気穴を絶対にふさがないでください。

注意

外気が寒いまたは暑い環境でバッテリを使用または保管すると、バッテリが凍結または過熱し、損傷する可能性があります。外気が冷たい、または暑い環境で使用、保管しないでください。

注意

他のバッテリや金属製品とショートすると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。保管、輸送、廃棄する場合は、端子をテープなどで絶縁してください。

注意

バッテリを電子レンジや高圧容器に入れると、バッテリが発熱、破裂、発火することがあります。電子レンジや高圧容器に入れないでください。

注意

銘柄や種類の異なる電池、新旧の電池を混ぜて使用した場合、電池は特性の違いにより、液漏れ、発熱、破裂することがあります。新旧の電池を混ぜないでください。

注意

バッテリを逆接続したり、接続を誤ったりすると、バッテリや電気系統が損傷する可能性があります。バッテリの損傷を防ぐために、接続が正しいことを確認してください。

注意

規定の充電時間を超えて充電を続けると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。規定の時間内に充電が完了しない場合は、バッテリまたは充電器の故障と考えられますので、充電を中止してください。

注意

バッテリが静電気にさらされると、静電気により爆発する可能性があります。点検や整備の前には、車両の金属部分を素手で触って静電気を逃がしてください。

注意

ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤や洗剤などでバッテリを清掃すると、バッテリの劣化や液漏れの原因となります。清掃には使用しないでください。

アドバイス

○ 必ず本書に記載されている仕様・性能のバッテリをご使用ください。

ボタン型電池の追加情報

⚠ 危険

電池を飲み込むと化学火傷や粘膜組織の貫通を引き起こし、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります。お子様の手の届かないところに保管してください。電池を飲み込んだ場合は取り出す必要がありますので、直ちに医師の診察を受けてください。

注意

充電するとガスが発生したり、内部構造が損傷し、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となることがあります。絶対に充電しないでください。

注意

長時間接続したままにすると、電池から発生するガスにより、電池を漏液、発熱、破裂、発火させたり、機器を破損するおそれがあります。長期間デバイスを使用しない場合や、電池が消耗した場合は、デバイスから取り外してください。

注意
電池をはんだ付けすると、熱損傷による液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。絶対にはんだ付けをしないでください。

注意
機器によっては、電池ホルダーの金属部分が電池の（＋）、（－）端子に接触する場合があります。電池がショートしないように機器に取り付けてください。





ZR1000P/R

カワサキモータース株式会社

* 9 9 8 1 7 - 0 1 1 9 *

Printed in Japan